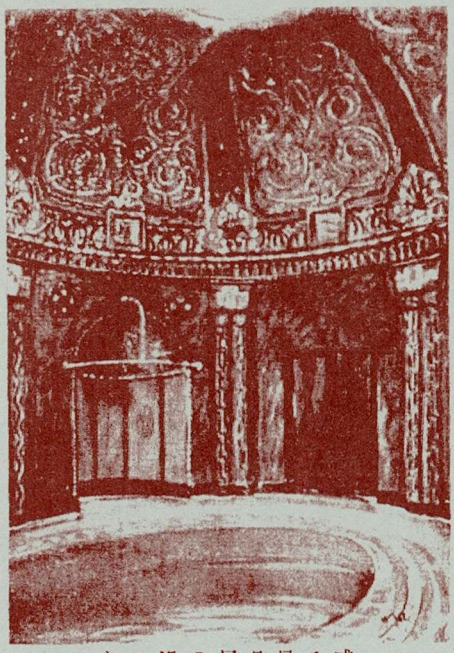
建築ト社會

第四輯　第二号



或る風呂屋の湯ふれ
（獨逸）

大正十年二月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントス希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

四　普通賛助員―建築ニ關係ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ノ途用ヲ終身賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルトコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭、理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

第二十條　會員ニシテ滯納金圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



日本エレベーター製造株式會社

大阪市東區中道川西町五百六十一番地　電話南三八〇五番

營業種目

エレベーター、リフト
コンベヤー
（東松）捲上機械
クレエン
高架索道及諸機械
右設計及製作
試運轉各種機械裝置
高保安實驗設備

出張所　東京市丸之內東京驛前海上ビルヂング六階、六一九號、六二〇號室　電話丸之內本局九六〇二番

特約販賣店　東京市麹町區永樂町　高田商會本支店出張所

代理店　大連市山縣通古番地　日米公司　電話二二七〇・二〇四五番

代理店　朝鮮京城府長谷川町八十五番地　日米公司　電話二五三〇番



建築と社會　第四輯第貳號目次

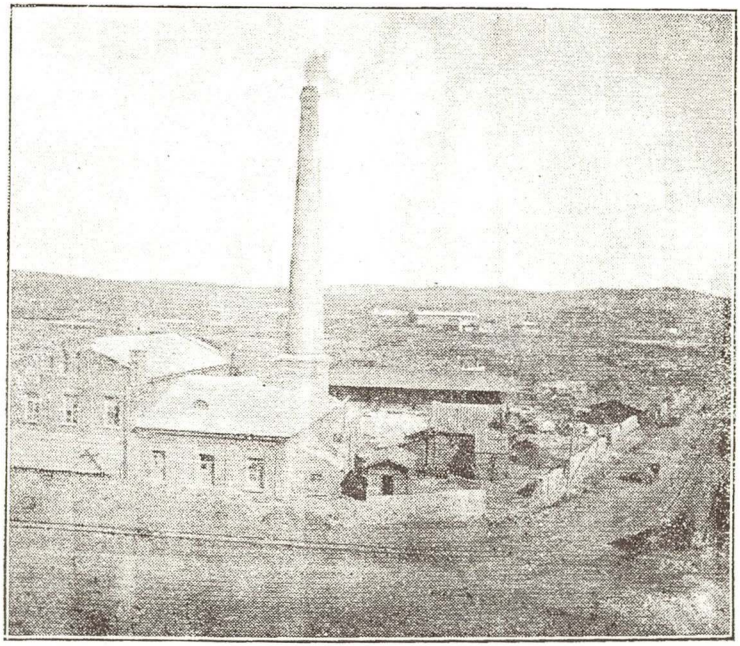
□繪　△……（△或るミユジアムの模型……（獨乙）
　　△或る林間學校々舍……（獨乙）

〔卷　頭〕……
◉改造の機運と不斷の努力……一
〔論　說〕……
◉都市計畫事業と市民の覺悟……二
◉市街地建築物一般構造設備　建築監督官　井尻義雄……六
◉市街地建築物構造強設　建築監督官　中西甚作……一一
◉市街地建築物法の意義　工學博士　內田祥三……一九
◉我國に於ける寢室、便所、洗面所乃至臺所私見　醫學博士　靑柳眞一……二五
◉使はるゝ人と使ふ人（畢）　日本建築協會終身賛助員　有山福重郎……三一
〔研　究〕……
◉法隆寺古建築に就て（中）　工學博士　天沼俊一……四〇

◉ボストン市建築條例鐵筋混凝土に關する規定研究(一)……會員 早大工學士 伊藤正文……四六
〔都　市〕
◉將來の市加古市(9)……ウオルター・ディ・ムウデイ著 Z Y 生譯……五二
〔住　宅〕
◉住宅研究(二)……建築士 工學士 葛野壯一郎……六一
◉横濱市に於ける「勞働合宿所」……一記者……七〇
〔庭　園〕
◉日本庭園考(十)……會員 農學士 大屋靈城……七四
〔談　叢〕
◉茶臼山と大長寺二男爵邸の「閑地」物語……吉村美代子……八〇
◉私の經驗した郊外生活と購買組合……高原時子……八三
〔藻　苑〕
△小　品……△俳　文……△和　歌……口俳　句……
▲時　報……八八
▲會　報……九四

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課・南滿鐵道會社・大阪府廳・市役所
其他諸官省・有力土木建築設計家各位・實驗證明



顧問技師　工學士　雨宮泰雄

相談役　前野芳造

營業目的

滿州産
青色大理石、黑色大理石
鹿兒島產白色硅藻土
白色硅石及硅石粉、酸化マグネシューム粉末、濟蒙セメント各種、雜礦石
海水石鹼

舖床材料

耐火リノリウム（專賣特許出願中）

耐水、衛生、保温、美觀、低廉

土木建築用防水劑

ホースイ（專賣特許出願中）

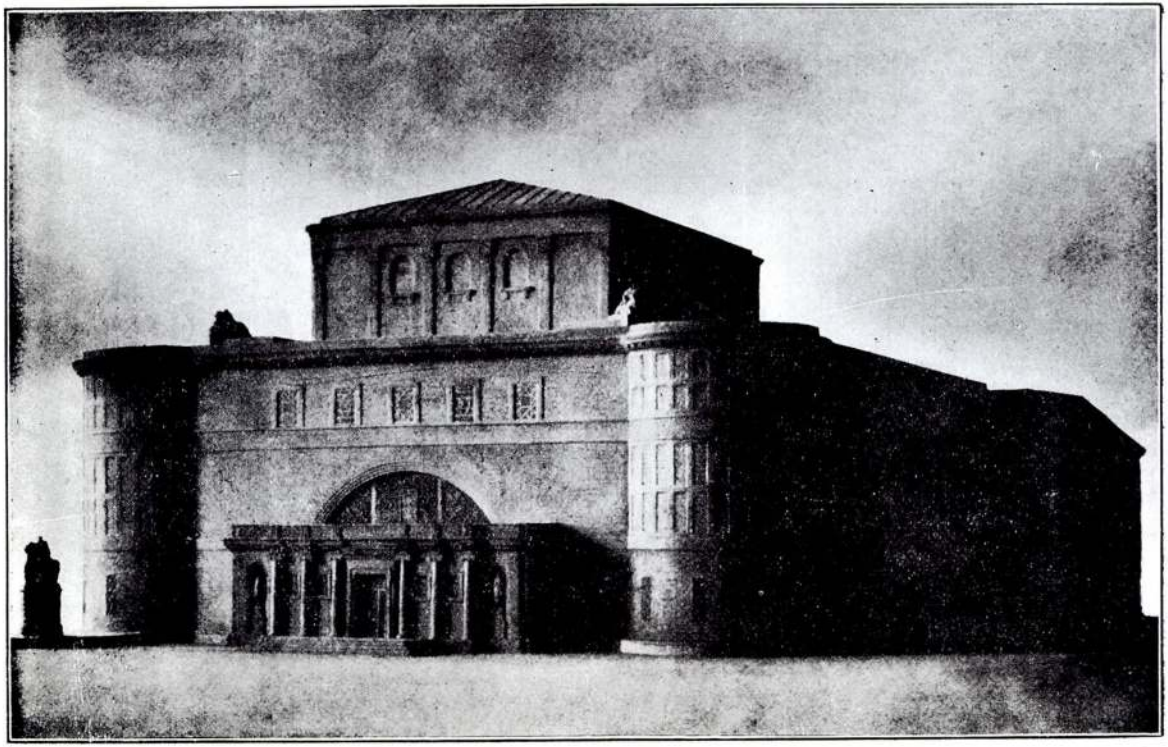
品質內外品ニ優リ價格低廉

滿蒙化學研究所代理店

大阪市北區安治川一丁目十五番地

大阪耐火リノリウム工業合資會社

電話西（營業用）四五九長二五五四（三六三三）



或るミュジアムの模型　（獨逸）



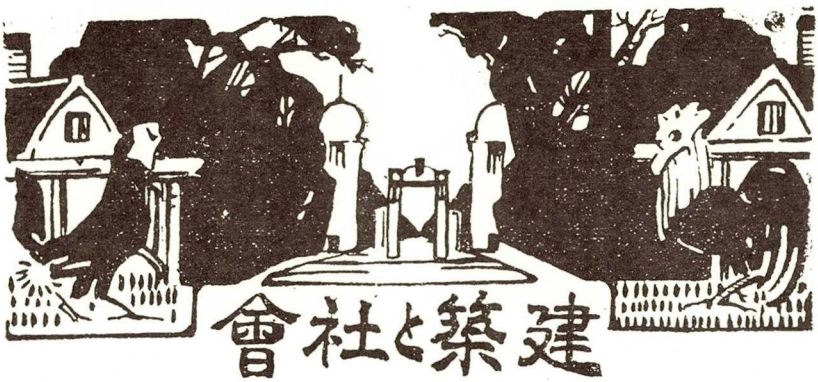
或る林間學校　（獨逸）

會告

左記會員諸氏御轉居先不明にて事務取扱上不便勘からざるに付住居御存の方は乍御手數御一報被下度候

日本建築協會主記

川村秀介　大阪市西區上福島北三ノ一九〇九　小谷方
高畑護　京都府宇治郡宇治村木幡　松尾玉方
安西伊之助　大阪府東成郡古市村字森小路七〇〇
藤井潔　大阪府東成郡天王寺村字口中道二一八九
小牧莊三　宮崎縣宮崎郡宮崎町宮園二七
肥塚房春　神戸市平野矢部町二六一
南錄郎　大阪市北區府立醫科大學建築事務所
三宅重二郎　大阪市外鷺洲町浦江八返田
森勝義　大阪市東區清水谷町西ノ丁三五四　長嶋方
瀨上友吉　靜岡縣田方郡三島野砲兵第三聯隊新築工場　大林組内
鈴木吉兵衞　東京市淺草區北富阪町二〇
菅原文太郎　北海道函館區相生町三二
東松孝時　大阪市西區安治川通一



改造の機運と不斷の努力

現代社會のあらゆる方面に於て革新改造が擡頭しつゝあるこれは積年の餘弊に耐へられなくなつた先覺者の公憤から起つた輿論であるに相違ない。同時に現代社會に發生しつつある此等の缺陷を補塡改訂すべき機運の到來を暗示して居るものであろう。

乍併積弊の打破、新運の開拓といふ事は一朝一夕に出來得るものでない。一に機運の到來、二に輿論の勃興、而して三に志士の間斷なき努力である。赤裸の誠意を捧げ來る志士の輩出、理想に向つて突進する人士の不斷な努力が建設的効果を導き來らざれば、到底大目的の貫徹は遂げられまい。

建業界の將來は一に係つて此等諸士の誠意ある努力に賴らなければならぬ。而して不斷の精進は勇猛なる志士の齎らす所でなければなるまい。



都市計畫事業と市民の覺悟

(一)

國家に盛衰興亡の跡あるが如く、都市も亦隆頽消長の歷史を書くものである。都市の消長は必ずしも國家の盛衰に關聯せざる場合もありとせらるゝが、多くは國家の興亡に密接なる關係ある事は爭はれない。乍併都市より觀たる隆頽の因は都市を形成する市民の覺悟如奈にあることの、恰も國家が國民元氣の興亡に於けると同樣であることは、動かすべからざる原則である。

國家が天賦の富源を開發して隆昌の因を造り天然の恩惠に浴して自然的發達の道を得る如く、都市も亦地の利を占め、形勝の域に展開して、天來の福音に無限の活力を發揮する場合も甚だ多い。乍併都市の重要なる役者が其唯一の舞臺を飽くまで自己のものとして之が活用の道を講じなければ、天與の恩惠も何等の價値が現はれぬに相違ない。實に天賦の恩惠も利用原生の人爲的劃策がなければ猫に黃金である殊に近代都市の進步發達は必ずしも天然の形勝に藉らず、地域の恩惠に浴せずして都市市民の勃興的

時代精神の活躍から起つた場合が甚だ多い。都市が自由不羈なる市民の集合地であるが爲に前代未聞の繁榮を遂げ、進んで世界文明史上に偉大なる貢献を寄與した都市は、文運復興以後の世界に於て甚だ多い事は人の識る處である。

想ふに近代的民衆文化の發生地は都市に在ると考へられる。國家の智能ある民衆が都市に集合し來れる結果であるにしても、都市の發達向上がやがて國家隆昌の因となる所以は茲にある。して見ると都市の將來を開拓するの運命を負ふ所の市民は其責任の重大であることを忘れてはならないのである。歴史が時代によつて變遷進退の跡を畫くはやがて時代の國民精神の消長に由るものとするならば、國家が時代の進潮に鑑みて國民精神の指道改善を畫策し、以て進運に順應するの道を講ずるは國家としては當然の義務である。都市に於ても時勢の進運に對しては決して風馬牛の態度を執る事は出來ない。飽くまで市民の精神を開發誘導して時勢に順應するの努力を怠つてはならない事である。

(二)

都市發達の由來に三樣の別がある。往古に在つては主として天然の恩惠に藉つた都市が繁榮した。自から諸民の交易集合に便なる交通の要路は、轉て都市の中心地となつて居た。中古に在つては軍事上要害の形勝は人民の安息所となり避難所となり、所謂城下町なるものが發達した此等の天然的形勝や、地理的要害の城下町は、國王或は政事家の手腕畫策の如何によつて其秩序を保ち、安寧を樂しみ、外敵の襲來を防禦した、從つて個人の力がよく民衆の幸福を左右して隆昌盛衰の鍵を把握してゐた。

近代都市に在つては天然的、地利的恩惠に浴するの外、産業革命の影響を蒙つて、商工業の繁榮となり、都市は民衆の自治的經營に賴る傾向となつた。そして自然的形勝に加へて人爲的の經營の努力と相俟つて、都市は科學的の發達を遂げて來た。殊に歐米の諸都市は民衆の自覺猛烈にして、夙に市民の愛

市心を尊重し、市民中の先覺者は民衆の安寧幸福を增進するが爲にあらゆる研究の資料を收集し、圓滿なる都市の發展を畫策する機運は增大し、各國各市多年の努力空しからず、各市各樣の發展を遂げ進んで文化生活の理想を實現し來れるは、近代文化の興隆と共に著しき事實である。

彼等が彼等の都市の繁榮を畫策するや、深く都市成立の起因を探り、都市の現狀に鑑み、將來の運命を打算して俱に永遠の利益を享有するの大計を樹立し、之れが實現に方つては、凡ゆる努力を實行したのである。其結果に到つては夫々其都市の特色ある面目を發揮し來り、各種各樣の旗色を明示しつゝあるは寔に興味ある現象であり、其一得一失の成績に於ては比較し研究する程趣味多き他山の石である。

今や我國都市も漸く覺醒の域に進み、時代精神の進運に鑑みて科學的文明都市の建設改善に着手したのは、先覺者の指導其宜しきを制したが爲であるにしても機運の到來と天下の輿論に合致したるが爲であつて、我國都市が其仍つて立つ自然的恩惠に、更に人爲的經營を敢行せんとするは寔に進取的精神の發露せるものであることは爭はれない。これ吾人の欣快措く能はざる處であると同時に、我國諸都市の市民は更らに進んで當局者の畫策を理解し、各人各樣の理想を眞面目に提出し、和衷協同策應の道を講じて行かねばなるまいと思ふ。

(三)

殊に我國諸都市の市民諸君に向つて希望して止まざる處は、都市計畫事業の將來をして都市文化生活の基調たらしむる點に在る。一口に六大都市とはいへ大阪には大阪の特色を發揚し、東京市には東京の特色を打出する點に考ふる處なくてはなるまい。大阪の發展は近來目醒ましきものがある、だが近代大阪の市民は大阪の過去現在及將來に亘りて大阪市が發露すべき本來の面目を一日も忘却してはならない單に他國都市の發達の跡を觀て之れに倣ふ丈の事業を畫策して能事終れりとするならば寧ろ爲さゝるに

如かず。飽くまで日本の有力なる都市としての位置に鑑み、日本の大阪をして世界の大阪たらしめ、以て代表的好箇の日本大都市を築き來らざれば、一時的効果は立派であつても、永遠の榮達は決して望まれないのは事實である。近代都市として通有なる科學文明的施設は數々ある、此等の施設は夫々適當なる利導方法を講じて得らるゝにしても、此等の文明的施設は、基本的市民の自治精神が活躍しなければ駄目である。市民の自治的精神は市民の理解ある覺悟に頼るの外はない。都市計畫事業に關與しつゝある委員諸氏は多數市民をして此大事業の目的、性質並びに其結果に就いて更らに徹底的理解を求むるの必要がある。都市計畫事業は決して一時的興業的、流行的事業でない。又小數人士の私すべき事業でもない。況んや特色ある都市の面目を發露して意義ある將來の文化生活に連關する重要緊急の事業であるが爲に、今一層市民の理解を求め、今一層市民の覺悟を促し、今一層市民の自奮を起さしむることに務力して欲しい。歐米諸都市に在つては市民の智識を開發自啓せしむる爲に、常に此等事業の解剖的說明を怠らないのみならず、三尺の兒童をしてよく其意義を知らしむるに汲々として居る。實に都市計畫事業が吾々一代の事業でなく子々孫々の將來を考慮したるものである以上は市民の兒童をして理解あらしむるは策の得たものであるに相違ない。

今や當局者は此大事業の財源を求むるが爲に新稅の附加を立案中の由なるが、一般市民の理解尙淺く遊覽稅遊興稅の如きは却つて反對の氣聲起れりと聞く。或は淀屋橋筋市民の二十四間道路に對する無理解解の欲求の如きは其著しき事例ではあるまいか。此際更らに一般市民の都市計畫事業に對する徹底的理を希望して止まないと同時に、當局者並びに委員會諸氏は本事業をして市民の興味ある理解を得せしむることに努力するよう愼重の考慮ありて然るべき也。

市街地建築物一般構造設備

建築監督官　井尻義雄

本編は、曩に日本建築協會の講演會に於て講述されたるものに係る、其全責任は記者に在り

市街地建築物法は昨年四月に出まして二十六條ありますが、第一條から第六條までは地域の事に就いて書いてあります、住居地域、商業地域、混合地域、及び工業地域の事を規定してあります。本年九月に出ました施行令も第一條から第三條まで矢張り此の地域に就いて詳細に書き擧げて居ります。法の第七條から十條までは主として建築線に關して種々な規定が設けてあります。十一條は建築物の高さ及び敷地内の餘地に關して規定してあります。施行令の方は四條から十三條まで建築物の高さ及び敷地内の餘地に就いて細かい規定が設けてあります。法の十二條に於きまして衛生保安に關する事、十三條は防火に關して、十四條は特殊建築物、學校とか、病院とか、劇場とか言ふものに就いて規定し、十五條に參りまして美觀地區の事を書きまして、十六條に工事施行の事が擧げてあります。第十七條、十八條は措置命令に關し、十九條、二十條は罰則の規定であります。二十一條二十二條は訴訟とか訴願とか言ふ事に關して規定し、二十三條に參りまして法の適用區域に關する規定があります。二十四條には工事中の建物に就いて規定し、最後の二十六條には道路建築線の事に關して規定してあります。此の市街地建築物法に於きましては、幅九尺以下の道路は之れを道路と看做さないのであります。施行令に於きましては、損失、保證に關する規定を設けてあります。法と施行令との關係は大體斯う言ふ風であります。

市街地建築物法施行規則は十一月九日内務省令を以て公布されたのでありますが、順を逐うてお話

致しますと、第一章は通則と致しまして、第一條に種々の用語の例を示してあります、居宅の意義地階の意義、屋階の意義、其の次に床高、階高、天井高、外壁、間壁、界壁、不燃材料、耐水材料壁體の耐火構造、床又は屋根の耐火構造、柱の耐火構造、階段の耐火構造、甲種防火戸、乙種防火戸、建築物の修繕とは如何なるものなるか、建築物の大變更とは如何なるものであるか、と言ふ規定であります。第二條には規則の適用を規定し、第三條には建築物の採光、換氣、防火、避難、清潔、強度等の衛生的指示を規定してあります。

第二章は建築物の突出部に就いて規定してありますが第四條、五條、六條がそれであります。

第三章は建築物の構造、設備の規定で第七條から九條までは敷地の事が記してあります、其の次に下水の事を書き上げまして、第十一條には便所畜舍等より排出する汚物に對して汚物溜を設ける場合には怎う言ふ具合にすべきかと言ふ事が書き上げてあります。それから便所、畜舍から出て來る所の汚物の處理法が規定してあります。其の次に第十三條は汲取便所に關して細かい規定を設けて居る。第十四條は井戸と便所及物汚溜の距離の關係に就いて規定して居ますが、之れは普通三間以上の距離がなければいかぬ構造設備又は土地の狀況に依つて衛生上差支へなしと地方長官が認めた時は此の限りにあらずと言ふ事になつて居ります。第十五條は建築物の壁體にして直接土壤に接觸する部分は耐水材料を以て構造すべしと規定し第十六條は居宅の床地盤面下に在る建築物に在りては最下階の居宅の床又は其の床下は耐水材料を以て構成し其の壁體及床下には適當なる防濕方法を施さなければならぬと規定してあります。其の次には床高の事を擧げまして、床高は一尺五寸以上でなければならぬと規定してあります。居室の天井の高さは七尺以上でなければならぬと言ふ事があります、現今の大阪の天井高は七尺五寸であつたかと思ひます。其の次には窓の事を細まかく規定してありますが、一度讀み上げて申します。第十九條、居室は其の室面積の十分の一以上の有効面積を有する窓又は之れに代るべき採光面を有

すべし、前項の採光面幅三尺以上の縁側を隔つる場合は其の採光面積の二分一を有効面積と看做す此の場合に於て濡縁は縁側と看做さず、約り、日本座敷の十疊の部屋でありまし〕ならば、天井が縁側なしに外に引付いて居る場合は一丈の採光面があれば宜いのでありますけれども、三尺隔てがあると二丈だけの採光面がなければならぬと言ふ事になつて來る。其れから境界線であつて、餘りに近接して建てますと窓を明けられない規則になつて居りますが之れを讀みますと、窓の部分より直上屋根面に至る高さは住居地域内に於ては其の面する隣地境界線までの水平距離の二倍半を要す、商業地域内は五倍、住宅地域及商業地域外に於ては四倍を超過せざる事、それはどう言ふ事であるかと申しますと隣地境界面に一つの垂直面を假定します、若し茲が三尺であるならば、壁面の下の方から屋根の瓦までが三尺の二倍半、ツマリ四尺五寸なら其處には窓を設けますが夫れが八尺になれば窓を明ける事が出來ぬと言ふ事であります。ツマリ三尺位の所には大概平屋の家を設けますから、若しも其れが隣地境界線と二尺位の距離に有りますと其處には窓を設ける事が出來ないのであります。但し、道路、公園、廣場等の空地に面するものに在りては此の限りにあらずと書き上げてあります。それから天窓は部屋の何分の一にすべきかと言ふ事に關しては、天窓は面積を三倍に換算する、即ち室の面積の三十分の一の天窓が附いて居れば宜しいと言ふ事になります。是れは羅馬に八ケ間しい所のカーバンテオンと言ふ會堂がありまして、それが全部トップライトで、天窓から明りを採つて居りますが、其の穴が床面積の三十分の一になつて居ると言ふ樣な關係から、之れをヒストリカルに考へて見まして、三十分の一ならば先づ宜からふと、言ふ事で此の規定が出來たのであります。それならば若しもクリヤストリーの場合は其の窓の面積は如何にすべきかと言ふ事は之れは各地方の監督官の認定になつて居ります。それからレストランなどに窓があつても少しも明かない窓がありますが、あれは、室面積の二十分の一だけはどうしても開放し得られる樣に換氣裝

置を施さなければならぬ事になつて居ります。それから便所とか、浴室に或る程度の採光又は換氣窓を設けなければならぬ事になつて居る。以上の事は主として採光とか、換氣とか言ふ、衞生法によつて居りますが、第二十五條から第百十七條までは保安に關する構造設備でありまして其の初めの方が一般構造設備になつて居りますが、之れに就いてお話するならば、第二十五條、階段の構造は左の規定に依るべし但し避難階段其の他特殊の用途に供するものは此の限りにあらず、階段及び踊場の幅は內法二尺五寸以上と爲す事、押入の中に設けられる事になつて居ります。蹴上七寸五分以下踏面五寸以上と爲す事、之れは現今の大阪の規定よりも遙かにゆとりのある規定であります。其の次に高さ十五尺を超ゆるものに在りては十五尺以內毎に踊場を設くる事、之れは當然の事であります。斯の如く階段は蹴上七寸五分、踏面五寸と言ふのは急な階段になつて居りますが、地方長官が此の階段に就いては危險なりと認めた時には種々の命令或ひは府令を發する事が出來るのでありまして何れ大阪でも府令になつて現はれて來る事と思ひます。其の次に屋根の事を細かく書きまして、其の次に物干、物見臺の事を規定し、其の次に防火壁の事が詳しく書き擧げられて居ります其の中には防火壁は耐火構造にせよとか、兩端は外壁に達するまで上げなければいかぬとか、防火壁の上端は屋根面から幾ら上つて居なければ、いかぬとか、防火壁に穴を設くる場合にはどう言ふ風にすべきかと言ふ事を擧げて居ります。それから三階建の木骨建造物の防火壁は鐵筋コンクリート又は鐵骨造と爲すべし、木造の三階に對する防火壁は鐵筋コンクリートでなければならぬと言ふ事になつて來る。第三十三條から壁附暖爐の事が擧げてあります、是れは大阪の現行法には無かつたと思ひますが、それは爐胸は堅牢な基礎の上に積み上げなければならぬとか、煙道の曲り具合は百二十度以內でなければならぬとか、木造と暖爐はどう言ふ風に設置すれば宜いかと言ふ事を擧げて居ります。次に煙突の事を規定してありまして木材と接してはいかぬとか、若し接したならば其

の間に燃質材料と五寸以上の間隔を取れとか言ふ事を擧げてあります。それから機關とか、營業用の風呂竈其の他多量の燃料を使用する設備を爲しある煙突の高さは、大阪では六十尺となつて居るさうですが、地方の狀況に依つて規定する事になつて居ります。其の次には避雷針の事を擧げてありまして、高さ六十五尺以上の建物には皆避雷設備を設けなければならぬ事になつて居ります。

斯の如き事が、施行規則の大體衛生及び保安設備に關する一般の規定であります。

平安朝以後の奈良は寺院都市の性を帶び興福寺東大寺の勢力は市政の方に及んで、市内の商工業もその支配を受けねばならなくなつた。けれども寺院の制度は之等の事も令の精神の影響を受けてゐる既に寺院は寺領に對して穀物以外に庸調を課し、東大寺の如きは、王朝より室町時代以後に至る迄美濃の茜部に織物を徴したなども調を似れた一例である。關所は軍事的必要に應じて出來たものであらうけれども、其設けられた場所は國境に近く、又是非通過せねばならぬ所を挾んで、軍事の必要以外に通過する物品に關料を徴收する處となつた。この通過稅の徴收始つてから、荷くら人馬舟車の通る所河にも港にも關料河手を徴收した。此等の關稅徴收所中で最も收入多いのが淀川口、大津川、又は兵庫關などで、此等の收入は奈良の寺院に寄進せられた。

市街地建築物構造強度

建築監督官　中西甚作

都市に於ける建築物は其の都市の實質的内容の最も大なるもので、建築物の多く在る所は大抵の場合が都市であります。故に建築物の市民に對する利害關係は大なるものであります。之を出來るが儘に放任して置かば其の都市は不健全なる都市となる事は明かである。又其の都市の住民の衛生狀態は寒心すべきものと成るのである。爲に其の都市の安寧は保たれず、交通は阻害されて、其の活動の能率と云ふものは哀れなものになつて來ます。故に都市の建築物に對しては其の據るべき一定の條規を設けて之に合はして建物を建てなければならないと云ふ事は誰でも氣付く事です。之を歐米の都市に就て見まするに、其の事に最も早く氣付いたのは倫敦で、千八百五十五年に建築法が制定されました。是が建築法規の最初のものでありまして、其れ以來各國各都市共之れを制定して今日は人口十萬以下の小都市でも建築に對する法規を有して居ない所はないのであります。我國に於ても、多少國情は異ひますけれども、今日の場合建築の法規無くして都市を放任して置く事は出來なくなつたのであります。其れで昨年出ました市街地建築物法なるものが出來たのであります。

建築物の構造の問題は、建築物と他の物との關係ではなく、建築物其れ自身の實質に關する問題であつて、其れを完全にすると云ふ事は、例へば人間が滋養分を取つて自分の身體を丈夫にして、外部の抵抗に打ち勝つだけの體力を作ると同樣で建築物に於ても其の構造的方面を相當に丈夫にして置かなければ、外部の風とか或は地震とか、或は他の災害に於て著しい危險を招く事があります殊に日本に於きましては或る程度の地震があるから、之に因る災害を恒に念頭に置いて構造に注意

をせねばならぬのであります。

諸外國の建築條例を見ますると、此の地震に依る災害を考慮して建築條例を作つて居る所は少い樣です。伊太利の建築條例が多少地震の觀念が入つて居るかと思はれます。又桑港の建築條例が、明治三十九年の大震地の結果、其後規定された條例には地震の事を考に入れてあります。今回の日本の法律に於きましても、理想的に言へば、是まで日本に起つた如何なる地震にも、耐へ得るだけの規定をするのが當然でありませうけれども、併し一方から考へれば、百年に一度か五十年に一度しかは起らない至つて數の少い大地震に耐へる爲め、常に如何なる建築物でも丈夫にすると云ふ事は費用の點に於て不可能の事であらふと思ひます斯の點を考慮しまして、餘り費用が掛らない程度で耐震構造を制限してあるのであります。斯の法規には又一般の人々に充分に知れ渡つて居ない構造も相當に細かい事まで立入つて規定してあるのであります。斯の事は一見面倒臭い制限の樣に見へますが、事實は決してさうではないのであります。

建築物は住家と言はず、商店と言はず、人間の生命及財産を容れる器でありますから、構造上の不備の爲め少しの風災とか或は震災に危險を感じ又少し荷重を載せる爲めに床が落ると云ふ樣な事があつては家屋としての本體を備へて居ないと云はれるのであります。併し他の一方から見れば社會に於て相當に信用のある建築家或は建築技師の設計を信用せずして此の樣な法律の下に束縛すると云ふ事は此等の人々の人格を無視する樣に思はれるかも知れないですが、是は決してさうではないのであつて、縱令立派な建築業者でも家を建てると云ふ事が職業でありますから、依頼者が充分なる建築の智識が無い爲め、廉く仕上げると云ふ事を強制せられる場合が無いとも限らないのです斯の場合は建築技師又は建築業者は不本意ながら材料の寸法を小さくし、又は手數を省いて依頼者の希望に添ふ樣な値を割出す樣になるかも知れないと云ふ事を慮つて作つたのであらふと思ひます又他の一面から考へて見ますれば、細かい構造の

制限は工事の依頼者に於ても非常に重寶の事であらふと思ひます。即ち見積りを多く取つたる場合其の構造上の強度に於ては一定して居ると云ふ事が言へますから、安心して廉い方に、工事を依頼する事が出來るのでなからふかと思ひます。

是から少し細かい事に入りまして木構造と本骨構造のお話を致します。木造建築に於て其の構造上最も困難の所は一ッの材料と他の材料との接合する所であります。即ち仕口及繼手であらうと思ひます、之を他の鐵骨或は鐵筋コンクリートの樣に完全にする事が出來たならば、火災を除く外何れの災害にでも畧完全な構造たる事を全ふするのであらうと思ひます。併し在來の仕口や繼手と其の費用が餘り大差なくして完全にする事は出來ない事だと考へます。故に金物などを用ゐて出來るだけ廉くして此等の部分を丈夫にしなければならぬと言ふ規定になつて居る。又土臺とか敷桁の隅角には燧材を用ひまして其隅角を固めると言ふ事になつて居る。之は仕口を固めるといふ趣旨から出て居るのであらふかと思ひます。其れから石とか煉瓦とか、「コンクリート」の類で束を建て、其の上に土臺を置いて木造の家を建てる場合があります。是は大阪では裏に川がある家の樣な場合に地下室が川に面して出來まして、地下室の柱が石で出來て居る場合がありますが、斯う云ふ樣な建築の場合、又床下の通風を良くする爲め周圍の腰積の代りに束を以て代用する樣な建築がある、此樣な建築は地方長官の許可を得なければ、出來ない事になつて居る。何故に束を立つたものが出來なくて、腰積をせるものが良いかと申しますと、束を建てゝ建築をした建築物は衛生上とか或は蟻害白蟻の發生を防ぐと云ふ樣な事に於ては非常に有効な良い構造でありますが、一度地震があつたならば、最先に斯の種類の建築は倒れるのであります。此の爲め相當の地震に耐へ得る樣な構造であつたならば之を許可すると云ふ趣旨の下に地方長官の許可を受ける事になつて居る。

又木構造で其の制限中の大なるものは柱の大小の規定でありますが、之は外國などの例によりますると、日本の制限よりは一割五分位は外國の方

が嚴重な制限になつて居ります。日本の三十五分の一と云ふ所には外國では三十分の一位になつて居る。併し日本の家は部屋が細かくして間仕切が多い、且つ天井が低くして床の荷重が少い爲めに此の位の規定で差支へ無からふと思ふのであります。其の規定は三階建の第三階の柱、或は二階建の第二階の柱、平家建の柱は其の小徑が土臺、足固め、胴差、梁、桁等主要横架材間の距離の三十五分の一以上なくてはならない。又三階建の第二階の柱、二階建の第一階の柱は英の小徑が主要横架材間の距離に對し三十分の一以上無くてはならない、又三階建の第一階の柱は其の小徑が主要横架材間の距離に對し二十六分の一以上なければならぬと言ふ事になつて居る。三階建以上はありませんが、今度の法律に依りますと、木造建築に於ては三階建以上は出來ない事になつて居りますから、其の爲め三階建以上はないのであります。

木造の中で、木骨煉瓦造と、木骨石造、土藏も此の内に入つて居りますが、此等の建築物は種々な災害に對して危險なものであります。唯だ外部から來る火災の爲め起る災害が普通の木造より火の付き方が幾らか遲いと云ふ特點があるばかりであります、殊に震災に於きましては總ての構造の建築物中、斯の構造程危險なものは無いのであります、言ふまでもない事ですが、地震の時、物體には物體固有の震動期と云ふものがあります、此の震動期は一震動に要する時間が有つて物體に依つて異ふのであります。震動期の差の大なる（木の震動期と煉瓦の震動期とは非常に差がある）二ツの物體が一ツの壁體を構成する場合は其の震動が一致しない爲め、其の二ツの物體は離れ樣とするのであります。其れ故木骨から石とか或は煉瓦が振落される、又土藏では土が木骨から振ひ落されると云ふ樣な欠點があるのであります。其の爲め此の構造は非常に危險な構造としてあります。又斯の種類の構造は柱に壁體の重量が何時も偏心に掛つて居るのであります。柱に荷重が偏心に掛ると云ふ事は構造上面白くない事で、此等の欠點を綜合して見ますと、此の構造は嚴重なる制限を付けても宜いと思はれる事が澤山あります。其の

爲めに構造中一番制限が大きくなつて居ります。

次に石造、煉瓦造、コンクリート構造の事をお話します。斯の種類の構造で作つて居る建築物は未だ風壓の爲め家が倒れたり、崩れたりした例は非常に少いので、大抵は地震の爲め破壞されて居るのであります。桑港の例に依つて見ましても、災害の最も甚しかつたのは、斯の類の構造であります。斯の實例を見ましても、壁體も相當の地震に耐へ得る樣に作つて置かなければならない、又種々の補强方法を講じて建物を鞏固にして置かなければならぬ事は明らかであります。此の市街地建築物法の規定は、然らば何の位の地震に耐へ得るかと申しまするに、是は種々な狀態とか、或は場所、地質等に由りまして適確には申上げる事は出來ないですが、概括的に見まするに、先づ一千ミリ米突位の地震には耐へるだらふと思ひます。それから煉瓦の壁は其の高さに依て長さの最大限が決定してありますが、夫れはツマリ地震關係から來たので非常に好い規則だらふと思ひます。

尙建築物の外壁になつて居る壁體の制限があります。之は外國の何れの都市にもある制限であつて日本の制限と外國の制限と異なる點は、外國では高さを小刻みにして長さを大ざつぱにしてあります。之に反して此度制定になつた日本の法規は長さの方が高さの方よりも小刻みになつて居る。夫れは何故に斯く云ふ樣に規定したか、元來煉瓦壁の壁體の耐震强度と云ふものは何に依つて之を知るかと申しますと、御承知の通り其の煉瓦壁の壁厚及煉瓦積の强度の一乘に正比例するのであります。ツマリ壁厚が厚くて煉瓦積の强度が强ければ、地震にも能く耐るのであります。又煉瓦壁の重量の一乘と壁の長さの二乘に反比例するのであります。長さは自乘に反比例して居りますから長さの長いと云ふ事は耐震には非常に關係がある。それ故に日本では長さを小刻みにして高さを大刻みにしてある、即ち長さの方が高さよりも大切に取扱はれてあるのであります。同じ煉瓦、或は石造でも、鐵とか鐵筋コンクリートとかで骨組を作つて其の間をコンクリートとか或は煉瓦で充塡した樣な作り方がありますと、之を眞壁式と言ひます

が、之は煉瓦造、或は石造の此の制限に合はなければなくても宜いと言ふ事は當然の事であります併し鐵骨と申しましても三種類ありまして、眞壁式と補強式と圍繞式とあるのであります。眞壁式は今申した様な式でありますが、補強式は皆様御承知と思ひますが、簡單に説明しますれば、煉瓦壁を鐵骨で補強して居るのでありますから、煉瓦の壁は壁としてそれ自身の任務を果して居つて其れを補強するのみに鐵が使つてあるのです。夫れから圍繞式と云ふのは、屋根とか或は床を鐵骨で支へて居りまして、周圍は煉瓦の壁で其れを取巻いて居るばかりの構造であります。其れにしても煉瓦壁はそれ自身の任務を果して居りますから、補強式と圍繞式は此の煉瓦造、石造の制限を受ける事になるのであります。

次に煉瓦造で危險な所は切妻の壁體であります是も危險なだけに制限が付いて居ります。即ち是に接する合掌とか言ふ構材は總て切妻の壁體に締め付けて置かなければならないと言ふ制限であります。之は一方より考へて見ますれば、前にお話しました木骨煉瓦造の場合と同一の場合であつて震動期の異なる二ッの物體を無理に喰付けて、同様の震動をさせ様と云ふのでありますから、此意味に於て其の處に無理が起つて來るのであります其爲に締付けて置いたならば、小さい地震にでも其の切妻の所は直ぐヒビが入ります。併し締付けてある爲に是が一團となつて下に落ちると言ふ様な場合は無いのであります。併し之は締付けて置かなかつたなら一定の距離を置いて合掌なり又は色々の構材を組まなければならないのでありますが、切妻の壁體と合掌との間に隙があれば?雨仕舞が六ケしい。少し大きな地震が起つた場合は切妻の部分が弱い爲めに一團となつて下に落ちて非常な災害を招く様な事があります。又此の切妻が五十尺以上ならば、切妻の壁の所には補強しなければならないと言ふ事になつて居る、此の補強の方法も色々あります。或は鐵筋を入れる場合もありませうし鐵骨を入れる場合もありませうし、或は切妻の所だけを鐵筋「コンクリート」で造る場合もありませう。

其の次に鐵構造及鐵骨構造のお話を致します。

鐵骨構造とか鐵構造に使用する鐵の材料は此の法律に規定してありまする品質は米國などの建築條令に比べますれば、非常に悪いのであります。併し日本に於ても鐵の品質の良いのを使いたい事は山々でありますけれども、品質の良いのは價が高いのであります。ですから獨逸式を採りまして建築材料の様な荒つぽい仕事をする材料には安い鐵を澤山使ふと言ふ事の方が國として得策であらふと言ふ事で、品質の制限は米國などよりは、低い事になつて居ります。又鐵骨構造の繼手でありますが、此の構造の特長と言ふ事は繼手が完全に行くのが特長でありまして、此の特長を充分發揮せしむる爲めには、其の接合部分にはリベットで以て之を締め付ける事が必要であります。

此の規定には總てリベットでなければいかないリベットで接合すると云ふ事が原則となつて居りまして、止むを得ざる場合の外はボールトを許さないと云ふ事になつて居ります。然るに近來米國では此のリベット接合を次第に濟して居ります。さうしてボールトを以て接合する様になりつゝある傾向があります。然るに日本のみ何故に此のリベットを強制するかと言ひますれば、日本と米國とは其の富の程度に於て非常な差があります。其の爲め日本に於ては鐵骨構造と言へば誰でも之を永久的構造と言ふ、誰でも之を永久的建物であると思つて居ります、又建築業者の方も夫れを永久的建築物として設計するのであります。

然るに米國では鐵骨構造は必しも永久的建築物と思つて居ない。それは兎に角早く仕上ると言ふ事が目的であつて、仕上けた後、悪かつたなら壞せばよいぢやないか、さう云ふ考で米國はやつて居る様であります。それでありますから鐵材の接合に於きましても早く仕上けると同時に、壞す事の便利なのを第一に置いて力に於ては第二にして居ると思ひます。力の方から考へて見ますとボールトはリベットに及ばざる事が遠いと云ふ考へは米國人も日本人も異らないだらふと思ひます。

次に鐵筋コンクリート構造のお話を致します。此の構造で最も注意を要する點は御承知の通りコ

ンクリートの調合であります。現今ではコンクリートの調合を仕様書の通りに正確に調合すると云ふ事は、其の技術が下手な様に考へられて居る傾があります。例へば米屋の小僧が米を量り出す升を上手に使つて、米を量り出すと言ふ技能を以て一種の誇りとして居ると同様に、セメント量を少く使ふと言ふ事を一種の誇りとして居る様な傾向があるのではなからふかと思ふのであります。それで今度の規定では此のセメントを、容積でなくして、重量でやる様に規定されてあります。其他今一ッの調合の制限は、コンクリートは容積に於てセメントが一で、砂と砂利の和が六以内でなければならない、それですから、若しもセメントが一で砂が二で、砂利が五と云ふ様な調合になりますと、斯の構造は鐵筋コンクリート構造として取扱はない、故に此様なコンクリートを使用した構造に於ては鐵筋コンクリートの總ての特點は消滅してしまうのであります。其の工事は唯のコンクリートの構造を鐵筋を以て補強したと言ふ見解になるのであります。其他コンクリートの調合には砂利の代りに煉瓦屑とか或は石炭殻とか言ふものを使つても亦同様な結果が起るのであります。

是で全體の構造は終つたのでありますが、一括して申しますると、眞壁式、鐵骨構造、或は鐵筋コンクリート構造は總ての災害に對して、最も安全なものであつて、安心して吾々が此の中に住居する事が出來るのでありますから、制限に於ても殆ど無いと言つても宜いのであります、唯だ強度計算上の制限が少しあるばかりであります。構造強度に對して概要は斯んなものでありますが、此の制限を正面から見ますれば、一種の制限には違いないのでありますが、其の主旨は決してさうでは無いのであつて、濫りに個人の自由を束縛すると言ふのではないのであります。ツマリ錯雜して發達して行く所の都市を調節して健全なる都市にし、併せて個人の利益を增進せんとするのでありますから、斯の點は皆様も充分御諒解になつて、斯の法規を生きたるものにして頂きたいと言ふ事を希望して已まない次第であります。

市街地建築物法の意義

工學博士　内田祥三

□

多年建築界の重大問題と成つてゐた市街地建築法も、いよ〳〵昨年十二月一日から、實施せらるゝことゝなつたのは、實に御同慶の至りである。此成立に就ては『日本建築協會』は、特に縁故が深いことでもあるから、此處に一應其成立の順序を簡單に述べて置き度いと思ふ。

事の起りは大正六年の暮の頃であつたと記憶するが、日本建築協會の前身たる當時の關西建築協會理事長片岡安博士が、建築法規の實施は一日も緩かせにすべからざる時機であるから、此際具體的に其目的を達する爲めの努力をしやうでは無いかといふ事を、建築學會に協議せられた。

學會に於ても、其以前から全く同一の意見を持つて建築條令委員會を設けて居つた際でもあるから、直ちにこれに同意して、尚ほ日本建築士會及び都市協會と聯合して、都市計畫及び建築法規の實施を當局各大臣及び貴衆兩院に建議する事となつた。

□

當時内務省には、都市行政に關する權威である池田宏書記官が、東京市區改正委員會の幹事として、又土木局の書記官として、最も此事項に對して、意を注いでゐた時でもあるし、幸にして我々の建議が、當事者の容るゝ所となつて、翌年春、先づ此等の事項を調査するに必要なる經費は、貴衆兩院を通過して、内務大臣監督の許に、都市計畫調査委員會が出來、大臣官房に都市計畫課が、池田書記官を課長として生れ出でたのである。

而して、大正七年七月八日に、第一回の都市計畫調査委員會が開かれ、都市計畫調査要領が諮問された。特別委員會に於ては、之れを可決すると

共に、都市計畫法・都市建築法及び市場に關する事は、最も急施を要するものであるから、內務省にあつても、速かに起案してこの委員會に諮問され度しといふ希望條件を附して、本委員會に送つたのである。

□

此爲めに、同廿四日に、會長より、時の警視總監岡田委員及び片岡安、佐野利器の二博士に對して、建築法案の制定に關する調査を委囑せられ、以來此三委員と、都市計畫の當事者とが、法案の作製を急ぎ、七年十二月床次內務大臣會長として第三回の委員會を開き、其委員會には、都市計畫法及び市街地建築物法が諮問せられ、特別委員會に於て審議の結果、十二月廿四日の委員會に報告可決せられ、更に片岡委員の動議に依り、此法案は最も急施を要するものであるから、本期の議會に提出せられ度き旨を決議した、即ち翌大正八年春、兩院を經過して、四月四日法律第卅七號として公布せられた。

施行令案は、八年十一月、調査委員會に諮問せられて、翌九年九月廿九日勅令第四百卅八號を以て公布せられた。內務省令である施行規則は、都市計畫課に於て其立案を急ぎ、同十一月九日省令卅七號で公布した。

□

一方大正九年の特別議會に於て、其法規施行の任に當る建築監督官の豫算が通過し、六大都市の屬する廳府縣に配布せられて、こゝに全く法規實施の準備が整つたのである。

十一月十七日勅令五百三十九號を以て、此法律を十二月一日より施行する事に定められ、同時に勅令五百四十號を以て、此法律案を東京、京都、大阪、橫濱、神戶及び名古屋市の所謂六大都市に採用する事に定められた。尙ほ府縣廳令である施行細則も、各地方に於て夫々發布せられたのは、既に御承知の通りである。

□

都市は多數の人の集團たる有機体であるから、商工業發達の根源を爲す場所であると共に、色々の社會問題が發生の源泉を爲す場所である。

商工業は人と人との間の取引を主とする關係から、これに從事する人達は、成るべく運輸交通の便のある處に集まらふとするのは、當然であつて之が爲め商工業の著しく發達を來たした十九世紀の中半以後、都市の膨脹は最も著しくあつたのである。

多數の人が、集團を爲して來れば、其處に各人の間の利害關係が錯轕して來るのは、又、當然であつて、從つて各種の社會問題が發生して來るのである。

斯くの如く考へて見ると、國の商工業を向上せしめ、社會問題の發生を未然に防がんが爲めには多數の者の利害の錯轕を鬱梅して、都市の健全なる發達を助長すると共に、其不秩序なる膨脹を防止しなければならないのは云ふ迄もなく明らかである。

先きに述べたる都市計畫法及び市街地建築法は此の二つの重大なる使命を持て、生れて來たものであつて、即ち其目的は都市の健全なる發達を助長すると共に、其不秩序なる膨脹を防止せんとするのである。

□

建築物は都市の中に充滿してゐるものであるから、都市の事を考ふる際には、何時でもこれを度外視する事の出來ないもので、其、數、量、質、何れの點から考へても、建築物の市民に及ぼす利害關係は頗る重大なるものである。

且つ、吾人の生活の必需品たる衣食住の住は即ち建築物に關するものであるから、此點から見ても又都市に於ける建築行政は、國家の行政事務の重大なる一部であると考へられるのである。

建築法規の實施機關は、歐米諸國の例に依ると多くは其適用地たる市に屬するものであるけれ共我國に於ては市が警察權を持つてゐない爲めに、現在の狀態に於ては、如何しても府縣警察部が、其執行の任に當らなければならないので、又、實際其樣に成つて居るのである。

□

法律規則と稱し、又其執行が警察部に屬してゐるとは云へ、必ずしも市街地建築物法は、取締を

主とする消極的の警察行政のみを主とするものではなく、却つて積極的なる助長行政に用ふる事項が其主たる目的である事は、前に述べた二大精神により、自から明らかなる事と思ふ。今その身近なる二三の例を擧げて見れば

1

住家の附近に大工場が出來るが如きは周圍の人に及ぼす迷惑が甚しいので、故に或る程度に於て之れを禁止するの必要があると同時に、工場が都市の各所に散在して居るのは、之に關する施設を經濟的ならしむる所以ではない。集團的にある箇所へ集めて其場所に工場に最も適當なる施設を集注する事にすれば、比較的僅かな經費を以て完全なる設備が出來、從つて工場も能率を擧ける事が出來るのである。即ち商工業を助長する事になるのである。

2

薄暗い家に居住する事は、非衛生的なる直接原因から、病人が殖ゑ死亡率が多くなるのみならず、極端に不愉快なる往家は、人々の活動を減殺して、弊害の百出するは明らかである。故に或る程度の採光面積を規定して、之を制限すると共に、如何なる下級の人と云へ共、相當に衞生的なる室に住む事が出來るやうにする事は、即ち市民の衞生を進め、之れを幸福に導く事になるのである。

3

都市の中に、著しく高い家が出來て之れが爲め附近の人が、一日中、日の目を見る事の出來ないやうになるのは、其迷惑甚だしいものであるから、家の高さに對してある程度の制限を設くると共に、土地の利用を顧慮して、立派なる施設のある商業街路には、適當なる高さの家を建てしむるやうにする必要がある。之れもまた都市の施設を經濟的ならしむる一つの方法であつて、其健全なる發達を助長する道になるのである。

4

火災の恐るべくして且つ其損害の大なる事は述べる迄もない。木造の高い家や、大きな家を造つ

て、火災の際附近に危害を及ぼすが如きは、之れを禁止せなければならない。それと共に、建築物の位置に依つては、その構造を耐火ならしめ、又大なる建築物には、防火壁を設けしめて其延焼を少なからしむる事も又市民を安全に導くのであつて、都市の健全なる發達を遂行する所以となるのである。

5

少し許りの風や地震の爲めに、建築物が大被害を受けて、その損害、人命にも及ぶが如きは、我々の生命財産を托すべき場所である處の住居の本體を備へたものではないのであるから、之に最少限度の強さを強制すると共に、其構造の針路を示す必要がある。是もまた市民を幸福に導く一つの方法である。

□

以上の様な事を定めてあるのは、市街地建築物法であつて、其精神とする處は、斯くの如き事項にあるのである。法は正面から見れば、一種の制限には違ひないが、決して不合理に個人の自由を束縛するものでは無く、寧しろ互に錯輳してゐる利害關係を調節して、都市の發達を健全ならしめ併せて個人の利益を增進せんとするのである。

建築物の設計に當る建築家に對して、最も密接の關係ある建築物の構造設備に關する規定の如き最も分量が多いので、一見小面倒な制限のやうに見ゐるかも知れないけれども、事實は決して然様ではないので、成るべく設計の自由を拘束しない事とし、算式の如きも、我々建築家仲間に於て、略々定論あるものゝみに止め、且つ設計に當つては、必ずしも、此算式を用ひて計算しなければならないと云ふのではなく、出來上つた結果が此規定の最少限度以上となつてゐれば、少しも差支ないのである。

□

又、建築法規實施の爲め、只でさへ暴騰してゐる建築費を更でだに增大せしむる處れ無きやと云ふ誤解も、世の中には無いでもないか知れぬけれども、斯點に關しては、法規の編纂に方つて最も顧慮したのであつて、決して不合理に經費の增加

を強ゆるが如き事はないのである。

只しかし、建築物は吾人の生命財産を容るゝの器であつて、從つて、それが如何に安價でも、危險不衛生であつては仕方がないのである。

然るに現在の狀態では、徒らに廉く廉くの競爭から、建築技術者は止むを得ずして其缺陷を忍ぶが如き事も無きにしもあらず、又斯くの如き場合には、建築物は不識の間に、著しく不安に落ちてゐるのである。

建築法に於ては、經費の增加を來すべき事項に對しては、眞に止むを得ざる最少限度に止めたれども、不誠實なる價格の競爭から、立派なる技術者や建築手に迷惑を掛けない程度の規定を設けられてゐるのである。

□

又、比較的敎育の低い技術者に對しても、斯法規は其職業に惡影響を及ぼすのでは無くて、却つて昔から所謂一子相傳として考へられ、十年二十年の年期を入れなければ、覺ゐる事の出來なかつた高級の木割法の開放である。之によつて普通敎育あるものは其の益する處頗る大なる事と思ふ。

尤も法規は各種の點に於て其要求の最少限度を定めたもので、決して、此法規に辛うじて適合するものが、衛生的にして且つ安全なるものとは云へないのである。其場合に應じて、之れが設計の任に當る技術者の判斷に俟たねばならね點が多く殘されて居るのは當然である。

□

之れを要するに、我國の建築物法及び其附帶命令の精神とする處は、前にも述べたる通り、都市の健全なる發達を助成すると共に、其不秩序なる膨脹を防止せんとするものにして、即ち規定を設けて、都市に共同生活を營む個人及び團體の利益を增進するは勿論少數者の利益と、多數者の利益とが相反する場合には、其數と量と質とに鑑み、相當なる規定を設けて、其一方を制すると同時に多數の利益を增進する方法を講じ、止むを得ざる場合にあつては、それが補償の道を取りたるもので、決して從らに制限を嚴にして、市民の苦痛を一般に多からしむるが如きものではないのである

——談、文責在記者——

我國に於ける寢室便所洗面所乃至臺所私見

醫學博士　青柳眞一

日本人其者がすでに駄雜仕の無さ過ぎる生活に長い間馴らされて來てゐる。衛生上から如何であらふとあるまいと、そんな事は實際大した問題ともしてゐないのである。從つて日常の生活其ものが驚く程不衞的生であり、行爲其ものもまた然り住居の如き尙ほ一層然りである。

日本人の日本式住宅には、擧げ來れば數へ切れぬ程澤山の缺點はあるが、それは今遽かに改め兼ねるものでもあらふし、一々枚擧の遑も無いが、私が豫ねてから、如何にかして一般に一日も早く改めたいものだと思つてゐるのは、臺所と便所と洗面所と寢室の四箇所である。

□

日本人は非常に無雜作に眠り得る性質が歐米人に比してより多いやうである、何處の隅でも良いから、一寸した安息さへ得ればうつ〳〵と眠る。從つて一日の業を終つて、一夜の熟睡を得る時にでも、場所など何等關する處もなく、たゞ眠りさへすれば良いといふやうな事である。狹苦しい店頭の商品の後に寢てゐる家族を見た事もあるし（相當な生活をしてゐる人なのだが）、これより以上に實に無造作な睡眠をしてゐるのを幾度も見た事がある。

こんな狀態であるから、現在の我國に於て寢室といふやうな問題を云々した處で、實はそれは多く一般には無理でもあり、出來ぬ相談でもあるであらふが、眠り得るからと云つて、山のやうに塵の積つてゐる商品の蔭で一夜の眠を取つたり、所謂假睡同樣の生活をしては、丈夫な躰が幾つあつても堪つたものではない。

□

日本人の使用する蒲團夜具が抑々衞生上餘り賞

めたものではないやうだ。否、夜具其物と同時に疊の上へ直接に敷いて、その中で眠むるのが間違つてゐる。第一日本の疊が私に云はせると、不衛生の筆頭である。

疊の目には、其室に出入する者の、足袋の底へ着いて來た黴菌は勿論あらゆる危險物が、處狹しと入つてゐる。その上に、殆んど直接と云つて可い位にその身を横たへる、總ての危險物が忽ち闕聲を擧げて攻め寄つて來るのだ。

まして我々には、終日陽の當りの良い氣の利いた室を、客間とか、お座敷とか、餘り頻繁に使用しない性質があり、之を反對に寢る處杯は何處でも可いといふ前述のやうな性質（或は習慣かも知れぬ）があるから、多くは物の役に立たぬ室などで眠るから、室中の空氣にはまたすでにあらゆる危險物がうよ〳〵してゐるのである。

矢張り眠る時の夜具には、西洋の寢臺式の工夫が欲しい。夜具は仕方ないから從來の蒲團を用ゆるとしても、毎日日光消毒位はやり、その寢るべき室は、一日中幾度でも多く日光を直射せしむる必要がある。

日本夜具を、も少し何んとかしたいのや疊を何んとかしたいのは希望である。が、寢室へ日光を直射せしむるのは重大な必要であり、且つ何人も負擔すべき義務であると申さねばなるまい。

□

少なくとも寢室の疊は廢して板敷きのものとし寢臺にする事は理想だが、それが無理な注文であるならば、疊の上へ極く目の細かな天竺木綿といふやうなものを消毒して、室一ぱいに張り詰めて敷いて置く位の事はして欲しいではないか。此木綿を時々引はがしては消毒する、そしてその消毒は稍強烈な藥劑を用ひて置くもよろしいと思ふ。

慾を云へば限りはないが、寢室は專用として、客間にしたり、食堂にしたり、居間にしたりする事は絶對の禁物である。それから室の構造は、日本室ならば欄間張りといふやうなものにし、洋室ならば必ず數箇の小窓を必要とする。成るべく室の內と室の外との空氣が絶えず換氣されるやうにせねばならぬ。そしてまたその小窓や欄間は、室

の上層と下層とに設ける事が、その目的を完全に達し得る途である。

□

又我々は昔から便所を汚ない處として敎へられて來てゐる、從つて其便所内に小々位汚ない處、非衞生な處があつても、別段怪しみもしないし、極立つて然樣な考を持ちもしないやうである。

が、これが大變な間違ひであつて、私に云はせると『病は便所から』と云ひたい位である。汚い處だから暗くともよろしい、狹くともよろしいといふやうな人は、自から進んで危險の中に入つて行く蠻勇家である。こういふ人には、我國に於て毎年二萬以上の傳染病患者の出るのは、何處と一番密接な關係があるかを知らせてやりたい。

先日私の處にゐた書生が家庭を持つたが、御存じの住宅難で、仕方なく下町のある家の立ち退くのを待つて、直ぐに其後へ入れ代りに引越して行つた、私も新家庭の樣子が氣になつたものだからふと立寄つてみて、その家の作り方を見て實は膽を潰す程に吃驚した。

二階は先づ良いとして、階下の一室にこんなのがある。

□

八疊間で、南側に三尺許りの細窓がずつと附いてゐて、下から四尺か五尺が壁、劍術道場の武者窓のやうな有樣だ、西に梯子段の上り口に五尺六尺位の硝子窓、北は玄關と勝手許への障子が立つて、東(九尺)の處へ、六尺の押入があつて、後の三尺に押入と同じ唐紙が立つてゐるから、矢張り押入かと思つたら、ここが便所だといふのだ。

丁度勝手元に並んでゐて、唐紙を開いて入ると二方壁で一方が戸、此戸を開くと大便所で三方壁である。そして驚く勿れ窓一つない。窓を造るのを忘れたのかも知れない、中へ入つて唐紙を閉め戸を閉めると鼻をつまゝれても解らぬ位に眞暗である、東京の眞中にこんな便所があるのである。

書生の話では、此室には臭くつて到底住まれないとの事だつたが、住まれても此便所では生命が危ないからと云つて、近くまた引越す事になつてゐる。恐らくは無學な所謂大工の建てた家であら

ふが實に慥かざるを得ないではないか。

便所は廣いだけ良い、そして明るいだけ宜しいたゞ虫類などが出入出來るのは危險だから、此邊は充分注意せねばならぬが、前の話の家の便所などは、よく日本人の便所に對する觀念を物語つてゐると思ふ。

糞壺と糞溜は全く別にして、水でも流して糞溜に送り込むやうな裝置とし、糞溜には日光を強射させたい。但し絶對に昆虫などの出入する事の出來ないやうにして置かねばなるぬ。便所は換氣もよくせねばならぬし、光線も直射を必要とする事は、誰しも考へ及ばれる事であらふ。

□

又、勝手元即ち臺所にも隨分酷いのがあるやうである。食器などをごた〳〵と其邊に積み重ねて置いたり、隅の方へ押込んで置いたりしてゐるがこれは戸棚とか、函とかを造つて、一定の處へ整然と入れて置かなくては、單に塵や埃の爲めに不衛生である許りでなく、大いに臺所能力を擧げる上にも影響があると思ふ。

私は流し場は大きな陶器製のもので、水道をひねると、どん〳〵と水が此陶器盤の上へ流れ込んで來て、例へば水槽のやうな中で、色々調理の手順を運ぶやうにしてゐるが、自分では非常に構結だと思つてゐる。化學實驗室のちと大きな水盤といふ格である。

これはとにかくとして、要するに臺所には水の豊富である事が大切だから、その積で造らなくてはならないと思ふ。それよりも先づ衛生上から根本的に必要なのは、日光の直射する事と、家庭の割には廣過ぎるといふ位に廣ろい事で、これも從來の日本人としては、ほんの家の片隅へ附たりにしてあつても不思議とも思つてゐないし、日光が當らなくても薄暗くても、却つてアラが見ゑなくて良いといふやうだつたが、これは是非とも注意せねばならぬ處である。

□

先づ私の希望としては、

1　少なくとも最大限に硝子張りとして塵一つも明らかに見ゑるやうにする事。

2 天井は全完なるコンクリート様のものとし塵などの落ちて來ぬやうにすること。

3 仕事を終りたる後は器物はすべて（例へ皿一枚でも）戸棚又は函の中に入つて其處には何物も見當らぬ位にして置く事。

4 勝手へ入るに草履ばきは嚴禁の事。内部だけにて使用する駒下駄やうのものを用意すべし。

5 毎月一回位は粉霧器にて戸棚の外部窓際など消毒する事。

6 絶對に炭其他火を焚かぬ事。瓦斯のみによるべし。

7 水の引入を豊富とし一度洗ふ皿は二度洗ふやうにすべし。

8 流し元と下水との間には金網を張りて鼠の出入を防ぐ。

9 調理後の不用殘物は直ちに勝手の外へ運び出す事。

10 從來の日本の狹苦しい薄暗い臺所は他の室をつぶして直ちに擴張し明るくすべし

座つて仕事をする臺所の如きは生命の要らぬ家族のすべき事なり。

慾張つても却々實行の困難な事は、云はぬ方が德だから、先づ之れ位にしやう。

□

も一つ日本人は甚た洗面を輕んずる風がある。朝の一寸した感じが其日一日の生活の感じに、非常な影響のある事は知つてゐながら、どうも顏抔落着いて洗つてゐるのは、氣がとがめるやうな氣持がして、遂い無雜作にやつて仕舞ふ。であるからして、一定の洗面所なるものゝ設けのあるのは家庭としては、先づ中流以上、しかもそれさへ湯殿か何にかの中へ一寸造つて置くといふやうなのが多い。

從つて普通の家庭では、勝手で人參や菜葉と一所に濟まして仕舞つたり、又椽側へ洗面器を持出したり何んかしてやつてゐる。これも大變誤つた事で、其日一日の活動の準備として、稍ゆつくりと洗面化粧を濟ませる必要がある。故に此一室を設けぬのは不合理である。

勝手で食事の仕度の傍で洗面したり化粧したりするのは、單に不愉快なる許りでなく不衛生的である。で今此處に小なりと云共洗面所を設けるとしたならば、先づ第一が明るい事、これは何れの室にも共通の要素だが、殊に明るきを要するのは室其物の性質から當然である。

其次には水とか湯とかゝ充分に使用出來る設備を必要とし、しかも洗面其他化粧器は、總べて家族一人一箇とし、順序正しく並べる棚でも造り、決して一つの洗面器で、一家一族が皆んな顔を洗ひ化粧を濟ませるやうな事は不可ない。顔から鼻口からに、眼から眼、髪から髪、皮膚から皮膚への傳染病の少なくない事は、何人も御承知の筈である。

そして此室の一隅に、一つの消毒器を設け、外出して歸つたならば、指頭口其他適當な消毒を爲し得れば、結構此上もない事である。

此外家庭生活其ものに就て衞生上からの注文は山程あるが、それはまた機會に讓る事としよう。

——(談、文責在記者)——

凡そ行ひの力めざる所以は、只之を知る事の眞ならざるが爲めなり。果して能く眞に知らば、之れを行ふ事安ず力めざるべけんや。

——許魯齋——

使はるゝ人と使ふ人（畢）

——わたしくの事業に携る人に就て——

日本建築協會
終身賛助員
有山福重郎

×大器晩成

人間は徒食を許さない。何事か職業をせねばならぬ。殊に活動的の青年において然りである。ところが今尚職を獲ず、又職にありつく事が頗る困難であるかのやうに見受けられる人もある。

之を何故であるかと云へば、職を求むるに甚だ我儘が強くあつて、此の職業は我輩の理想に叶はない此の仕事は労働が過ぎるから、我輩の體力が續かない。あんな見窄らしい組や商店では、肩身が狹くなる。仕事は人後に落ちないやうにするがあんな時代後れの人間に使役されるのは、苦痛である。仕事は可なり氣に入つてゐるけれど、手當が我輩の希望に充たないなどゝ、氣儘の有ん限りを陳べて、就職を肯じない傾向がある。尤も現代の青年が皆々こうであるとは斷言しない。けれども職業に對して、斯ういふ苦情や、希望や、註文をつけるのは多くの事實が證明するのである。現代數の高等遊民が彷徨するのは、實に已むを得ない事である。

人は自己に適した職業であるならば、夫れが如何に下級の地位であつても、勞力が過ぎても、手當が寡くても、固く忍耐して、累進的に昇進してゆくと云ふ希望と、決心のうちに働かねばならぬ如何に天才的の手腕家でも、或る間は見習はねば上級の位置に進むことは出來ない。使はるゝ人はいつも『高きに昇る者は低きより』といふ訓言を心に銘じ『千里の道は一歩より』といふ心懸けで、不

滿不平に陷らず、其與へられた位置を守り、授けられた仕事に精勵せねばならぬ。

特に上長となつて、その位地を辱しめず、下僚に對して、深甚な尊敬と、歸依を買はうと思はば何うしても下級にあつて、凡ての事情に通曉せねばならぬ。故に『使はれた人』でなくば、本當に人を使ふことは出來ない。下を使ふのは、どうしても同情同感を普く行き渡らさなければならぬ。されば下の者に同情するには自分が先づ下から昇つて來る必要がある。ゆへに此の徑路を經ずして、高位を占た人は使はるゝ人を苛酷に取扱ふことになる。茲に於てか下級者の間に、不平の聲が絶えないのである。斯ういふ理由が解悟されたら、下級を嘲ち、薄給を嘆ずる必要はなくなるのである『大器は晩成』である。熟練なる人は、一夜漬には出來ない。青年家は、徒らに急進を望つではいけない。

×成功は急ぐ可からず

世の中には、生活上の保障を得てゐる自分の職業を愛好せない者がある。敢て生活を否定せないまでも其の職業を憎惡するものがある。又中には自分が望むところの地位を得られぬとて不平を漏す者がある。又その待遇が自己の識見に相當せずその給與が自己の勤勞に値せないとて、現在の職務に不滿を抱き、猥りに職務を轉換せんとする者がある。これ等は皆な自己の眞價を過信し、自己を誇大視するの徒である。

自身の價値は到底自分自身で認識される者でない。眞にその價値を判斷するものは、自己以外の人でなければならぬ。若し十二分の待遇を受け、十二分に認められやうと思へば、奮發して熱心職務に當り精力を傾倒して、自己の有するところの技能力量を發揮するほかはない。

要するに位置の昇進といふものは希ふて達するものでない。行ふて得べきものである。自己の榮達を期する人は、靜かに其の根本問題に立返つて自己の實力を養成することに努力せねばならぬ。卽ち自己の實力を養成して、その素養を自己の業務に遺憾なく活用する者は、自然の法則に從つて

るから漸々に昇進する『榮達は努力の子なり』立身は實力の子なり』と云ふ言葉には、實際的の眞理がある。

自己の技能に對する相當の待遇とか、または位置の昇進とかについての、不平不滿は別として、下僚の輩は、よく上長に對して苦情を言ふものである。併し苦情といふものは、性質によつて歡迎すべき點がないでない。惡るい動機からきた譯の分らぬ、道理に背いた苦情に至つては、双方の意志に縺れが生じて、誤解を招くばかりであるが、善意の苦情は、仕事に對する良き刺戟劑ともなつて、これがため改善することもある。故に善き苦情と見たら、之を充分に聽取して、それを善用する必要がある。

×大膽にして小心なれ

放膽的の人は、如何なる困難も、繁雜なる事務にも屈せず、立忽に解決するのである。かう云ふ手腕は怯懦者には、到底望むことが出來ない。けれども誤解しては不可ない。大膽と無法とは、全然別である。無法は亂暴を意味し、無智を意味するが、放膽は果斷、放爲を意味してゐる。

しかし放膽が、唯だの放膽に流れるときには、動もすれば無法に陷り易いのである。故に放膽の後には如何なる小事をも、これを輕視せず、看過せざる、注意深い小心が必要である。要するに放膽と小心とは夫妻の如きもので、二つの者が相俟つて、初めて効果を奏するのである。

日本軍は大膽にも、今回の戰爭に大軍を擊退して戰勝を博した。併しその前に方りて、小心もつて色々と軍事上外交上の研究をなし、周密に謀計を繞らしてゐたのであらふ。故に放膽的でも、小心でなければ、往々にして失敗し、小心にして注意深くても、放膽的でなければ事を斷ずるの勇氣が乏しくなる。業務の秘訣、又茲に在りと謂はざるを得ない。

世の中に、大事業をなしとげた人々は、皆なこの放膽と小心とを兼具へた人である。だから拔群の人に成らうと希望する者は、こういふ事業家を模範となし、理想となして常に心の修養をしてゐ

なければならぬ。人間は或る意味において、精神上の不具者である。けれども此の不具に滿足しては不可ない。人は心懸け一つで、如何やうにも善くされるから、常に向上心を抱いておらねばならぬ。

×言葉多きは科少なし

『船頭多くして船山に登る』といふ事がある。議論多く、遂に本來の目的を忘却して、岐路に入る者を諷刺せる言である。土木建築家は論客でない眞理の研究者でもない、學術の研究者？でない。どこまでも土木建築業者であつて、その本領は言ふにあらず、語るにあらず、唯だその仕事をするところに眞價がある。然し近來の人、動もすれば前に先づ之を論じ、又語り過ぎる弊風がある。

ある人達をみるに、左程大問題でもない事を、八釜しく言つて、議論をなし下らぬ事の詮議立をして貴重な時間を濫費する人もある。斯る所は、表面に活氣が横溢してゐるやうに見へても、實は議論や、喧噪のために周圍の空氣が、何となく曇り克ちになつて其組の精神が不快になるから、事績が擧がらないのは少しも不思議でない。仕事は口でするものでなく、手と心ではたらくのであるから、只だ誠實に熱心に執務すれば能率は期せずして增進する。智者は常に、口を噤みて語らない。それ故、實績が擧るので、之に反して愚者は徒らに空論に耽けつて、その職務を等閑に附するから進歩しない。

×怒る者は壞る

人は感情の動物である。少しく感情を害せば直ぐに不快の念を起して忿怒する。しかし價値なき憤怒は自己を傷け、また人を害ふばかりである。人は少しく怒るとすぐその言葉が荒く、又顔色が變るのみでなく、事理を判斷する力を失つて、己れを不利益の位置に落し、後ちに至つて夢の覺める樣に悔ひるのである。昔の武士は爭論するとき互に情が激するほど言葉を謹んで、なるだけ柔らかに應接したそうである。斯くすれば議論の道筋もたち、双方の感情も餘り昂らず、有効にその議

論の終結を告げ得る。

何事でも、冷靜に考へて、物の道理を辨へ、輕卒に怒る樣な事をしてはならぬ。斯く言へばとて人間の忿怒を絶對に禁ずるのではない。人類には義憤と云ふものがある。昔から宗教や、道德を說いた偉大なる人格は、罪惡に充たされた社會や、人類に對して、憤慨し、熱烈なる言葉を發して、かれ等の罪惡を責めておる。故に正しい怒りは、寧ろ人間として、立派な精神を現はすことにもなる。『怒る者は愚人なり、怒り能はざる者もまた愚人なり』是は、此間の眞理を、よく說盡しておる。

怒りは、非常に精神を疲勞するものである。故に多くの場合、怒りが他人を害ふと云ふよりも、寧ろ自己を害ふことがある。思慮なき怒りは、人間として大なる損失であると謂はねばならぬ。

人は大問題の爲には怒らずして、寧ろ小さい事柄のために、青筋立てゝ激怒する事がある。人は大局のために、利害得失を考へて、抗論すると云ふよりも些々たる枝葉末節のことで歪み合ふの嫌ひがある。國家社會とか、人類又は組とかの運命について、義憤を燃やすやうになつたら、偉いのである。

總じて怒り易き人は、常に自ら不利を招き、人の同情を失ひ易い、從順は人の美德である。從順な人は猥りに怒らないから人の愛敬を受けることが多い。若し人の愛敬を受け、立身出世をしやうと思へば斷じて怒つてはならぬ。使はるゝ人が、上に對して怒るのは、殊に不利益である。怒りは總ての物を破壞し折角成立たんとする事でも、一朝にして打崩す故に、如何なる學藝才能あり手腕ある人でも、怒り易き性質があれば、その人はどうしても建築家として、不適當である。

×競爭心と嫉妬心

競爭心の旺盛なる者は成功をするが、然らざる者は自滅する。現代は競爭の世の中である。政治も實業も學術、商工業も、皆競爭しないものはない。競爭激しきものには、進步著しく、競爭なきものは死滅を來すやうである。これ當然の理路であらう。競爭は人生の光明である。人間の理智と

能力とは、斯くして向上し發展するものである。

砥にかけない刀は切れない。人にとつて敵は砥である。昔から成功の人は、大敵と競爭して死力を盡し、終にそれを斃し、幾度か大難關に出會して非常な犧牲を拂ふて我自ら訓練したのである。

平常ならば、五貫目の石もあげ得ない者が、一朝火事の如き大事に遭遇すると、十貫目の物でも易々として運び、終にわが力の大なりしに驚くやうなことがある。之は常に自分の經驗する所である。人が小さい競爭や、小敵を相手にするときは眞の力量は判らぬ。併し一朝大敵を相手に競爭しはじめると不思議な力が出て來るものである。この第二の力を發見して、速に之を活用したならば確かに從前よりも、一層顯著な成功を收めるのである。此れらは皆自分が數年間犧牲を拂ひ來りたる實驗談なり。

而し競爭心と、嫉妬心とは似て非なるもので、大に其内容を異にしてゐる。競爭心は活動を意味し、嫉妬は精神の萎縮を意味する。

他の人が立身出世するのを見て、之を羨み、嫉妬するは、要するに、彼に及ばないことを、自ら認め、自ら他に告白することである。たとへ同業者が地位を進めても、自分が他に劣るところがなかつたら、自分もやがて、立身出世するものとして、一層奮勵努力するから、他の立身を羨んだり嫉妬煩悶したりする要はない。嫉妬や猜疑の念をおこす者は、多く無能の人であると謂はざるを得ない。

されば嫉妬心と、競爭心とを混同してはならぬ嫉妬は小人の病、競爭は大人物の光りである。嫉妬は自己を破滅に導き、競爭心は自己を向上進歩せしめるものである。

×計畫より實行生る

『一年の計は元旦にあり、一日の計は朝にあり』と。人は、一日、一年の出發點において、前途爲すべき仕事の、計畫を立てゝ置かねばならぬ。其樣に建築家は、明日の仕事の計を立つる必要がある。之れは極めて當然のことであるが、業務に忠實な人でないと、それを遺憾なく實行することが

むつかしい。

すべて業務について、確然とした計畫を立てゝある人は、如何なる難事に遭遇しても、また紛然雜然たる事務に當つても、其の精神を錯亂することなく、最初に一定した方針に向つて、勇往邁進するけれども、計畫なき人は、些細な事にも當惑して、何所から手を着けて宜いか、その判斷に苦しみ、その端緒を探し出すのに困るのである。人生に對する計畫なきものは、人生の放浪兒であつて、眞の人間と云へない。自己の業務に對する計畫なきものは、業務の放浪兒であるから、假令、一定の職業を有してゐても、眞の有職者であるとは云へぬ。

然し世には『計畫ずき』『計畫倒れ』の人がある。彼等は朝に計畫を樹てゝ、夕に之を破棄し、又新らしく計畫を立直す樣に、朝夕、計畫立る事ばかりに沒頭して、少しも實行に着手せず徒らに其日を暮す。かう云ふ人は、所謂『計畫病』に罹つた患者』であるから、到底、尋常の人として、之を律することは出來ない。

計畫は實行に伴ふてこそ、初めて價値が現はれるのである。故に實行の伴はない計畫は、單に架空の妄想と言はねばならぬ。建築でも、設計の圖案許り書いてゐては、百年たつても家屋は出來あがらぬ『計畫倒れ』に終る人は、資力なき圖案家に等しい者である。計畫は親であつて、實行は子である。故に計畫したら、直ぐそれから實行が生れて來ねばならぬ。

計畫は事業について、最も必要なもの、故に建築家は、各々その計畫を輕んずることなく、常に周到な用意と、緻密な研究を爲して、新たに計畫を立て、そこに確信を得たれば、直ぐ之を實現するようにせねばならぬ。

中には、新たなる計畫を樹つることに贊同せず新規な計畫を立てるよりも、從來の習慣を行ふて行けば、それで立派に成績は擧るものであると言ふて、頑固にも舊來の形式を墨守する者がある、斯ういふ人は、所謂る『實行病』に冒されてゐるのである。斯る人は、決して、健全なる現代の建築業者とは言へないのである。吾々は舊時代の建築

家とならずして、最も進歩せる現代の請負業者となりたいものである。

さて物事が計畫されたら、同時にその實行の方法を立ねばならぬが、この實行は、共同の力を俟ぬと到底美はしき結果を見ることが難かしい。要するに計畫の實績を擧げるには、組員が相倚り相扶けて行くの外ないから、結局、使はるゝ人の共同一致の精神を鞏固にせねばならぬ事になる。

×時の貴重

『時間』は買占めるものである。逃げる『時』を追駈ける位では、手緩いのである。之を一日の朝なり又ある時に、買占めて了ふのである。斯うすると『時』の全體は、自分の物になつて、意の如くに仕事も捗つて萬事に好成績を擧ることが出來る。

多くの成功者は、この『時』を自分の所有物として、『時』をさま〴〵に利用したのである。彼等は人が安閑として逸樂してゐる際でも、自分は、何か仕事をしてゐたのである。彼等は、屑と思はるゝ時間を拾ひ聚めて、それで間斷なく仕事をした茲に於てか『時は金なり』と云ふ意義が明瞭になつて來る。

或る人が、斯う言つた。『一日二時間づゝ讀書を續けたら、三年目には、一廉の學者になれる。若し事情が許さなかつたら、一日、三十分でも、二十分でも宜しゐから、讀書せよ』と。學問は貯金のやうなものである。一日、五錢か、拾錢かは、端た金のやうに思ふけれど、十年、二十年と貯金してゆくと、利に利が加はつて、それが莫大の金高になる。それと同じく一日、二十分か三十分の僅かな時間でも、夫れが積ると一廉の學問ができる事になる。人間の成功と失敗は時を獲たか、時を空うしたかの二つに歸著するのである。

以上は、單に私が從來より實際の經驗を土臺としたる個人の、利害得失に關する問題ばかりを說いたに過ぎないが、凡そ其組其店にあつて使はるゝ人となるからは、成るべく時間を經濟に使つてその店の發達、および隆昌のために、最善な努力を捧ぐる義務と責任とがあることを記憶せねばならぬ。使はるゝ人はあさましい奉公人根生をおこ

さず、一度びその店に使はるゝ身となつた以上はその店を心より愛し、或る場合には自己を犠牲にして店のために圖り、時を黄金の如く惜み、最も有利有効に活用して、組の利益を圖らねばならぬ

我々の今在る『時』は、永遠に續いて居る。其の意味は深長である。『時』を徒消する、其費や大なりと謂ふべしだ。

最近財界の動搖で、般盛時代に我々業者に直接イタ手を與へた手合階級は、寧ろ微笑を浮べつゝコンナ時が來なければ助からんなどゝ、不振を快しとせない迄も一種の復讐的感念から痛快がる人も有うが、請負業者は重荷を搭む車の眞棒の如きもので、重い責任許を負されて居る、ボロ儲けをした中に、猫も杓子も掻つ浚はれて好況の海に泳ぎ廻ていた所謂鮮なる者、昨今の慘めさを同じ失業者の中にもいきり返へつた丈それ丈哀れなもの、而かも一般備主側の意見は、好況時代にこそ使ひもしたれ、こう財界が沈靜に歸して來ると、もう確實な者でなければいけない。何故なら其日々々を定むる所なく放浪する彼等には、第一に誠意と云ふものがない。從つて力の出し惜みをし、油、を賣る、其クセ賃金の多くを望むと云ふ始末、故にヨク〳〵の人夫不足にでも遭遇せなければ備へないと、併し此れが强ち鮮のみには限らない現下に於ける產業界は、實にコノ誠意と腕とに依る、人員淘汰に就て目を光らし出して來た事實だ否產業界ばかりでない、夫れ今や國家的の廣義に云へば。世界的のすいせいならんとしつゝ有る心事藝當に依て活きんとする手合も、賣名を、底意に親分振る手合は充分にこの誠意なるものを以て事に臨まねばなるまい。殊に今後は何に依らず、小心に注意し各從事實務者の誠意奈何こそ其全般を左右するバロメータだ。折角今日迄收獲し得たる同業者の向上信用を、丁度船夫に任ねた船を、船に經驗のないものが勝手に陸上から指圖する程危險な事はないのと同樣、方向を間違へて橋杭に衝突してぶツ毀さない樣要心が第一である。水時計とやらの世は過ぎ去つて、今一秒を單位とする世の中である、故に右に陳べた樣心掛た人こそ現代の强者である。

（有山識）



法隆寺古建築に就て（中）

工學博士　天沼俊一

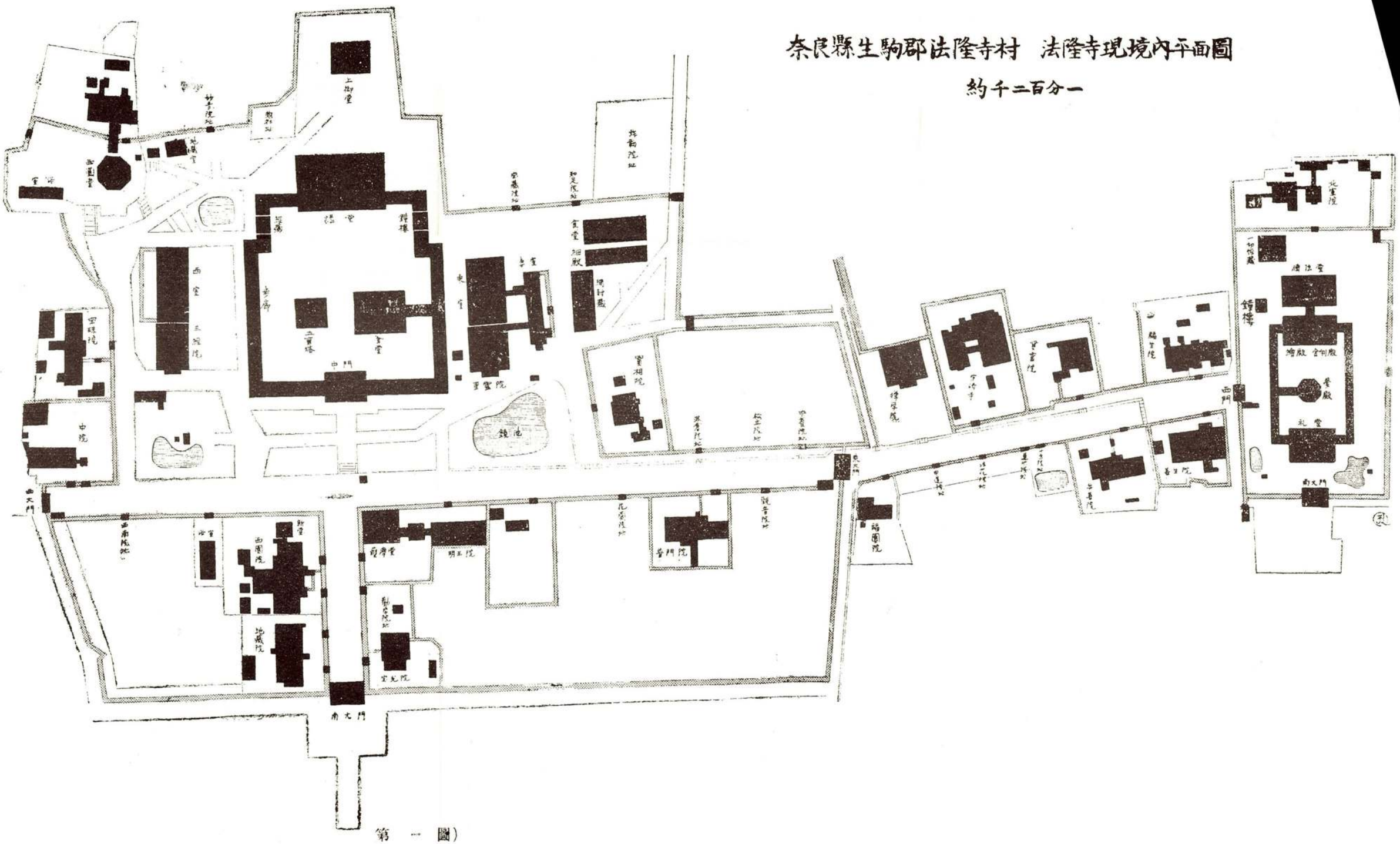
（研究）

步廊（續き）　單廊で外側の柱間には荒い連子窓を入れ、内側の柱は遊離してゐます。柱には中門と同樣エンタシスがあり、上には皿斗付の大斗をのせ其上に三斗があり、梁間には斷面が▨形の原始的虹梁を架渡し、虹梁の上に合掌を置き、其の上は又三斗です。柱上の三斗及び此合掌上の三斗で、夫れ夫れ桁及び棟木を受けてゐます。步廊の構架法は大概皆斯樣ですが、新らしい時代のは虹梁上の合掌の代りに蟇股がおいてあります。曲り角の納りは却々面白いですから、態々覽る價値があらうと思ひます。樣式は飛鳥時代です。

前にも申しました通り、步廊の二度目の曲り角あたりから北は、講堂再建の時に建て增しをしたのですが、どうも正暦頃と認められゝ材料は遣つてゐない樣です、間違つてゐるかも知れませんが此邊は文安頃に建てかへたのではないか、左樣でなければ少なくとも其頃再建に等しい大修繕をしたのではないかと思ひます。次は

奈良縣生駒郡法隆寺村　法隆寺現境内平面圖

約一千二百分一



第　一　圖）

金堂ですが、此も有名な建物で、隨分澤山の論文が書かれてゐますし、中門と同樣と考へますから諄々しくは申しませんでおきます。觀る時注意すべき點も亦中門に同じであります。

此堂と五重塔とは二重石壇の上に建つてゐますが、兩方共上壇は全体凝灰岩から出來てゐて、地覆石と葛石との間に束石がない、下壇は普通の壇上積になつて居り、石は花崗岩です。此の二種の壇は無論上壇が當初のもので、下の方は後世の修補です。歩廊の石壇も修繕前は、西側は全部土砂に埋り全然壇はなくて、平地から建つてゐました東側は所々に凝灰岩の一部が點々露出してゐた許りで、たゞ正面丈けは花崗岩で石垣積になつてゐました。然るに數年前西側歩廊の北半部の修繕に着手して間もなく、經藏の南の折れ曲りの處で、偶然原の石壇の一部を發見しました。葛石は一本もありませんでした、矢張凝灰岩で地覆石と羽目石と一石から刻み出されたのが、大小十箇許り一列に竝んでゐましたが、此等にも束石のあるのは一本もありませんでした。以上の事實から考へてみると、飛鳥時代の石壇は

比較的施工し易い凝灰岩を用ひ、其積み方は葛石と地覆石との間は羽目石のみで束石なしといふ事になります。ですから金堂のも塔のも上壇の方が當初のものです。歩廊のも此發見した當初の石を、証據になりますから一部分再び使用に耐ゆる丈けを舊位置に用ひまして、大部分の不足は、今では到底此石を得られませんから、止むなく花崗岩を用ひ、樣式丈け原形に倣つて補ひましたのです。

金堂及び塔の上壇の側面は、まるでコールタアでも塗つた樣に黑光りがしてゐます。此黑いのは近年、金堂の壁畫保存方法調査委員會で調べた結果一種の黴菌である事が判りました。此黴菌が石の面に繁殖したので幸にこれが防腐劑となり石の分解を防ぎました。其爲め今でも此黑いものゝ附てゐる石に限り、當初施工した鑿の跡を明瞭に見る事が出來ます。黴菌に碌なものはありませんが此等は都合のいゝ方で、何が幸になるか判りません。此石の事は今迄餘り知られてゐない樣ですか

ら一寸申したのです。

夫れから堂内の佛像莊嚴に就て一言致しておきます。堂内へ入りますと、三間二面の内陣一ぱいに漆喰塗の佛壇があり、周圍には朱欄があるが此は江戸時代のものです。壇上には向つて右に、推古天皇の十五年に出來ました藥師座像があり、中央には釋迦三尊がある。最初は藥師が本尊でしたが、後に釋迦像を鑄た、此方が大きいので藥師を右へよせ、釋迦を本尊として中央へ安置したのださうであります。此は有名な鳥佛師（又止利に作る）の作で、此人の作つた確証あるものは此れ丈けであります。背光の裏に造像の理由が彫りつけてあるから確かであります。で此像と藥師と比べてみると總ての點に於いてよく似てゐる。だから作者の名はないが、これも同じ彫刻家の作であらうといふ事に推定されてゐます。

左端には彌陀三尊があります。一見釋迦藥師と同樣式ですが、少し注意して觀ると、面相・衣紋・背光等凡ゆる點に於いて大分の差があるのは誰人にも容易に判ります。

東側の玉蟲厨子は申すに不及、北面の中央には橘夫人厨子といふのがありまして、臺座・扉等に參考すべき繪があります。此厨子の屋根と金堂の天井から下つてゐる天蓋——東の端のは天福年間の模造で大分時代が後れるから別です——と比較研究すると、時代の差による手法の變遷が判ります。内部の彌陀三尊・下に敷ける蓮池の薄肉彫刻ある銅板・佛躰後方の精巧な透彫ある背光及び障屏等は、入念に觀る事が必要です。此厨子は玉蟲厨子より少し時代が後れ、奈良時代の前期のものであります。

金堂を出てから塔へ入る時に、東側の壇上へ立つて金堂上重の破風の拜みのところを見ると、少し高く且つ遠過ぎて明瞭には見にくますまいが、面白い形の金銅透彫の金具が打つてあります。樣式上飛鳥時代と思はれます。次に

五重塔　ですが、外部では四重目の中の間の肘木が兩方から中央で突きあひ、上に共通の雲斗をのせてゐる事、五重目が二間になつてゐる事、初重から最上重迄の軒先の見通しが折線をなせる事、

及び柱と勾欄と水煙とに注意せねばなりません。下層の四隅に篦篌を懸け、最上最下の兩層に雲珠を据ゑたといふ記錄もありますが、どうの昔に亡くなつて了ひましたから、どんなものがどんな風に下つてゐたか判らないのは遺憾であります。

初重内部へ入りますと、四面が皆洞窟の形に出來てゐまして、其内に多くの塑像がありますが、其れ等の中で割合に型のいゝのが當初即ち和銅のものであります。西側の奥まつた所にある金棺の模様は立派なもの、其前に置てある舍利塔は餘程型の變つたもので、此時代(和銅)の舍利塔の模範とする事が出來ます。其次に見るのは西側の**經藏**です。原は經樓と言ひました、高い切妻造の建物で、上下層の間に椽があり、勾欄がついてゐます。上層内部は化粧屋根裏で、柱上は例の二重虹梁蟇股式ですが、其蟇股は唐招提寺講堂のと同じで兩肩が少し張つてゐる丈けの差です。經藏も文安に修繕がありました。斗栱の若干及び破風懸魚等は此時に取替へたのでせう。建物の内には名は經藏ですが今は何も入れてありません。建物の向ひは鐘樓で、經藏と同じく三間二面二重切妻造。鐘樓としては經過の年代から言つても樣式から觀ても最古のものです、鎌倉以後は四本柱を建てた式か又は袴腰のついた式の許りですが、これは全く異つた式です。

此建物は平安時代後期といふ事に學者間に認定されてゐます。最近修繕落成して立派になつてゐますが、修繕の爲め全部を解体した最中に行つて見ましたら、建物の下は燒土許りで、火にかゝつた礎石や燒け瓦の破片等がありました。天平十九年の流記資財帳(財産目錄)に『樓二口(一口經樓一口鐘樓)』と擧げてあるのに、現在のは時代が後れ、其上燒けた証據が確かですから、當初のものでない事は動かないです。

建物の外觀は二重ですが、内部はさうでなく、上から飛鳥時代の鐘が吊つてあります、我國最古の鐘ですが、鑄造の仕方は頗る粗雜で、龍頭等は女型の合せ樣が惡かつたせいか、左右の各半面はずれてゐる上に合せ目から湯が喰み出し、上下帶

のつよい唐草も鑄疵だらけですが、撞座の蓮花紋は境内から時々出土する當初の疏瓦の或種の文樣とよく一致してゐます。撞座の位置が割合に高いこれは別に理由もある樣ですが建物に關係がないから今は見合はせます。今度は

講堂　に移りませう、位置來歷は先刻申しました通りだから略します。九間四面單層入母屋造の大建築、大講堂の名に背かない洵に堂々たる建物でありますが、外部は妻の破風や懸魚位の他は餘り變つてはゐませんが、謙倉末に殊に內陣天井の附近に大修繕がはいつてゐる樣に思ひます。記錄によると丁度延文年間の修繕の時に手入をしたのでせう、屋根の鬼瓦には應永十二年の銘のあるのがありますから、或は右の修繕は其頃かも知れません申譯の樣ですが實は下から見て推定ですから間違つてゐるかも知れないです。床は瓦敷。

以上で最重要の一廓を終りました、講堂を出ると後方の高地に

上御堂　がある、創立は確かり判りませんが記錄に永祚元年（今を去る九三二年）八月の大風に顚倒したとありますから、其以前から建つてゐたのでせう。此永祚の大風は餘程ひどかつたと見ゐまして、東大寺の南大門や藥師寺金堂の上重（裳階ともいふ）も吹き飛ばされたさうです。今の堂は文保二年（今を去る六〇三年）に上棟をしたもの、七間四面でよく時代の樣式を發揮した建物です。妻の懸魚は十年許り前に修繕をした時に此時代の式に據つて新しく造つたものです

此堂の前即ち講堂の裏を西に向つて西圓堂の方へ行くと

地藏堂　の前に出ます。三間三面入母屋素木造の小堂、外側では斗栱間の蟇股がよろしい、建築年代は應安五年で、棟木の下端に三行に長い文句が墨書してある中に、建立の年月もあるのです。此堂前の石段を二十許り上ると

西圓堂　の横手へ出る、本尊は藥師で高い所に建つてゐるので一に『峰の藥師』といふ。創立は養老年間ですが、後に顚倒したさうで、建長元年（今を去る六七二年）に再び建て直したさうです、此事は確かな記錄があります。

八角圓堂で正面に唐破風のある一間の向拜がつ

いてゐます、此向拝は江戸時代につけ加へたもので、無い方が餘程いゝ、併し鎌倉時代の堂へ江戸時代の向拝がついてゐますから、兩時代の樣式の比較研究が出來ます。

本尊の藥師は丈六座像で材料は脫乾漆、製作は奈良時代。臺座も此時代としては珍らしい八角形で、すつかり揃つて居ます。無論國寶です。藥師如來には常に十二神將といつて、武裝をした人形が十二ついてゐます。此場合にも十二神將はありますが、鎌倉時代のもので形も本尊に不釣合に小さい、寺傳では雲慶作といふ事になつてゐます。

堂內北面に慶長六年の鐘が懸けてあるが、鐘樓に下つてゐた飛鳥時代のとは千年程の差があり、從て其形に非常な違ひがあります。尙堂內には刀と鐘とが澤山に献納されてあります。鏡は平安時代より江戶時代に渡つてゐまして、室町時代のもの等は無數にあり、惜氣も無く柱や壁へ釘付けにしてあります。

（つづく）

平安朝の建築　此の時代になつて新に起つた特殊の建築がある、一種の塔婆で、「大塔」「多寶塔」等と呼んで居ます。此種の塔は弘法大師が初めて高野山へ建立したさうで此は現存してゐませんが、室町時代のものは和歌山縣那賀郡の根來（ネゴロ）寺に遺つて居る、初重は方形なるが內に圓い柱が圓形に並び內外陣の境になつて居る故に、圓形の平面を有する寶塔へ四角な屋根をかけた形であつて此塔の據つて來た原形がよく判る。

◇◇ ボストン市建築條例

鐵筋混凝土に關する規定研究

會員　早大工學士　伊藤正文

最近合衆國に於ても比較的完備した鐵筋コンクリート條例であると認められるボストン市の規定を見て、吾々建築の實務に關係するものにとつて鐵筋コンクリートの設計、計劃、又は施工上特に參照して便宜であると思はれる條を摘出して飜譯を試みることとした。

第十四條　耐火。スラブの主鐵筋はコンクリートの最小厚四分の三吋、ビーム、ガーダー、柱及壁に於ては厚一吋半を以て被覆す可し。

第十五條　柱に於て耐火の目的を以て被覆されたる外側一吋半のコンクリートは何等のストレッスを受けざるものとす可し。

第十六條　錆止め。基礎、レテイニングウオールに於て、土又は水に接する面は最小厚三吋のコンクリートを以て鐵を被覆す可し。

第十五條　配筋の間隔。スラブの抗張鐵筋の水平間隔はスラブ總厚の二倍半以内なる可し。ビーム及びガーダーに於ては水平鐵筋の並行間隔は眞々にて直徑の三倍より小ならざる可し。且つ鐵筋二列間のクリア、スペース、が一吋より小ならざる可し。

第十八條　設計の基本とす可き事。設計計算は(ultimate strength)(ultimate loods)許容強度と許容荷重とによるよりも許容應力度と安全荷重による可し。而して次の假定に依りて設計す可し。

第十九條　(A)彎曲前に平面なる斷面は彎曲後も平面なること。

第二十條　(B)壓力を受くるコンクリートの彈性率は通常の場合、許容應力度内に於ては常數なり。故にビームに於ける應壓力度の分布は直線的變化をなす事。

第二十一條　(C)彎曲に直接抵抗す可きコンクリートの應張力は認めざるものとす。

第二十二條　(D)應壓力度の下に於ける二つの

材料はそれらの彈性率の割合に於て働く。

第二十三條　(E)コンクリートの收縮硬化又は膨脹より起る鐵筋上の始應力は皆無とす。

第二十四條　スパンの長さ。ビーム又はスラブが兩端に於て單に支持さるる場合のスパンの長さは支點の眞々巨禽を取る、而してビーム又はスラブの厚さをクリアンバンに加へたるものよりも大に取る必要を認めず。

連續又は個定されたるビーム又はスラブに於て支點の中へ一體として構造されたるものはスパンの長さは支點間のクリアの巨禽を取りて可也。

ブラッケットは茲に云ふ意味よりクリアスパンを減ずる可からず。但しブラケットが個定されたるビームの軸又はスラブの平面となす角度が四十五度以上にて此等が一體と認む可き程度に構造さるる場合には梁間は、ブラッケットの端の厚さ以上に少くも其端の厚さの五分の一以上大なる總厚を有るす個所より測りて可なり。

茲に規定されたるスパンの兩端に於ては最大負の曲能率起るものと認む。

第二十五條　曲能率。ビーム又はスラブに於て一方向に配筋されたる場合、等布荷重より來る曲能率は次の假定に基き算定す可し。

茲に『W』を總靜荷重と動荷重の和のスパン一呎毎の荷重とす。

『L』をスパンの長さとす。

第二十六條　(A)兩端支持の單スパンの中央に於ける曲能率は $\frac{wl^2}{82}$

第二十七條　(B)兩端固定の單スパン、中央に於ける曲能率は $\frac{wl^2}{12}$

第二十八條　(C)二ツの等しき連續スパンにて各端支持の場合、

スパンの中央に於ては $\frac{wl^2}{10}$

中央の支點に於ては $\frac{wl^2}{8}$

第二十九條　(D)二ツの等しき連續スパンにて各端固定の場合、

スパンの中央に於ては

$\frac{wl^2}{12}$

中央の支點に於ては

$\frac{wl^2}{10}$

第三十條　(E)三個又はそれ以上の等間連續スパンにて、各端支持の場合端より第一のスパンの中央の曲能率は

$\frac{wl^2}{10}$

第一の內側の支點に於ては

$\frac{wl^2}{10}$

內側のスパンの中央及他の內側の支點に於ては

$\frac{wl^2}{12}$

第三十一條　(F)三個又はそれ以上の等間連續スパンにて、各端固定の場合、第一の內側の支點に於て梁の場合、

$\frac{wl^2}{10}$

スラブの場合

$\frac{wl^2}{12}$

其他內側の總ての支點及スパン中央に於て、

$\frac{wl^2}{12}$

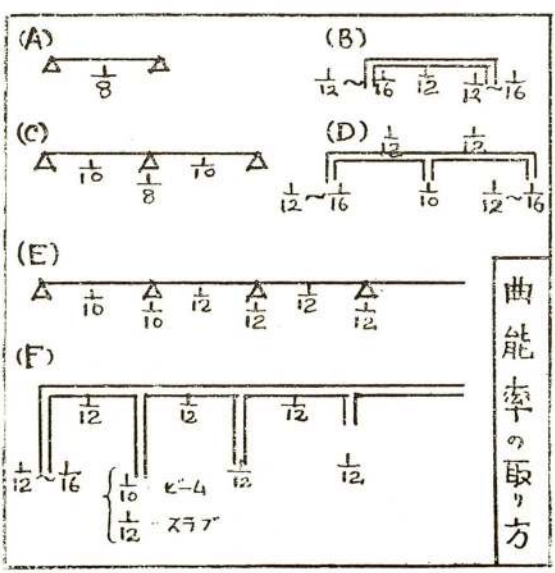
第三十二條　(G)連續桁に於て個定されたる兩端に於て起る負の曲能率は

$\frac{wl^2}{16}$

と一般には假定されるが之は小なるビームが大なる柱にかゝる時は增加して

$\frac{wl^2}{12}$

となす可し。



第三十三條　ビーム及スラブが構造物に一體として組立てられ、又充分固定され強固にしてその端に於て負の曲能率を起すと考へらるる時は、曲能率は $\frac{Wl^2}{16}$ より小ならしむ可からず。

第三十四條　等布荷重に非ざる關係の連續桁は第一に正曲能率を各端支持の場合と見て計算す可し。次に正曲能率を等布荷重の下にあるビームに就き規定せると同じ割合を以て減少する事を得。

而して支點固定の場合負曲能率に就ては第一に計算せる正曲能率に對して、前に規定せる如く負曲能率は $\frac{Wl^2}{8}$ 迄として同樣の比例を有せしむ可し。

第三十五條　一方向に配筋されたるスラブに於て主筋と並行なるビームにして、又そのスラブに他のビーム構架材なき時、又兩端の柱に一體として構造され固定されたる時そのビームの端に於ける曲能率は $\frac{Wl^2}{12}$ として計算す可し。又スパン中央に於ては次の如くす可し。ビームの軸に並行なる方向に於て測れる柱の巾が、柱眞々巨離の一五パーセントより小ならざる時又はビームの深さの二倍より小ならざる時に於て $\frac{Wl^2}{20}$ 又は $\frac{Wl^2}{16}$ とす可し。

第三十七條　四邊支持されたるスラブ　四邊支持されたるスラブにして二方向に配筋さるる時荷重の配布は次に示す式により決定す可し。

$$R = \frac{1}{\frac{b}{l} + 0.5}$$

茲にbはスラブの幅
lはスラブの長さ
rは橫に配置さるる鐵筋により働かるる荷重の割合なり。

第三十八條　四邊支持のスラブに配筋するに當り、曲能率は端に近づくに從ひ小にして中心に近づく程大なる事實を參酌す可し。計算されたる曲能率の三分之二はスラブの中央半分にて受けられ三分の一は外側四分の一の部分にて受けらるるものと假定せよ。

第三十九條　兩方向に配筋されたる矩形スラブを支ふるビームの受くる荷重は上述の公式より決定されたる割合に配布さるるものとし、荷重の分

布はスパンの中央を頂點とする抛物線の縱坐標に從て變化するものと假定す可し。

第四十條　床又は屋根の開口。床又は屋根にある開口は許容應刀度を超過せぬ程度に構造す可し

第四十一條　スラブの厚さ。

屋根スラブに於ては總厚三吋

床スラブに於ては總厚四吋より小となす可からず

第四十二條　『T』ビームに於てスラブより下の部分の深さは幹部に接するスラブの厚さの八倍を超ゆる可からず。

第四十三條　シンダアコンクリートのスラブは厚四吋以下なる可からず。又スパン八呎を超ゆるを得ず。

第四十六條　『T』ビーム。スラブとビームの幹部の間に於ける粘着力と應剪力とが充分安全なりと認めらるる時はスラブはビームの擴張されたる一部と考へらる。但し其有効幅はビームのスパンの四分の一を超ゆる可からず。又幹部の兩側、突緣部の幅はスラブの厚の六倍を超ゆるを得ず。

第四十七條　柱。コンクリート柱に於てクリアの高さが最小の斷面幅の六倍以上の時は配筋を要す。又如何なる鐵筋コンクリート柱も最小斷面幅の十二倍を超ゆる可からず。但し下の式による規定に基き許容應壓力を低減されたるものの場合には此限に非ず。

$$\frac{24-\frac{h}{d}}{12}$$

茲にHは高さ

Dは最小斷面幅

hdは十八を超過す可からず。

（此意味は即ち長柱としての計算になるなり）

柱の最大有効斷面積は外側被覆コンクリート一吋半の部分を除きて內側を取る可く、又螺狀筋コンクリート柱或は鐵骨コンクリート柱の場合は、螺狀筋を包む圓形內、鐵骨を包む多角形內を以て測る可し。

縱鐵筋は規定による彈性率に比例したる應力を受くるものとす。

第五十三條　縱鐵筋を主とする柱に於ては鐵筋

斷面積はコンクリート有効斷面積の一パーセントより少なからざる可く、又四パーセントより大ならざる樣にす可し。而して其の應力度は規定に於て許されたるものなる可し。

縱鐵筋は眞直にして直徑四分の一吋以上の鋼の箍筋によりて橫の變位を防ぐ可し。尙箍筋は縱筋の直徑の十六倍以上、且つ十二吋を超ゑざる間隔を保たしむ可し。

第五十四條　縱鐵筋が有効面積の一パーセント以上四パーセント以下の斷面積を有する樣配筋されたる柱に於て、尙卷筋（フープ）又は螺狀筋を有する時は、之に包まれたるコアーの容積の一パーセントより少なからざる量の卷筋又は螺狀筋を要す。卷筋又は螺狀筋の間隔はクリアにてコアーの直徑の六分の一を超ゑざる樣、又如何なる場合も二吋半より大となる可からず。應力度は規定によりて與へられたるものたる可し。

但し如何なる柱も高さはコアーの直徑の十倍より大なる可からず。卷筋螺、狀筋の端はそのすべての力をたよらしむるに充分なる樣強固に緊結す可し。又縱鐵筋に對して規定の間隔を以て充分強固に緊束す可し。

（續く）

都市計畫に寄する古歌

おぼつかないづれの山の嶺よりか待るる花の咲きはじむらむ。



「都市」

將來の『市加古市』(9)

ウオルター・デイ・ムウディ著
Z Y 生 譯

第七章 公衆 (三の二)

(六)

十二市街改繕に民衆をして投票せしむるに、計る可らざる程の貴い援助を與へたるものは、『ウエイカーの市加古都市計畫案の栞』てふ學校教科書であつた。該書は一種のインスピレーションであつた。『民衆と共に市加古市の都市計畫案を樹立せよ』てふ勸告の直接の産物であつた。

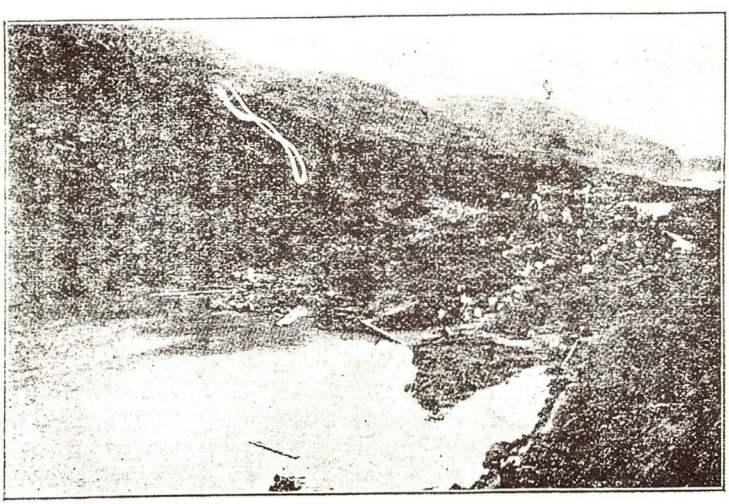
かゝる學校教科書を編むに、その内容となる觀念は、三語に集中して——即ち『計畫案を樹立せよ』てふ——案出せられてあつた。何事に於ても集中は成功の鍵ではあるが、併し集中に勝つて重大なるものは集中の焦點となる觀念そのものである。都市計畫案に對する諸々の觀念中、『公衆』てふ觀念こそ一切の價値を含むものである。それを探究するものには、それだけの價格を支拂つてくれる。だが、これは探究したからでなく、計畫案を

樹立せよ』てふ委員會議長の常に豊かな頭腦から出た暗示の結果である。私は曾て感じたが、かゝる觀念をして他と異つた特徴を有せしむるものはその觀念の源泉であつて、源泉如何によつて價値が異つてくる。これ私が該書に議長のあとへ『ウエイカーの栞』と題した所以である。

それから又私は、議長は計畫案を樹立すると同程度に於て、該案を宣傳し振興する責任あることを思ふ。民衆——全民衆——が、市の運命の大部分をその掌中に握つて居る人物、個人を親しく碧る様になる可きである、といふことは、私には明瞭である。該案の指導者に對する全市の信任と知識とは、該案に對する全市の信任と共に、肩を並べて進むべき筈のものである。

該書を學ぶ結果は三樣に現れる。即ち(一)兒童を仲介者として都市計畫案に、兩親の注意と同情とを引くこと(二)未來の市民をして市政運用に對する責任觀念を訓練すること(三)啓蒙せられたる市民によつて、未來に於て計畫案全部の最後の完成を遂ぐること。

該案教科書は千九百十二年、市加古市教育局に採用せられた。これ第一の計畫案が民衆の承認を



パナマ運河。有名なるニカラガ傾斜面、工事手着前普通に行ふ地理的測量を要せざる部分——米國の不用意を示す一例。

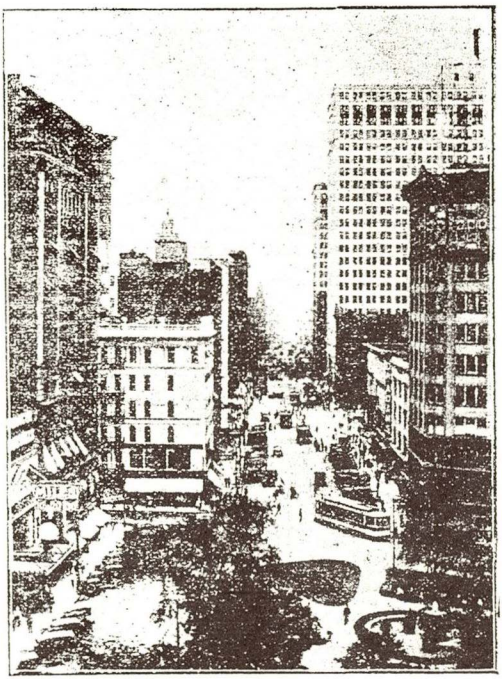
得るために民衆の中に入り行くに先きだつて研究さる可き最好機である。これ都市計劃案事業の標準的教科書として、その大なる收得に向ふ市民の義務を教ゆる標準的教科書として、研究を許されたる點に於て、歐洲のカレッヂや、特別な學校などでは既に都市計畫案が卅年間以上も研究せられては居るが、米國の教育局に於ては足踏みの第一歩であつた。これ疑もなく大西洋の彼方を國の諸都市が、科學的計劃案に從つて、驚く可き發達をしつゝある所以である。

（七）

『ウエイカーの栞』の第一版は、一萬五千部を發行した。第八年級の學課の一部として採用せられた。こゝに於て學校當局者は、計畫案遂行委員の願望に從つてくれた。小學校教育を卒へただけでヨリ以上の學校へ進むことが出來ず、自ら進んでか、或は止むなく直に實務につく生徒中の、大部分に憩へんとする當局者は確信をもつて居る。又人間の最も印象を強く受け易い時代である兒童に憩へ得る、といふ便宜もある。その教科書は地文學の形式に典據り、商業クラブ案報告の原本からとつた、美しい彩色圖畫の數々を含んで居る。又過去、現在、未來の市加古市に關する無數の地圖與味深い繪畫が加へられてある。緒言には以下の事實が繰返されてある。『若しも市加古市が手の屆く範圍内の機會を總明に實現するならば、又市が訓練された關明せられた市民の充分なる援助を受けることが出來るならば、市加古市は近世々界の中心となる可き運命を擔つて居る』といふことをこのことは又教師學生以下の思想に憩へる。

『一切の普通の少年少女に生來なる情感たり、而して彼等の生涯を通じて愛國的忠誠の行爲に表現せらる國に對する愛は、我市民の發達によつて、一個の伴侶たる情感——我等の諸都市の安全と幸福とを思ふ忠誠と情熱的の執心——を與へられる此愛團躰心なる——近世生活狀態の結果たる——新しき情感は、己の鄉土たる市、又は己が居住する市、若しくは己の家庭として選び取りたる市に對し、高い自制ある誇を一般に生せしめる。我等の各市に對する夫れ々々の愛市的衝動の誕生

高起を注意したる近世公共事象の教育者、指導者等は、此現象を以つて、國家の將來にとりて福利を齎らす大要素と見て居る。此現象の中に諸都市



デットロイト市 グリスウォールド街人口、一八九八年の二六一、六九三人より一九一八年の六〇三、九九三人の高度迄彗星的に增加す

に於ける、善き市制の到來を見て居る。又此衝動の發展と培養とは、國民的愛國心を深め廣め強め國民的躰制に強固にして永續的な性格を與ふるに善き影響あるを意味する。

かくの如にして我等の各都市の兒童等に、市に對し、その歷史に對し、その成長に對し、その現狀に對し、その未來に對する鋭い明かな鮮活な興味を持來らせる必要が、一般に承認せられる。各市にかくも幾百萬人の民衆が市に生活し、市の成長が都市集中てふ方向に沿ふて進みつゝある事實は、即ち各市とその民衆とが大部分我國家の進路を定め、運命を形造ることを意味する。市は國家の政治を左右する。政府の善き秩序、清潔、正直、經濟に對する衝動は、我各市の兒童等の教育の所產であらねばならぬ。若しも我國が歷史に於て其進路を連續し、文明に於ける地位を支持せんとならばかくあらねばならぬ。

此緒論は以下の陳述をもつて結んである。〝寧ろ此困難な題目に於て兒童を助くる爲に、各章の終に若干の問題を與へて欲しい樣に思はれる夫等の問題に對し、解答を求むるは、市加古市の福利に對する不斷の興味を、學童の心に注入し、嬲てこれが、我市の未來に無限の利益を齎らすこと、

なるのである。殊に各大都市の過去の歴史とその市を勢力あるものたらしむる原因を、適當に力說するが肝要である。市加古市をして將來偉大ならしむるために、市を助くるの責任は、一に彼等の肩にかゝり居ることを、兒童等をして感ぜしむる、これ本著者の熱切なる目的なのである』

（八）

第一期學習の終に當つて、學習の質問的方式に關する興味ある討議が、學校當局者等の間に起つた。一教師は題目分解的方式に改めると言ひ、他の教師は歸納法式にせんと主張したが、結局三法式の得失は、これを討議的問題とするが最善であるといふことに決した。各教師、校長のカンバスは、疑問法式を續くことが最も都合が好いといふ點に、大勢が傾むいて居るのを示して居る。

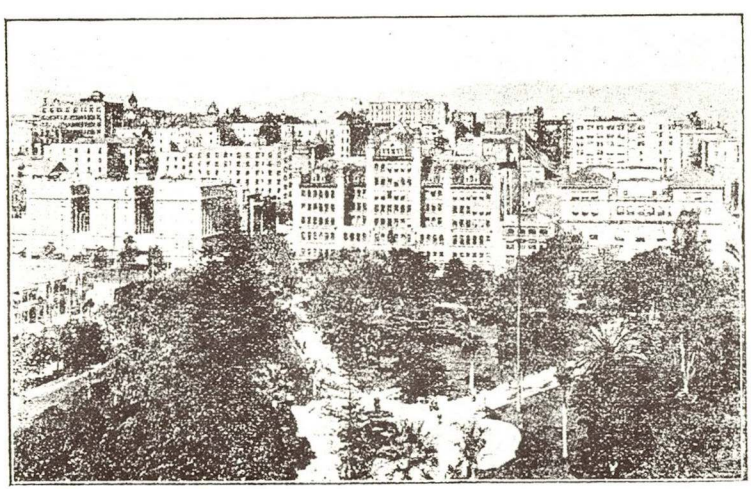
第八年級の兒童に理解され得らるゝ程に十分に簡單な言葉に、市加古市都市計劃案を描くは容易でない。のみならず教師中には該教科書は、『兒童の肩には擔ひ切れぬ』と考へて居る者もある。學務局長の考はそれと違つて居て『兒童等をして兒童自身の制限せられた概念の淺瀨に飛び込ましむるよりも、著者の標準の高度に兒童等を引上るが最善である』といふ意見をもつて此問題を解決した。

市加古市の都市計劃案の學校に於ける學習は、著者が豫想したよりも勝つてその目的を達した。その成功は著しく興味あるものである。教師の多くは言つて居る。兒童等はその學習に最も深き興味を感じ、魅せらるゝ思のする勉學であるによつて、更にその時間を延ばして貰ひたい。と更に進歩的な教師や校長等は、市加古市を己の愛情とする樣に、その學習を己の愛情として居る。彼等のそれに對する興味は、學童に反映する、全市の學校に於いて、兒童等の走つた專門的方面の展覽物計劃案論文、演說等に表現せられ、最も興味あり價値あり信頼すべき部類の暗誦をなして居るのである。

私は曾つてゲット地方の一に近い、十四ケ國の國民を全含して居た一校の開校紀念日に於て、外國種の十二人の兒童等が、計劃案に就て三分演說

をしたのを聽いた。その案の構成は、私の一生涯を通じ、專門家をも含む如何なる人が演述し得た最良の議論の中に加へらる可きものとして記憶するであらう。これが、そこに出席せる兒童等の誇を感じつゝある兩親等に及ぼす影響を想像せよ。この思は我等に該案が必らず驅逐せらるゝことなく確實に進み、學童等によつて推進せしめられ、果を結ぶに到ることが確實であるといふ印象を與へた。校長敎頭協會は該案の驚く可き使者となつた委員會役員の心中に、それ等の學校に對する溫かな感情が湧いた。彼等は集會、演說、主要な計畫案に關する著作物、該案の進行中の或は市の工場に製作されつゝある市への自動車旅行などによつて、市制に對する忠誠に就て、相互の結を固めて行つた。

主として學校の要求のために『ウェイカーの栞』は五萬部以上を發行した。各國の敎育方面の雜誌新聞の批評に上つた。米國の殆ど各市は該原稿を需用して來た。三都市は同樣な敎科書を採用した三都市、就中ボストン市は原稿數百部を注文して來た。米國全都市の獨立を實現し得るのであるならば、計畫案委員會はこの需用に應ずることを非常



ロスアンセルス市、は、一八九八年に六九、八三五人、太平洋沿岸の南方歩哨たる此市は、一八九一年に五一、二〇六に達して止れり。現在は人口八、〇〇〇、域内人口の大部分は商業區域よりなり、

に喜ぶものである。併し愉快中の愉快とすべきは『小枝が曲る方に、木は傾く』てふ觀念が各市の都市計畫案の中に根を張りつゝある一事である。これに對する興味が將來の市民の中に創造せられつゝある。少年中に市民的性格が建造せられつゝあり、市民的精神が鼓吹せられつゝある　かくも時代は熟して居るのである。

『現在市民たるの責任に就て、善き都市計畫案の裨益に就て、敎育を受けてゐる少年少女が、成長して市民たるの負擔を盡す曉とならば、都市計畫はその背後に善き市制的秩序に對する敎育ある擁護者の一軍を控ゆることが出來る』

右は全國都市計畫案評議會に於ける、ウエイカー氏の演說の一節である。續いて

『都市計畫案を成功せしむるには、どの市でも兎に角實際に着手し實現に進む前に、振興の道に入らしむるために市が命じ得る物は何物でも、凡ての科學、凡ての撓まざるもの、凡ての精力あるものを用ひて、科學者や建築家の熟煉の補充たらしめねばならぬ。

歐州に於ては都市計畫案建築家は、背後に政府の凡ての力を有する。米國にては彼は孤立の姿である。適當なる振興的努力によつて米國の民衆をして、彼を助けしめ、彼の觀念を裏書せしむることをせずして、曾て實現された都市計畫案はない

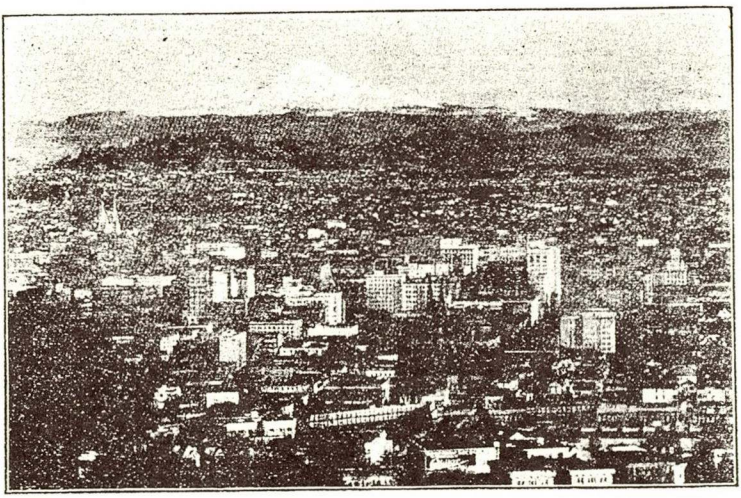
熱情が必要である。その都市計畫案にどれだけの功果があるかは問ふところでなく、是非必要のものは、その振興者が如何なる場合にも相手をしてその主張を認諾し、採用する迄に進ましむるの熱情に滿ちて居ることである。熱情を感じない都市計畫案振興者は、スカルボロが助言した樣に『外に出でそれをなす者に對し喚起せよ』である。

樂天主義は必要なる他の要素である。曾て建設的の仕事を成就した悲觀論者があらうか。汝自身の力と汝自身の責任とを疑ふは、これ勢力の徵であらうか。樂觀主義者は自ら乘り出し、彼の仕事を主張し、彼の閘舷を主張する處の人である。

（九）

我等が始めて、市加古市の都市計畫案を市に贈らんとする最初の努力の際に於ける、驚駭と困惑

とを回顧する。役立つ可き材料を廣く調査した。



オレゴン州ポートランド市、大平洋中央沿岸のエデンの國、人口一九一八年迄の廿年間に二八二パーセントを增加せり

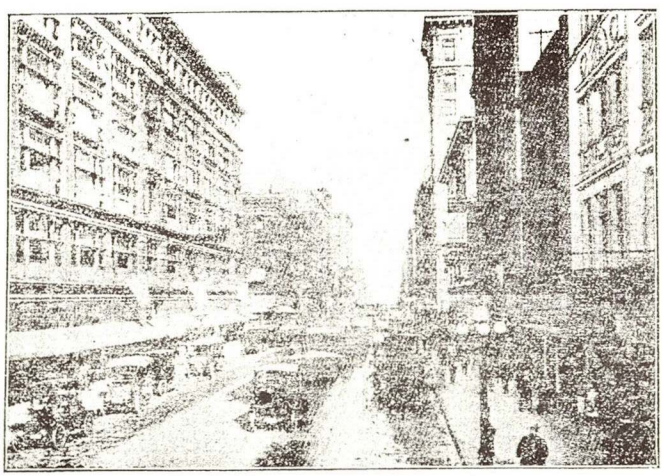
併しそれは殆ど何等の收獲をも齎らさぬ無益の努力であつた。最も善き米國都市でも、理論、實成の實驗ともに、供給する處甚だ僅かであつた。理論と實際の經驗に富む歐洲の各部分ともに、我等に役立つために飜譯することは出來ぬ。古代の成功の跡も、近世の結果には反つてこれを暗ましてしまふに過ぎぬ。かくして、我等は全然文字通りに『鐵鎚と舌』をもつて、我等の實驗から、我等を滿足せしむ可き講演を造り上げるために赴いた。初はあぶなつかしいものであつたが、終には一時間半の講演の間に世界の廿四ヶ國の二百葉以上の繪畫を示し得る通俗的の講演を組織するに成功した。批評家は專門家等の演述した通俗講演と比較して、好評を與へてくれた。

最大の困難と感じたことは、その問題を專門的術語から全く放れて說き現し、一般の興味を繫ぎしかもその說く中心を家庭の中に驅り入れ又該案の目的を握らしむるに足る丈けの十分な根本點を含むことである。長い成長や癖棄の結果、漸くその材料は得られたのである。費用も又非常にかゝつた。民衆用として現在の所最良のものであると

思ふ。文字通に我等は自らの經驗によつて學び、その經驗に從つて我等の進路を定めた。此經驗は波濤の中より生じた、第一の波は舷の横腹を打つた。

講演事業の初期頃のこと、大集會の終に或著名の演説家や大きなステレオプチコン(幻燈)の使用者等が、講演者に近き來つて言ふに『貴下の講演は甚だ良かつたが、幻燈は私の見たものゝ中で、映寫も非常に惡く繪も老朽である』と言つた。大忙ぎで翌日市の第一流の玻璃版畫家に相談をした玻璃版畫家は多いが、良い者は尠く、恐く二三人以上はなからう。僥倖にも米國一流の巡廻講演者に一人の無比なる畫家がついて巡廻して居たことを發見した。此人物を發見したことは從來我等が玻璃版畫家に支拂つて居た費用の三倍を要する樣になつたが、それに十分償して餘あるものである

それから繪の滑走や面白味を改良するために『世界の文明國中の主要都市に在住する合衆國領事に、その各市にある第一流の寫眞師の名を知らしてくれる樣にと手紙を書いた』これは時間がかゝつたが、その代り最後に世界中の最良の市の改善に關する寫眞を十分に蒐集するの報償を受けた。



ミヂアポリス市、商業本道路街、人口自一八九八年至一九一八年間に八十九パーセントを增加

それをもつて二千の玻璃畫版を作つた後に、二百の代表的のものを擇り集め、而して講演を繪畫の

立場からも出來る丈け善きものにすることを得て滿足した。

（十）

さうこうする中に又他の波瀾が、船中に打込んで來た。之れは新しい公衆學校の一の大公開所に催した一般社會の中心となるものゝ集會であつた出席せる民衆一千五百名、學校のオーケストラやグリー・グラブの音樂もあつた。校長は老齡な跛のアイルランド出のレデイであつて——鈍いが併し賢明な人であつた。集會が終へて後、講演者は彼女の跛なるを認め、彼の自動車で彼女の宅迄送らうと申出た。途中『遠慮なしに貴女にお尋ねしてもいゝでせうか』と敢て試みた。『さあどうでせうか。どういふお尋ねですか御質問を聽いて後に定めませう』と彼女は答へた。

『若し貴女が今私共の會話の間に、私の問に答へなさつて居る樣に、私の質問に答へて下さればそれで滿足なので難かしいことではないのです』

『まあ質問して下さい。早く廻りくどい前置は止めて』

『どうしてあの講演を貴女はお好きなのですか』

『若し貴下がその講演の出來ばえはどうか。聽衆にとつてどうであつたかをお尋ねならば、その點に就てもつて十分にお答へしませう』

『よろしい。ではそれを話して下さい。どこが惡かつたでせうか』。講演者はその講演が良いとは思つて居なかつたから。

『私にはその講演は良かつたです。併し聽衆は貴下がそれを終りなさるずつと前から、もうおちつきがなくなつて居りました。それはそれが餘に專門的で細かな專門的に重要な點に、餘に細かく這入り過たゝめです。さういふ點も貴下には重要に見えませう。貴下が餘にその問題に熟達してお出なものですから。併しそれ等は普通の市民には意味がないのです。改善完了後に煉瓦を市街に敷くなどの如きは、一般聽衆には何等の興味もないのです。群集に面白い樣にして下さい。出來る丈け左樣して下さい。そして貴下のなす可き點として私の求むる最善の點はその案のために一の精神をつくることです。砂を噛む如き乾燥な專門的材料

は、その精神を造ることは出來ません。別に民衆がそれ等の團體中心の集會で毎週その題目に關するあらゆる類の講演を聽くことが出來るならば、彼等は多少それ等に就て批評も出來專門にも近づくことが出來ませう。通俗的な法式をとつて下さい。玻璃書版を工夫し照準を……』

わかりました』とその講演者は叫んで、その會話を遮ぎつた。『ありがたうございます。私の求めて居た處と全く同じです。正直な建設的な批評を得ることは難かしいことです。』

かくして、經驗の分野から集めた凡ての最良點を混ずる樣にして、その講演を不斷に精煉した過程を完了した、最後の改正を試みた。

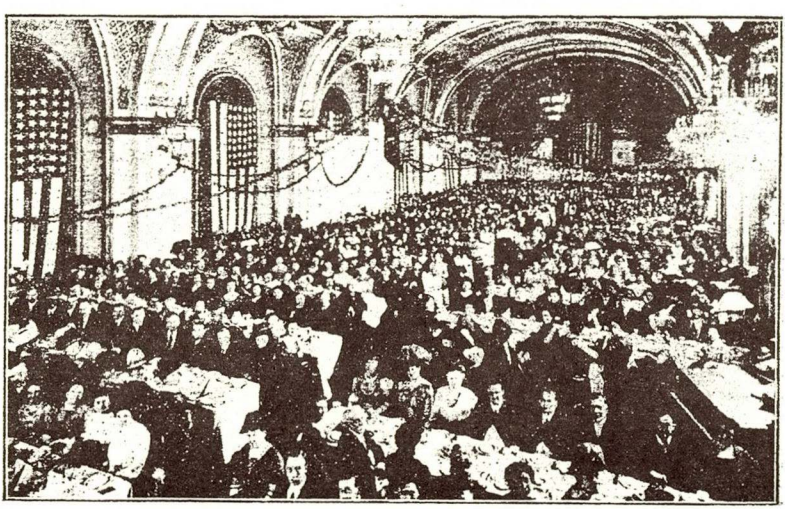
學校はこの講演事業を非常に助けてくれた。學務局は該案委員會の申込に應じ、無代で學校内の集會場を貸與した。更に最近に建造された建物には、五百人から二千人に適用し得る可能性のある坐席を有する處の、非常に立派に裝はれた會場をもつて居る。更に古い建物では（古いから自然新しい物の如く十分には裝はれて居ないが）二百五十人から四百人の坐する席をもつて居る居心地の好い集會場がある。公立學校ならばどこでも百五十人の集會場はもつて居る。これ等は附近の集會場であつて、市のあらゆる部分に散在して居て、辯舌の必要である處のどの市に關する戰鬪にも甚しく便宜なものである。

（十一）

學校に開く市加古市都市計畫案講演會に如何にして民衆を引着く可きか。これその課業である。生徒を用ひてその兩親を招かんとする企は、非實際的のものとして敎師等によつて付けられた。こういふ道によつて兩親の出席を請ふことは、その相手に訴ふる點に於て遺憾なく個人的で、そして十分に廣く抱合的であると言へぬ。殊に招待は出來る丈け附近の大人に（其多くは學校へ兒童を送つて居らぬ處の）屆けたい、遂に幾らか費用はかさむが併し効果多き案が組立てられた。先づ講演のなさるゝ學校の會場の聽衆收容力を確める。そして宛名書きの團體を設け、會場が許す丈けの人數を、學校の周圍や附近から個人々々の姓名を選

み、二通その宛名の封筒を用意する様にこの仲間を訓練する。宛名を書くこられの仲間によつて、スタッフを押し郵送せられた封筒の中には、説明的の講演通知狀と、二枚の家族入場券とを封入しておく。この通知者の團體は夥しい通知狀を用意し、講演がヒラとなる用意が出來ると、宛名書きの團體は第一面に詳しく招待の趣旨を印刷する。これは凡て被通知者に『唯一のそして直接のもの』と見ねなくてはならぬ。

如何なる類にせよ、ステレオ版を避けるのはこういふ事柄に於て非常に價値のあるものである。こういふ招待の方法は會場の收容力の及ぶ丈け、會場を滿すに失敗したことはない。これ等の學校に於ける講演の百分の九十は冬期に行はれた。又學校は順次に選んで十分全市に亘る様にする　講演は委員會の役員三名によつてなされる。この講演事業に關係さる者は、該案の凡ての隅や裂罅をも親しく熟知せる者のみと定つて居るから、該案事業を十分に知らぬ者によつて誤つて述べられたり、誤つて解釋せられたりする様な虞はない。



最光の介紹の案畫計市都古加市るす對に長校師教校學



「住宅」住宅研究（二）

葛野建築事務所主
會員 建築工學士 葛野壯一郎

第壹 敷地の問題（續）

以上の八箇條が、フレッチャア氏が、主として衛生上の見地から觀た敷地選定の標準である。是を實際問題として其凡てに合格すると云ふ樣な土地を得る事は、比較的選定の自由を有する郊外地にありても困難な事は勿論、經濟上其他の理由から選定の自由を大部分拘束せらるゝ市街地に在つては、すべてに完全であるといふ樣な土地を得る事は一層困難である。

なほ敷地撰定について衛生上の考察以外、更らに吾人の考へなければならぬ重要條件は

第九條件　道路の完全なる事

である。土地そのものが如何に理想的でも、是れに通ずる道路其他の交通條件が完備しなければ敷地としての價値は、其半分以上を失ふ譯で有る。一般に道路の惡いといふよりは、寧ろ道路と名づく可き程の道路のない我市街地及び郊外地では、とりわけ是れは難しい問題である。次は

第拾條件　文明的設備の完備せる事

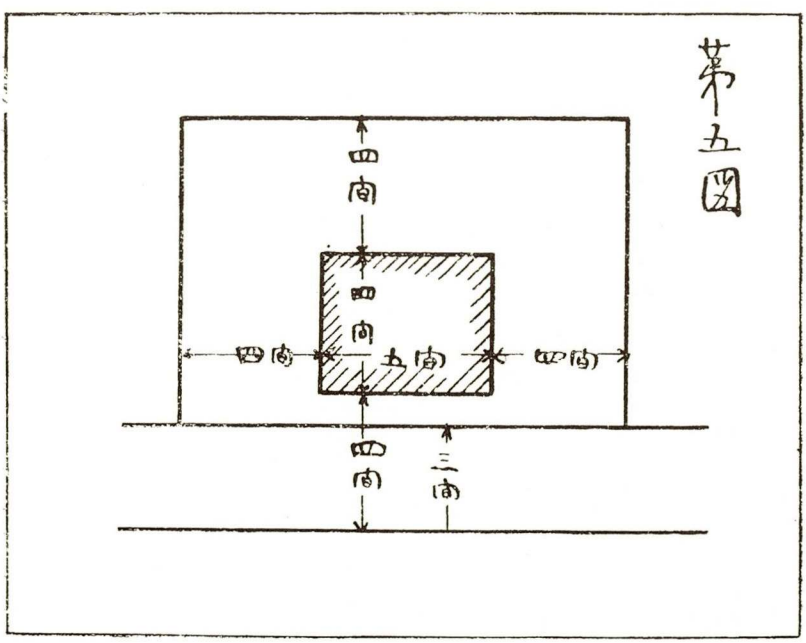
即ち上下水道瓦斯電燈電話の如き、すべて文明的設備が完備する事も必要な事である。現在何んな田舎へ行つても、電燈の無いところは無い程電燈事業は進んでは居るが、其他の施設をすべて完備して居る事は困難である。如何なる田舎に住居しても、都市居住者と同じ様に是等の文明的設備の恩澤に浴し、文化生活を物質的にも娯しみ得る事が必要である。其他

第拾貳條件　日常生活に不便を感ぜざる事

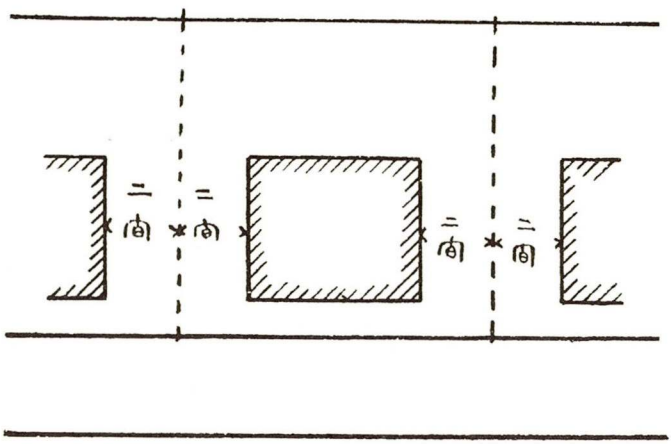
もまた是非考へて置かねばならぬ。日々の食料品は勿論、小供のためには學校、不時の病氣のためには醫師の所在、通信の便宜のためには郵便局安心して一家の生活するためには警察署、また日曜其他の日を娯しく暮し得る適當な娯樂機關等の存在、皆必要な事で、すべて是等の點を充分に考慮する事が大切である。最後に

第拾參條件　風景の宜しき事

も一應考へてみなければならぬ。必ずしも風光



第六図



明媚の地を要する譯ではないが、出來るならば景色の宜い愉快な、そして以上各項にあげた樣な條件を具備するならば申分はない。たゞ是れが住宅としての土地撰定に對する主要な條件ではない事を注意する必要がある。

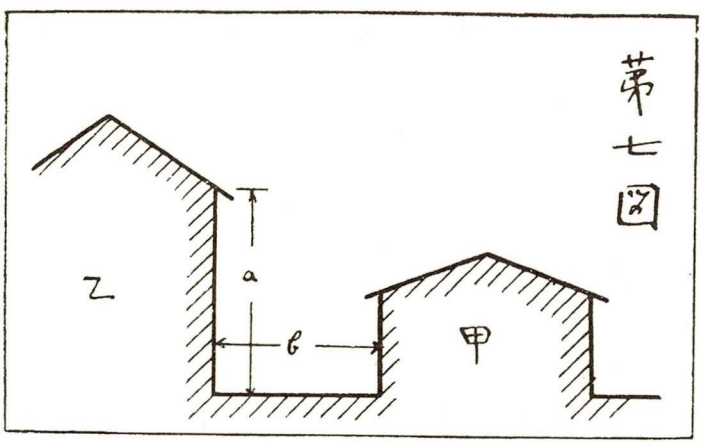
なほ此外に特に地方々々に限られた特種の狀況を、充分に知悉することが大切である。例令ば洪水汎濫の危險があると云つた樣なところ、即ち大阪府下にすれば淀川流域の三島北河內兩郡の或部分の如き、止を得ず左樣いふ土地を選定するならば、地盤についても建築の構造についても、縱しそれが十年或は二十年に一度と云つた樣な經驗であるとしても、相當考慮を拂つて置く事は親切な方法だと思ふ。先年私は三島の嘗つて水害の經驗のあつた土地の住宅設計を依頼された事があつたが、過去の經驗から觀て、床上の滲水が成る可く早く一日以內ですむだけの高さに、地盤も床も高く上げ、床下の構造を全然防水的に考案するは勿論、一朝水害の場合の跡掃除にも不便のない樣な排水裝置をもつけて置いたが、居住者も是れなら

ば全く安心して住めると非常に悦ばれた事がある新らしい『市街地建築物法施行規則』にも、其第八條に出水氾濫の虞ある土地には、右樣の事を命令し得ることが規定せられて居るが、是れは大阪地方の如き土地柄では事實必要な事である。

第貳　建物の配置

次にやはり土地に關して、敷地の中に建物を配置することに就て考へて見たい。即ち住宅として最少何れ位の空地が必要であるか、現在の樣に土地の價が益々騰貴し、市街地或は其近郊は勿論、遠く田舍に行つても多少交通の便宜のある處では少數の富豪とか特種階級の人は別として、一般住宅としては左樣充分な大さの土地を用意する事は出來ない、自然最少限度に制限せられざるを得ないのである。空地の最少限度としては、前に樹木の例に就て記したと同樣の意味で、少くとも各隣合つた建物が、何れも其軒高相當の距離を周圍に置くとすれば、略理想的とでは行かずとも大體支障の無いものと觀て宜からう。『市街地建築物法施行令』では、住宅地域内に於ける建物の高を六十五尺以内、また道路幅員と建物高との關係を一倍四分の一と規定して居るが、無論道路も空地の一部と觀て差支へないので、完全なる採光通風のためには勿論それ以上充分な餘地、即ち建物の何れの部分に對しても、少なくとも其高さ以上の間隔空地を存す

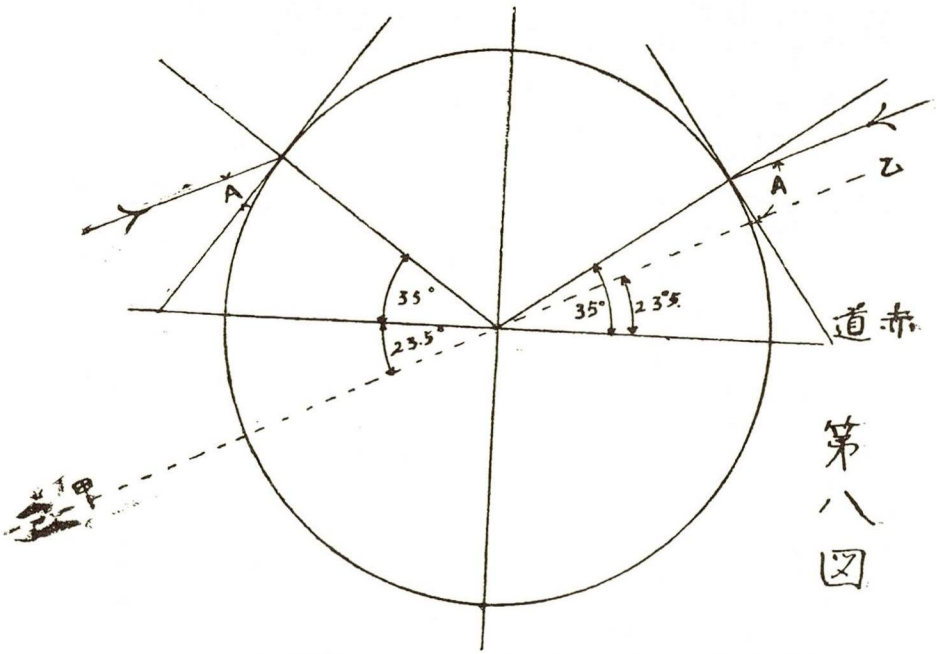
第七図



る樣に仕度いと考へる。例へば四間と五間即ち建坪二十坪の住宅ありとして、二階建軒高四間なりとせば、第五圖の如く少なくとも其周圍に四間の餘地を置き度い。若し道路が三間幅であるならば是を取込むものとして結局九間に十三間即ち百十七坪の土地が必要だとなるので、建物坪數の約六倍に相當するのである。

同じ樣な大さ及び高さの住宅が、幾つも列ぶ住宅經營の如き場合は、第六圖の如く四間の間隔が兩方へ跨つてよいから、一戸の分八十一坪、即ち建物坪數に對する割合は四倍に低減する。一般的に云へば平均五倍、即ち建坪三十坪ならば、百五十坪、三十五坪ならば百七十五坪と云つた樣な割合で敷地の大さを定めるならば、略理想に近いものが得られると思ふ。長屋建に就ては左右の空地が減ずるだけ、ズット敷地は少さくなる割合で、前の例ですれば前面の一間と、後方の四間だけの餘地が殘るだけで、五間と九間、即ち一戸に對して四十五坪、是を建坪二十坪に比すれば二倍二分五厘となるのである。

次に陽當りの關係を少しく記さう。是も空地の間隔を決定するに必要な考へ方で、第七圖の如く甲乙二戸の建物が在つて、乙が甲に比し著く高い場合に、其高さAと間隔Bとの關係を、採光の點から觀察すれば何んな結果になるかを知り度いのである。季節の如何を論ぜず、建物が土臺から全部常に充分な日光に浴するといふ事が、建物殊に住宅の場合に於ては最も必要な問題である。日の高さは季節によりて非常に相異がある。六月二十二日(夏至)が一番角度が高くて、十二月廿二日(冬至)は最も角度が低い、夏至の頃には全面日光に浴する事が出來ても、冬至の頃には間隔如何によつて全然陽が當らないといふ事になり、其間に非常な相異が出て來る。實際何れ位な標準で間隔を決定して置けば、年中充分な日光を受ける事になるか、是が問題である。今大阪に就て云へば大阪市は北緯三十四度から五度の間に跨るのである、から、第八圖に示すが如く太陽が赤道以北二十三度半の位置(乙)即ち夏至の頃には最大七十八度半の角度に高まるが、冬至即ち赤道以南二十三度半



第八図

の位置(甲)の場合はA角は三十一度半即ち約二分一以下に低くなる。是を第七圖のabの關係に計算すると、夏至の日の最も高い時には、A十尺に對してBは僅に二尺あれば、充分日光を甲の建物が受ける。即ちAが五十尺ならばBの間隔は十尺で足りる譯で有るが、冬至の頃となると、A十尺に對しBは十六尺四寸を要する計算で、Aの五十尺に對しては、Bが八十二尺の間隔、即ち少なくとも其高さの一倍半以上を要するのである。即ち大躰に於て經濟的に土地を利用する上に於て、其高さの平均一倍の空地を周圍に置く事が必要であるのみならず、特に季節に關する日光の關係からすれば、著しく高い障害となる樣な建物樹木其他の物があるならば、此場合は其高さの一倍半以上の距離を置いて、建物を配置し度いといふ結論になるのである。

(未完)

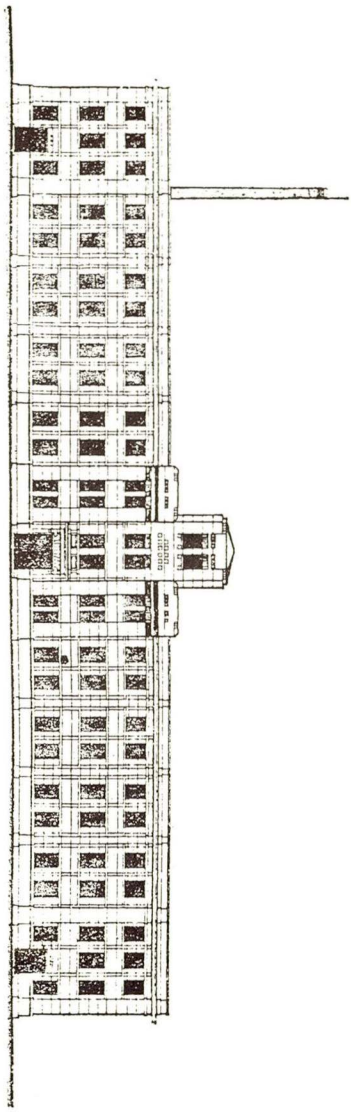


横濱市に於ける『勞働合宿所』

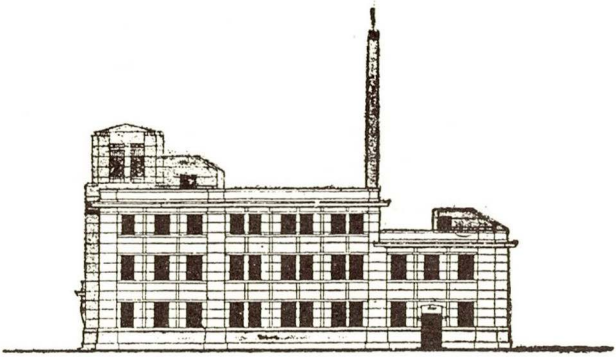
一記者

社團法人の神奈川縣匡濟會が百餘萬圓の特志寄附を募つて大正九年五月に著手した横濱市の模範的勞働合宿所は此一月末迄には大體に於て竣工を告げ遲くも四月初旬には萬般の設備を整へて開所する豫定を以て頻りに工事を急ぎつゝある。

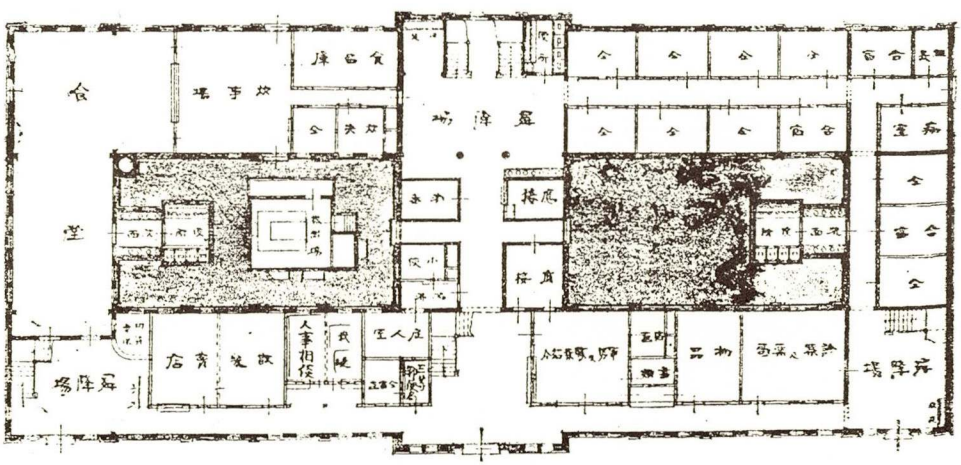
何しろ一日に六百五十人を收容し得るといふ素破らしいもので、建築物に於て斯種のもの中日本一といつて自慢してゐるが、總坪數五百六十三坪、經費四十七萬圓、鐵筋コンクリート總三階の堂々たる建物である。



さて念々開所の上は、長滯留をする勞働者も、一日泊りの勞働者も收容するのであつて、組長と、いふやうな者を置いて自治的の生活を營ましめ、遊びに出掛けて行つたり、無駄費ひをせぬやうに



側面

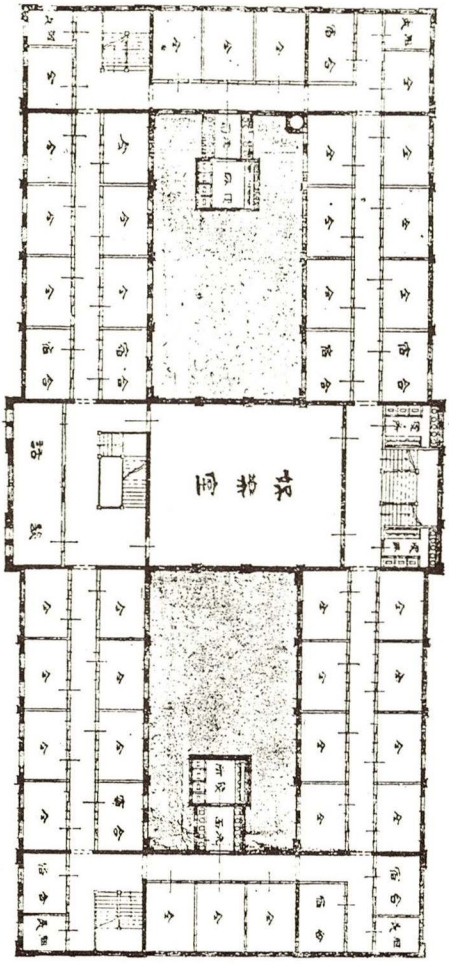


一階

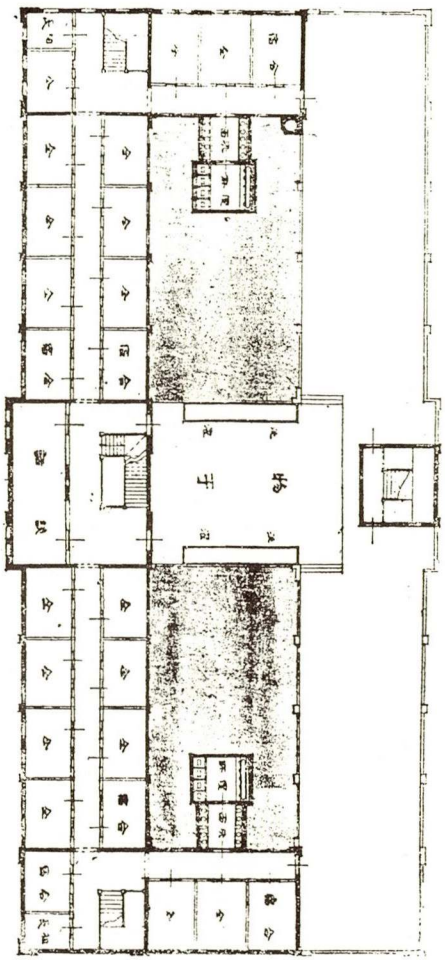
する爲めに、二階中央部に色々な娯樂機關を備へた大きな一室を設けてある。

合宿者の食事は、一階の食堂へ入つて喰ふのだが、この食堂はまた頗る安價簡易食堂とし、合宿者許りでなく一般勞働者乃至下級者の爲めに公開し、一定の料金を支拂つて、誰でも時分どきには自由に食事をとれるやうにして置くそうである。

また二階の一室は完全なる診療所に宛てるが、此處には濟生會から醫師が一定の時間に出張して合宿者の診療は勿論、これもまた一般勞働者の爲めに開放するのである。



此外一階にはまた三等郵便局を設置する事に内定してゐるが、これは勞働者の貯金を主として取扱ふ目的で、如何に貯金を奬勵しても、各々に現金を持たせて舍外へ出してやれば、途中で飮んだり喰つたりする者が出るので、結局は組長とか室長とかいふ者が代表して行くやうな事になるけれども、それでは思ふやうに貯蓄心を高めることは出來ない。矢張り銘々に、現金を持ち通帳を持つて貯金する處から次第に貯蓄心を養ふ傍、彼等の無計算な頭を細かく働かせて行く利益がある爲めだと當局では云つてゐる。





〔庭園〕

日本庭園考（十一畢）

會員　農學士　大屋靈城

七日本庭園の將來

以上十回に亘り、本邦庭園の過去及び現在に就て聊か論じたが尙日本庭園の將來に關し、少しばかり述べて本稿を了りたいと思ふ。

庭園の樣式　から見れば恰も今日の大建築物が十中八九迄西洋建築の樣式を模せるが如く庭園に於ても洋風の設計に出でたものが漸次に增加して行く傾向が見える。然し全く洋風に造られた庭園と云ふものは今日未だ多くを見る事は出來ないが、日本式庭園に洋風を加味せるものは規模の大なるものに於て見られる。かゝる點から觀察すれば將來の庭園樣式は日本趣味を加へた洋風手法に出づるであらう。洋風といつても特に近世彼地に流行せるランドスケープ・ガーデン（風致園）の樣式が我國の造庭界を風靡するものと推察される。換言すれば從來の規矩に捉はれた純日本式庭園は餘りに形式的で餘りに骨董的であり、其の動的方

面を缺で居る爲に將來の日本人の趣味には適せぬ樣に成つて次第に頽れ、比較的形式を輕視し自由で輕快であるランドスケープ・ガーデンの風が歡迎さるゝに違ない。例へば庭木の選擇に於ても枝振りよく屈曲に富む老松の一株を賞するより圓形又は圓鑄形に、こんもりと綠葉の密生したカシやヤマモヽの如きが選まれ擬寶珠の欄桿橋の代りに簡素な板橋が架けられゴツ〳〵と立て並べたる岩組の代りに所々に伏せざまに打ち捨てられたるが如き捨石が置かるゝと云ふ風にコケやヒカケノカヅラの代りにクローバや芝生が用ひらるゝ樣に總てが簡素に快濶に向つて進むであらう。是れが、もつと極端に進むならば庭一面が凸凹に富む芝生となつて小供が自由に寢轉べる日當の良い運動場になるとか建築の周圍がごくハデやかな花壇で賑はされて建物に遠ざかるに從つて木立が增し遂には自然の森林狀態に化すると云ふが如き頗る開放的な技巧の少ない庭の樣式が珍重がられるであらう。時によつたら飛行機で草花や樹木の種子を持つて行つて高い〳〵中空から地上に散布して其の落ちた種子の芽生ゑを樂しんで眺め且つは育てると云ふ如き極端なる自然式庭園の樣式も起らぬとは限るまい。そして從來の純日本式庭園の手法は將來盆栽や盆景と共に益々小規模のものにのみ應用さるゝ事となつて遂には箱庭とか盆栽庭とか云ふ名のもとに、市內の最も空地の狹隘な場所に住む人の娛樂として僅かに餘命を全ふするに至るであらう。そして庭木の如きも多くは鉢植の儘に利用さるゝ事となるべく、四阿、橋梁、亭の如きも多く陶器製の模型を配置するに到るであらう。尙最近建築的の手法が加味されて庭園の樣式が餘程圖案的(ジョーメトリカル)又は形式的(フォールマル)に移る樣な傾向を示して居るが、これも多くは小面積の庭園に限らるゝであらう。例へば觀賞樹木を鉢又は箱に植込んで等距離に一列又は二列に並べるとか庭を日蔭棚の如きで圍むと云ふ如き比較的新らしき手法の如きも多くは歐洲に於て十八世紀以前に流行して既に其の單調なると技工多きとに倦きたるものの糠粕に過ぎないから、この樣式が我造庭界を風靡する迄に流行を見得る

とは思へない。

又彼の運動又は實用を本位としたる庭園式の如きも市内一部の小公園には或は將來多く採用せられんも各自の庭園内に於ては多く其の一部分にこの手法を加味するに過ぎざるべし。歐米に於てもこの庭園の運動化と云ふ事は隨分到るところに叫ばれて居るが芝生迄も潰して運動場にせよと言ふものはない。特に全園に亘りて大花壇を設くると云ふ如き泰西のフォーマル・ガーデン風のものは今日のところ次第に減少するの傾向あるも花叢又は花壇の部分的利用の道は將來益多きを加へんかと考へる。特に園路、又は建物、ベンチ等の近くに於て群をなして植付けらる如き將來必ずや勃興するものであらう。

丁度昔織田豊臣の時代に打ち續いた戰亂の爲に荒び果てた人心を軟げる爲に茶道と云ふものを興しこれを天下に奬勵した爲に庭の樣式に茶庭風と云ふ一種獨特の形式が生まれ而もこれが頗る平民的であつた爲に忽ち市井田夫の間にも賞揚さるゝところと成つて全國の造庭界に一新機軸を招き今迄全く貴族的であつて我國の造庭術が一朝にして平民的に化し庭園の民衆化と云ふ事が實現されたのと同じく近代のデモクラチックの思潮は今日我造◎界にも少なからぬ變動を與したようである。

今日迄大名の邸宅や寺院の方丈に設けられたような頗る嚴めしい壯嚴な幽邃な手組んだ所謂箱庭風の庭園は此後に於ては次第に其の影をひそむるに違ない。其の實證としては戰後東京、大阪、神戸を中心として郊外各所に起されたる時局成功者の別莊園は多く德川の舊態を似ねて造られたる所謂手組んだ庭で彼の秦駝師が祖先傳來の家法を其儘應用して築き上げたるものである。而もこれを眺め利用する別莊園の主人は少くとも近代思潮に後れざる新らしき智識の所有者である。茲に於てか忽ち彼の趣味と彼の庭園の樣式との間に大なる錯誤のある事を看出して居る。爲に今日迄自己の庭園に滿足して眺めて居ない人が此所彼所に澤山ある。殊に大阪、神戸附近に多い。此等の人は早晩この意に滿たざる庭園を破壞して自己の思想と自己の趣味に合致する庭園の再建を思ひ立つであ

らう。そうして新たに彼が造り上げたる庭園の樣式は必ずや余の所謂デモクラチックな『日本趣味を加味した洋風庭園』と云ふものであらう。この樣式は必ずや現代人士の趣味に合致するものに違ゐない。

斯の如くして我國將來の庭園は大正時代を劃すべき一樣式の下に統一するに至るであらう。彼の眞行宜しと云ふが如き德川時代の舊慣を墨守せる造庭師の言ふが儘に自己の庭園の築造を委せたる富豪の覺醒する時代が今來て居るのである。今は我造庭界も大改造の期に到達したのである。丁度今日迄日本の建築物が大工の手に委せられて居たが、單に大工にのみ委ねては時世の要求に適應したる建築物が出來なく成つたと同じ徑路に我國の造庭術も變化しつゝあるのである。如何なる小面積の庭園でも、初めチャンと設計をたてゝ平面圖立面圖と學術的のプロセスを踏まなければ時世に適應した滿足な庭は決して出來ない事に成つて來たのである。

私園と公園

次に公園問題が此頃隨分と囂しく稱へられ市內富豪の庭園等は殆んど强制的に市民の爲に開放を迫られて居る。殊に大都市に於ては庭園稅等を課して極力大面積の私園に制限を加へつゝある。

市內の庭園に課稅するの可否については色々と議論もあるが、要するに斯如くして我國の市內庭園は此所數年の內には滅亡に近き運命を有つて居るようである。然しこれを以て我國私園の衰運なりと見るは早計であらう。住宅の衞生と云ふ點から考ゆると現今の舊都市にある住宅は將來如何に上水下水が完備しても其の周圍に十分の空地を有たない爲に、到底住居に適するものとして存在し得ない爲に日一日と市民の衞生思想が昂上し交通機關が完備されて行くに從ひ市內を遁れて空氣の淸い郊外に居を構ゆる人が多くなり、遂には市內は單に工場、商店、銀行、會社の如き事務的又は勞働的の仕事場に化して市內の屋內に居臥するものは大いに減少もするであらう。斯の傾向は今日と雖も我國の都市に旣に顯はれて居る。然らば人間の住宅は此後田舍に移ると推察して如何なる風

に其の住宅が形成されて行くかと云ふ事を考ゆれば、どうしても西洋の郊外都市（garden sudurb）又は田園都市（garden City）の形式に倣ふものと思はれる。

この田園都市、郊外都市の如きは何れも建物周圍の空地と云ふ事を大變に重要視して一エーカに建つ可き家屋の數（戸數）を制限して居る又田園都市の如きは其の外圍に廣漠たる農地のある事を條件として居る。そして採光通風の關係から建物の四五倍の空地を必ず其の周圍に保ち殊に清淨なる空氣を得んが爲に其の大部分を植込みにして居る即ちこの空地は裸の儘に殘さるゝ事はなく大抵は庭園として設備されてある。而もこの庭園的設備は田園都市並に郊外都市の特徴であり生命である爲にその重要施設として大變に細心の注意が拂はれて設計されて居る。勿論ガーテン・シチーと云ふ意味は庭園を本位とした町と云ふ意味ではなくて田園内に建てられた町と云ふ意味であるが其の庭園的施設は確かにガーテン・シチーの一特徴とされて居る。

我國の郊外住宅が將來斯の如き形式を採つて發展するものとすれば住宅に附隨した庭園即ち私園の運命は決して悲觀すべきものではない。此後益々隆盛に趣く趨勢にあると云はれる。殊にガーデン・シチー其ものゝ施設が既に一大庭園施設（風致的施設）と考へてもよい位のものであるから將來我國の庭園は此の方面に大なる發展を爲し行くものと推せらる。斯の如く論ずれば市内に於ては或は將來日本の庭園は滅亡するかも知れぬが郊外に於ては益々發展し進歩して行くに違ゐない。

次に公園であるが、公園は此後私園以上の發達を見る運命を有つて居る。市内に於ける建物敷地の不足から市内の空地が次第に減少して行く事は都市をして益々非衞生的になしつゝあるものである。從てこの空地の缺陷を補ふべき或ものが必ずや起らなくてはならぬ。而も各戸に是を補ふの餘地がない、今日の場合としては市内では小公園の施設を措いて他にこれを救濟するの途がない。即ち市内小公園は市民の保健機關、運動機關、娯樂機關として將來都市に必要缺くべからざる一施設

となるに違ゐない。又一方郊外に於ても遊歩場、運動場、海水浴場等の如き郊外公園の設けは今後益々企てらるゝに違ゐない。殊に自然と人間との接觸を圖る爲に天然公園、森林公園の如き大規模のもの、若くは本邦固有の山水美を世界に紹介して外客を誘はんとする國有公園の如き何れも近き將來に於て著々として其の實現を看るや明かである。

斯の如く論じ來れば今や本邦の庭園界は一大革新の期に到達して居ると共に將來に於て大なる發展の成運に向ひつゝあるや疑ひを容れない。

この庭園界多端の春に際して建築家、土木家並に園藝家諸氏の一大奮起を促したい爲に聊か日本庭園に關し長々と愚論を吐いた次第である、希は江湖の諸彦諒せられん事を。（終）

尙日本庭園に關し詳細を識らんとする方は東京裳華房發行に係る拙著「庭園の設計と施工」御一讀の程を希望す（大屋）

何事も古き世のみぞ慕はしき。今樣は無下に卑しくこそなり行くめれ。かの木道の工匠の作れる美しき器も、古代の姿こそをかしと見ゆれ。文の詞などにぞ昔の反古（ほうご）どもはいみじき。只云ふ詞、口惜しうこそなりもて行くなれ。古人は車もたげよ、かゝげよ、そこそいひしを、今樣の人は、持てあげよ、かきあげよといふ。主殿寮の人數だてといふべきを、たちあかしろくせよ、といひ最勝講の御聽聞所（ちょうもんどころ）なるをば、御讀經（みどきょう）の廬（ろ）とこそ云ふべきを、かろうといふ。口惜しとぞ古き人の仰せられし。



談叢

茶臼山と大長寺

二男爵邸の『間地』物語

吉村美代子

今度大阪市の都市計畫に伴れて、七種の新稅が設定されるといふことを新聞紙上で知りました。そして當大阪市で、その內の間地稅の最高納稅者が、茶臼山に宏大な邸宅を構へてゐる住友男爵であるといふことも、大阪M——新聞の記事で見ました。そしてその第二位に位する者は、網島の藤田男爵だといふことです。

茶臼山と云ひ、網島と云ひ、兩方共大阪では名所と云はれてゐるやうです。又歷史の上からも同じやうに私達の記憶に深い〳〵感銘を刻んでゐます。——一つは華々しい武張つた、けれども悼ましい大阪人の忘れ得ぬ戰ひの遺跡で、又一つは憫れな、遣る瀨ない、紙屋治兵衛の心中語り——あの名高い近松の淨瑠璃に遺された情話です。この二つの變つた色濃い物語りが、大正の今日『間地稅』の問題に替へられました。

私は泌々と時の流れを思ひます。住友男爵乘用の自動車が、すつしりと治まつてゐるあの格納庫

の邊りに、今から三百余年の昔でした、葵の紋の馬連の馬印は、吹く風にハタ〳〵と靡いてゐたのです。丁度此處が大阪夏の御陣に德川家康の本陣であつたことは誰でも知つてゐることでせう。激しいその時の戰に、眞田勢の先手の爲めに打ち碎かれて戰死を遂げた本多出雲守忠朝が、大きな楯の上に乘せられて、家康の眞前に据ゑられた時、家康は右手を忠朝の額に當てながら、胸迫つて言葉なく涙を流して『子孫萬代繁昌はこの家康が引き受けた』と云つたと聞いてゐます。今考へて見ますと、その忠朝の墓は、只一片の墓石となつて茶臼山麓の一心寺の境内に殘つてゐるだけで、忠朝が夏草を地上に染めた茶臼山が、今の男爵邸に成つていることも、世の變遷とは云ひながら、感慨深いことではありませんか。大阪方の驍將御宿越前の首級を實檢したところも此處なら『只今眞田の首級を越前勢（前田忠直の部隊）が打ち捕りました』と云ふ報告を家康が聽いたのも此處なのです。

――その時、前田越前守は、二萬餘騎を率ひて今の今宮邊から新世界前を東に向つて押して來ました。彼は金覆輪に具を摺つた鞍に跨つて、遠く茶臼山上の馬連の馬印を望み見ながら、天王寺公園電車停留所前に在る閻魔堂のあたりで、馬を立てゝ敵方の樣子を覗んでゐましたが、馬上の越前守は、急に耐え切れない空腹に困つて、鞍の上に在りながら、握り飯を噛つたのださうです。丁度その時、不意に天王寺方面に六文錢の旗が颯とひらめいて、眞田勢の群り起るのを見ました。ソレと云ふや前田の先手がどよめいた、馬上の越前守は、忽ち噛りさしの握り飯を地上に拋つて大聲に命令を飛ばしたのです。目覺しい戰ひは交ちへられました。越前勢や伊達勢は何度も眞田勢に追ひまくられた、が結局幸村はとう〳〵武運盡きて、今の逢坂上ノ町安居天神境内の邊りで、越前方の兵某に自分の首級を授けました。茶臼山の本陣もこの間に何度も動搖しました。家康も危げに見えました。けれども兎に角、斯うして家康はこの茶臼山に凱歌を擧げたのであります。云はゞ德川三百年の眞の發祥は、この茶臼山であつたとも云ふと

が出來ませう。住友男爵家の繁昌は、これから何百年、何千年續くのか、それは判りませんが、兎も角も斯うした由緒ある芽出度い土地にその邸宅を構へられてあることは、何だか、恙しいやうな氣もする、と云ふものでせうか。

* * *

今から二百年程の前になりませうか。あの流れ豊かな淀川に沿うた名勝の一つ、網島の大長寺の本堂で、十夜回向の或る夜、澤山の善男善女の中に交つて、二人の容貌優しい男女が、ほの白い蠟燭の光りすら避けたい風情に俯向きながら、説教に耳傾けてをりました。そしてその説教の終りにも成らぬうち、この二人は、そつと此處をはづして、探〻ながら椽端に下り立つと、やがて闇の中に消えて行きました。

その翌日、若い男女の死體が大長寺の境内に發見けられました。——それは天滿お前町に紙屋を渡世とする治兵衛といふ妻も子もある男と、曾根崎新地の紀の國屋に抱へられた小春といふ美しい女でした。『曾根崎心中天ノ網島』は鴈治郎と福助の歌舞伎劇に依つて大阪の大概の人々がよく覽せられてゐると思ひます。

鯉塚と小春治兵衛の墓で有名な、その網島の大長寺の敷地は、この程、藤田男爵邸の更に宏大された領分として買ひ取られました。戀の一途に命を捨てたこの二人の紅い血は、全く其處に彩られてあるのです。淨瑠璃作者近松が、或る日駕籠に擔がれて、今橋の處を通りすがりに、駕籠かきの噂話を耳にすると、早速大長寺に馳せつけてから筆を採つたといふのがこの『天ノ網島』でありました。

小春治兵衛が死んだ日は、享保五年十月十日としるされてあります　又、二人が情死の當時、懐中してゐたとかいふ遺書が、今も猶同寺に保存されてゐると聞いてゐます。

『……よねが情の底深き、これかや戀の海を、かへも干されぬ蜆川……』と書き出した近松の筆が『……たとへこの軀は鳶烏につゝかれても、二人の魂つき纏り、地獄へも極樂へも連れ立つて……』と丁つて綾爛なこの世話物淨瑠璃は非常に大當りだつたと云ひます。

近松はその時筆を執りながら、今日の時勢を夢にでも想像したでせうか。梅川忠兵衛の冥途の飛脚や、嘉平次おさかの生玉心中を書く時、若し彼に今日の都市計畫案を說いて聽かせたら、この藝術家はどんなに圓い眼をして愕いたことでせう。

私の經驗した
郊外生活と購賣組合

大阪朝日新聞社編輯局長
高原操氏夫人
高原時子

ごみ〳〵した大阪を遁れて只今の池田室町に移りましてから丁度もう十年になりました。十年の郊外生活を顧みますと、私は其處に色々の謝さなければならない多くの、所謂郊外生活者の餘得とも云ふべきものを見出します。轉宅の當時七才の長女は早や十七才になつてもうすぐ女學校をも卒へることになりました。その下には六人の子供達が健やかに育まれてゐます。まだ幼い子供達七人の母親としては私は可なりに忙しい日常を送ります。けれども七人の子供は、皆元氣に、それは無邪氣に育つてゆきます。彼等の兩頰は林檎のやうに肥えて紅く輝いてゐます。手も足も眞赤にはち切れるやうなくゝれた肉をつけてゐます。然うして有り餘る一ぱいの力を持て餘しては家中をあばれてをります。私はその子供達の健康が、十年の郊外生活中、何よりもの惠まれた寶だと存じますが實際この靜かな郊外に斯うして不安なく浸つてゐますと、私はもうあの喧騷に滿ちた都會の渦中には、到底一日も絕ねなからうと思ふのです。偶々買物がてらの用を控へて大阪迄出ました日は、漸く歸宅して私の頭腦や軀が大變虐げられた疲勞を感じてゐることに驚きます。私自身でもこちらに來ましてから大變に丈夫になりました。大阪にゐた頃は殆んど習慣のやうに月一回は家内の誰れかゞ醫者の世話になつてゐました。それが只今では、もう弱々しい不健全な者は一人もゐなくなりました。それ程にこの郊外の生活は私共を幸福にしてゐます。

都の友達からは何かにつけて不便ではないかとよく訊かれます。しかし、馴れては日常の事にも

勘しも不便だと思つた事を知りません。大抵の用は差支へない迄に纏めて出來るやうですので、時々大阪に出かけたついで等、あれこれと準序をつけて致しますが、私はそれを反つて心易く思つてをります。

日常生活の改善を幾分でも實行してみたいといふ希望で、室町にも購買組合を拵へてみました。それは私達婦人の本當の熱心な要求と努力で生み出したものでございます。商品は、日用臺所の材料——米、炭、薪、醬油、酒、酢等で其外簡單な化粧品、小間物等商つてをります。去年の四月から今日迄、多少不熟れの點もありましたが、漸く運びにも準序立つて來ました。私達はせめて私達に直接關係のある手元から少しづゝでもいゝ事は實行してみたいといふ望みに外なりません。それで最初は、隨分方々の家庭も戸別訪問して、私達の趣意に賛成を願ひ、加入を求めたりも致した。只今では幸に新市街室町全部（内に一二の例外を除いて）の家庭が、この購買組合の結束の下につながつてをります。その方法は、室町倶樂部を事務所に當てゝその擔當者にお願して二三の事務員の方達に商品の賣捌は引き受けてもらひました。資本は、各加入者の家族數に比例して株にしてをります。この方法で一番危險なのは、會計の方法で、よく間違へば持ち遁げ等される例もあるとかきゝましたが、幸にそれは、或る銀行にお願して金錢の監督は締めてもらうことに致しました。なるべく、總べての物品を薄利に確實に頒たうといふのが第一の目的ですので、卸商や問屋との交渉もまだ純理想的に完全と迄はゆきませんが、だん〳〵とこの基礎を固めてゆきたいと希つてゐます。之迄の舊市街から取り寄せてゐた惰性に、抜け目ない小賣商人の掛引などからんで、價格ばかりの競爭から、目方の上で瞞着されてゐることも心付かない奥樣もあつたり、私等の趣意が理解されなかつたり、一時はかなりの困難も感じましたしかし、只今は、大方の人達がこの組合の便利さや確實さを眞に喜ぶやうになりました。事務員の人達も、賣上高の歩合を配當する方法にしましたので、大變に熱心に自分のものとして働いてくれます。櫻井の方に住む私の知人の奥樣は、私達女ばかりで努力したこの仕事の成功を、御自分の方に比べて驚くと云つてゐられました。

兎に角、私達郊外生活者が自分達の感じた必要から思ひ立つたこの仕事が、どうやら形を整へてくれましたことは本當に嬉しいことであり愉快なのでございます。



〔藻苑〕

小品文募集

人物試驗

早稻田大學建築科教室　新津無外

寡むさい無氣力な、些の好もしい處を見出し得ぬ、おづ〳〵した眼の小男を見たとき、私の直感は即時に落第を宣して仕舞つた。

妙に改まつた物ごしに小商人らしく型づけられたお人好の應答は、一層の嫌惡を感ぜしめられて、欺かれた樣なくやしさが胸を衝いた。

「あんな男に何んで愛する姪の配たる資格があらうか」それにしても大商店の立派な支配人らしく修飾して話したためにはや成立に近い迄に此緣談を進ましめた仲人なるものの無責任さ——私はふと幼ない姪を連れてのどかな春野を散策した一光景（シイン）を思ひ浮めつゝ、危ふくも一生を塞無しにせやうとした世の多くの女の運命を深く考へざるを得なかつた。

ペンの走るまゝ　（二）

蘆田秋双

此間桃支君と三國に朝草庵を訪れた時の事である。

冬ざれの廣庭に面した座敷の軒に、雲雀の籠が吊されて、その中に雲雀が寒さうに餌をつゝいてゐた。

「あの雲雀は鳴きますか」

桃支君が訊くと、千枝女さんは

「ヘエ鳴くんですよ、而も元日から鳴いてゐます」と答へて更に

「妾、それを句にしやうと思つたんですが、何んだか元日に雲雀が鳴くといふことが不調和だと思つてやめました」と云つたので、桃支君は

「それを句にすれば面白いのですよ、一寸きくと不調和のやうですが、併し事實であれば、それでよいではありませんか、その不調和の處に却つて面白味があるのですよ」

といつたに對して、千枝女さんは、稍腑に落ちんやうな顏であつたから私は桃支君に代つて左の如き意味の事を云つた、

「今の桃支君の言は首肯すべきものと思ふ」

元日といへば、すぐ芽出度いものとして、句作する場合何んでも斯でも芽出度いものにして了ひ、芽出度いもの、中から詩材を捉へやうとする態度は餘りに季題趣味に囚はれてゐる。元日を芽出度いものとするのは永久的趣味で、假に元日に自宅に病人とか死人が出來た場合は決して芽出度いものでないのは無論である。その時猶芽出度いやうに句作すれば虛僞である。その時はその時の實感を詠すればよいのである。それを刹那的趣味といふ。だから元日に籠の雲雀が鳴いたといふことに趣味を感じたならば、何も季題趣味に拘泥することなくそれをそのまゝ句にすればよいのである。」云々、

× × × × ×

課題俳句

屋根（春季）

蘆田秋双選

屋根千に平家蟹賣る茶店哉　幽谷
板屋根のそりし茶店や春の風　同
大屋根の廣き伽羅や木蓮花　同
屋根廂割木積まれて殘る雪　鳩口
一望は屋根に果てなく東風渡る　同
堂の屋根うらら鳩の飛べるかな　同
屋根の漏り繕ふ人に春日哉　秋聲
屋根すべり落ちし子雀鳴きにけり　同
屋根にもの捨てるを叱る春日哉　同
春の雨屋根から屋根へ飛ぶ雀　草人
屋根歩りく足音に冴え返りけり　同
屋根低き家に住みけり桃の花　同
屋根に睡る猫に燦や桃の花　水明
梯子して屋根に上るや桃の花　同
屋根撫でる柳は青み來りけり　同
屋根屋睡たき顏らかな日となりにけり　同
椿の實賣りて屋根葺く社かな　無外
屋根葺きに椿の島へ渡りけり　同
屋根葺きに晝餉呼ばるゝ田打哉　同

春寒く屋根剝がれたる御堂かな　同
養兎舎の屋根低う草陽炎へる　同
春の人屋根に登りて唄ひけり　同
汽車の屋根雪のせて來し餘寒かな　放郎
洛中の屋根淡雪の濡らしけり　同
麗かや屋根に見て居る宮相撲　同
山迫る事務所の屋根に雉子來鳴く　同
蘚苔の屋根皆古し桃の村　同
山寺の屋根の落葉や春の雨　同
屋根にある筧の雫冴え返る　木羊
風の糸屋根すらせじと手繰りけり　同
大屋根に布團干しある春日かな　同
裏屋根に庭の狹さを梅の花　同
東風の屋根洗濯物の吹かれある　同
東風の屋根鳩一列に並び居る　同
山を焼く火影に屋根は光るかな　同
水車場の屋根に花さく蕎かな　同
高臺に屋根の低さや落椿　同

人

洛中の屋根淡雪の濡らしけり　放郎

地

大屋根に布團干あしろ昼日かな　木羊

天

屋根屋睡たき麗かな日となりにけり　水明

選者曰

垂根を掃く埃を浴びて椿かな

稿を募る

漫錄、隨筆、紀行文、其他文藝に關する玉稿歡迎

掲載せるものには相當の報酬を呈す

投稿は左の處へ

大阪市北區東梅ヶ枝町

秋田蘆双

「時報」



法令

今期議會に提出されたる建築會社法案並に住宅組合法案左の如し

◉建築會社法案

第一條　建築會社ハ廉價ニシテ衛生ニ適スル住宅ノ供給ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條　本法ニ依リ設立スル建築會社ハ株式會社トシ都市計畫法ヲ施行スル市ニ付キ一會社ニ限ル、但土地ノ狀況ニ依リ內務大臣營業區域ヲ指定シテ二以上ヲ置ク事ヲ得

第三條　建築會社ハ左ノ事業ヲ營ム

一、建築敷地ノ造成賃貸又ハ賣却

二、住宅ノ建築賃貸管理又ハ賣却

三、前二項ノ事業ノ爲必要ナル公益的設備ノ建設若クハ其請負又ハ管理

建築會社ハ一團地ノ住宅經營ヲ爲ス場合ニ限リ內務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ外第一條ノ目的ヲ達スル爲必要ナル公共事務ヲ處理スルコトヲ得

第四條　內務大臣必要ト認ムル時ハ建築會社ニ對シ期間ヲ指定シ住宅ノ建築ヲ命ズルコトヲ得

第五條　建築會社ノ資本ハ左ノ二種ニ分ツ

甲種株式　國及ヒ第二條ノ市ノ引受クル株式

乙種株式　一般ノ引受クル株式

國及ヒ前條ノ市ハ各株式ノ四分ノ一ヲ下ルヲ得ス

市ノ株式ハ之ヲ離權スルコトヲ得ス但內務大臣ノ許可ヲ受ケタル時ハ此ノ限ニアラス

第六條　建築會社ハ拂込資本金ノ十倍ニ限リ建築債券ヲ發行スルコトヲ得

第七條　建築債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割增金ヲ附與スルコトヲ得

第八條　國ノ第五條ノ市ハ各建築會社ニ對シ會社成立後十年間拂込資本金ノ百分ノ三ヲ限度トシテ乙種株式ニ對シ配當率年六步ニ達スル迄等合ノ割分ヲ以テ補給ス

第九條　建築會社ハ一團地ノ住宅經營ヲ爲ス場合ニ限リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ土地收用法ノ規定ニヨリ其ノ事業ノ目的ニ必要ナル土地ヲ收用スルコトヲ得

前項ノ適用ニ關シ建築會社ノ事業ハ之ヲ公益事業ト見做ス

第一項ニ依リ收用シタル土地ニハ土地收

用法第六十六條ノ規定ヲ適用セス

第十條　第三項第二項ノ場合ニハ國及ヒ公共團體ハ建築會社ノ供給スル住宅及ヒ其ノ敷地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ輕減シ若クハ之ヲ免除スルコトヲ得

建築會社ハ前項ニ依ル公課減免ヲ得タル時ハ之ニ該當スル金額ヲ積ミ立テ第三條第二項ノ費用ニ充ツヘシ

第十一條　建築會社ハ其ノ所有スル建築物ニ就キ每營業年度減價銷却ヲ爲スヘシ

第十二條　建築會社ハ每營業年度ノ利益金中ヨリ資本ノ缺損ヲ補フ爲準備金トシテ利益金百分ノ八以上ヲ配當平均準備金トシテ利益金ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第十三條　建築會社ハ前條ノ準備金ヲ除キタル利益金中ヨリ先ツ乙種株式ニ對シ年六步ノ配當ヲ爲シタル後ニ於テ甲種株式ニ對シ年六步ノ配當ニ達スル迄配當ヲ爲シ尙剩餘アル時ハ年二步ニ達スル迄乙種株式ニ對シ追加配當ヲ爲スコトヲ得

第十四條　留保利益金ノ振替ヲ以テ增資ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ增資振當額中ヨリ先ツ國及ヒ第五條ノ市ニ對シ各從來ノ配當補給支出額ノ金額ニ達スル迄其ノ支出金額ニ比例シテ無償ニテ甲種新株券ヲ交附スヘシ

第十五條　前條ノ當ヲ施シタル殘金ノ增資振當金ハ甲種株主ト乙種株主ニ平等ニ割當テ增資拂込金ニ充當スヘシ

第十六條　內務大臣ハ建築會社ノ業務ヲ監督ス

第十七條　建築會社ノ定款ハ內務大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更スル時亦同シ

第十八條　建築會社ノ供給スル住宅ハ主トシテ賃金又ハ給料ニ依リ衣食スル者ニ供給スルヲ要ス

第十九條　內務大臣ハ建築會社ノ營業上法令又ハ定款ニ背反シ若クハ公益ヲ害スル事件アリタリト認ムル時ハ之ヲ停止スヘシ

第二十條　建築會社ハ內務大臣ノ命令ニ從ヒ其營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十一條　政府ハ特ニ內務省又ハ第五條ノ市ヲ管理スル地方廳ノ高等官中ヨリ建築會社監理官ヲ命シ內務大臣ノ指揮ヲ承ケ建築會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十二條　建築會社監督官ハ何時ニテモ建築會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムル事ヲ得

建築會社監理官ハ株主總會其他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スル事ヲ得但議決ノ數ニ加ハル事ヲ得ス

第二十三條　內務大臣ハ前數條ノ外建築會社ノ監督上必要ナル命令ヲ發スル事ヲ得

第二十四條　建築會社ニテ左ノ事犯アリタル時ハ取締役ヲ五千圓以下五百圓以上ノ科料ニ處ス

一、第四條ノ命ニ從ハサル時

二、第六條、第九條、第十條第二項、第十三條乃至第十五條、第十七條及第十八條ノ規定ニ違反シタル時

三、正當ノ理由ナクシテ減價銷却ヲ爲サス又ハ第十二條ノ積立ヲ爲ササル時

附　則

第二十五條　政府ハ設立委員ヲ置キ建築會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十六條　設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ受ケタル後株式ヲ募集ス

第二十七條　設立委員ハ株式ノ募集ヲ終リタル時ハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ建築

會社設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前條ノ認可ヲ受ケタル時ハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付條一回ノ拂込ヲ爲サシムル事ヲ要ス

第二十八條　創立總會終結シタル時ハ設立委員ハ其事務ヲ建築會社ニ引渡スヘシ

㊁住宅法案

第一條　住宅組合ハ組合員ニ其ノ住宅ヲ供給スルヲ以テ目的トス

第二條　住宅ト稱スルハ住居ノ用ニ供スル家屋及其ノ附屬設備ヲ云フ附屬設備ノ種類範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　住宅組合ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

(一)住宅用地ノ造成(二)住宅ノ建設購入讓渡(三)住宅ノ管理其他組合ノ目的ヲ達スル爲必要ナル事項

第四條　住宅組合ハ公益ニ關シ社團法人トシ本法ニ規程スルモノヲ除ク外民法中社團法人ニ關スル規程ヲ適用ス

第五條　住宅組合カ組合財産ヲ以テ債務ヲ完濟スルコト能ハサル時ハ組合員其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第六條　住宅組合ハ名稱中ニ住宅組合トノコトヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ住宅組合ニアラサルモノ名稱中ニ住宅ノ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第七條　住宅組合ハ二十人以上ニアラサレハ是ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條　住宅組合ヲ設立セントスルモノハ定款及事業計畫書ヲ添ヘ內務大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第九條　住宅組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

(一)名稱(二)事務所(三)組合員出資ノ金額及其ノ拂込ニ關スル規程(四)組合員第一回拂込金額ニ關スル規程(五)準備金積立方法ニ關スル規程(六)組合員ノ資格並ニ加入及脫退ニ關スル規程(七)理事監督ノ選任及解任ニ關スル規程(八)會議ニ關スル規程(九)事業執行ニ關スル規程(　)剩餘金處分損失分擔ニ關スル規程(十一)存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタル時ハ其ノ時期又ハ事由

第十條　住宅組合設立許可ヲ受ケタル時ハ遲滯ナク組合員ヲシテ第一回拂込ヲ爲サシムヘシ

第十一條　住宅組合登記事項左ノ如シ

(一)第九條第一號乃至第四號及第十一條ニ揭ケタル事項(二)設立許可ノ年月日(三)理事及幹事ノ氏名

第十二條　組合員ノ出資額ハ住宅一戶ヲ建設シ得ヘキ金額タルコトヲ要ス其ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　組合員ノ供給ヲ受クヘキ住宅ハ一人一戶ニ限ルモノトス一戶ト稱スルハ相互交通シ得ヘカラサル隔壁ヲ以テ區劃セラレ一箇所以上ノ出入口ヲ專有スルモノ及其ノ附屬設備ヲ云フ

第十四條　組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資ニ就キ相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條　組合員ハ組合ノ承認アルニアラサレハ其ノ組合ニ對シテ有スル權利ヲ讓渡スルコトヲ得ス組合員ニアラサル者前項ノ權利ヲ讓リ受ケタル時ハ組合ニ加入シタルモノトシ權利ニ附隨スル前者ノ義務ヲ承繼ス

第十六條　新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ就キ其ノ責ニ任ス

第十七條　脫退シタル組名員ハ定款ノ定ム

ル所ニ依リ出資ノ全部ニ就キ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　組合ハ組合員ノ組合ニ對スル權利ヲ取得シ又ハ其權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第十九條　組合ハ組合員第一條ノ拂込ヲ了リタルモノニ對シ定款ノ定ムル所ニ依リ住宅ノ供給ヲ爲スコトヲ得

第二十條　前條ノ規程ニ依リ所有權ヲ移轉シタル場合ニ於テ出資拂込完了ニ至ル間左ノ條項ノ一ニ該當スル時ハ所有權ハ組合ニ復歸ス

(一)出資拂込ノ事務ヲ怠リタル時(二)組合ノ定ムル使用條件ニ違背シタル時(三)家資分散又ハ破産ノ宣告アリタル時(四)住宅ノ管理者ナキニ至リタル時(五)組合ノ承認ヲ得スシテ自ラ居住セサル時

第二十一條　組合員ハ住宅所有權取得後十箇年間ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス但シ組合ニ讓渡ス場合ハ此限リニアラス

第二十二條　住宅ハ定款ノ定ムル所ニ依リ火災保險ニ附スルコトヲ要ス

第二十三條　住宅ニ關シテハ組合ノ所有ニ屬スル間地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二十四條　組合ノ供給スル住宅ニ關シテハ登錄稅印紙稅ヲ免除ス

第二十五條　住宅供給事業ノ爲メ土地ヲ收用スルノ必要アル時ハ現ニ建築ノ用ニ供セサル時ニ限リ土地收用法ノ規定ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

但シ收用期間ハ三十箇年トヌ

本法ニ依リ收用シタル時ハ期間中ト雖モ他ノ公用ニ收用又ハ使用スルコトヲ妨ケス

第二十六條　本法ニ依ル住宅ニ就イテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ノ定ムルモノヽ外ノ市街地建築物ニ關スル規定ニ從フ

第二十七條　住宅組合ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルニアラサレハ解散又ハ合併ヲ爲スヲ得ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

參　考

左ノ交涉事項ハ經營組合法制定上必要ナルモノトス

住宅建築組合ハ其所有住宅ヲ抵當トシ家屋ノ時價五分ノ四ニ當相スル金額ヲ左ニ揭ケタル銀行若クハ會社ヨリ左記利率以內ニテ年賦償還ノ方法ニ依リ長期ノ借入ヲ爲ス事ヲ得

日本勸業銀行　分　厘

保險會社　分　厘

都市計畫

◉都市計畫事業案變更

一月十日府廳に於て開會せし都市計劃大阪地方委員常務委員會に委員關市助役より提出したる事業施行年度割修正案は原案なる大正九年度二百三十萬圓
大正十年度以降十五年度迄　毎年度二千二百九十萬圓
を修正して
大正十年度　六百六十萬五千圓
大正十一年度　千八百八十三萬五千圓
大正十二年度　二千二百九十萬圓
大正十三年度　二千二百九十萬圓
大正十四年度　二千二百九十萬圓
大正十五年度　二千二百七十五萬圓
大正十六年度　二千二百九十萬圓
となすに在りて即ち當初の計畫なりし大正九年度の事業は最早實施すべき暇なきを以て之を止め繼續支出年度を大正十六年迄延期して十年度を初年度に變更すると同時に原案の十一年度事業の一部を繰上げんとするものにして此結果初年度即ち十年度の事業は左の如し

(一)日本橋三丁目より惠美須町に至る現在の八間幅の電車路を十二間幅に擴築す
(二)下味原町より市郡界に至る十一間幅の道路新設
(三)天王寺悲田院町より市郡界に至る（奈良街道の一部）十間幅道路新設

右に對し委員は提出者及幹事との間に質問應答を重ねたるも結局常務委員會としては未だ何等議決等に就き委任せられ居らずして權能を有せざれば此際意見を附するなく委員會に讓る事となり

都市施設

◉大阪上水道新事業

大阪市水道部の特別豫算は既に査定を終り一月十四日の市參事會に提出されしが豫算總額三百六十六萬餘圓にして其中百五十七萬餘圓は公債組替費に充て經常部百四十四萬餘圓、臨時部歲出六十五萬餘圓を計上せり此れを前年度の豫算總額三百一萬餘圓に比すれば六十五萬餘圓の增額を示せるが是れ公債組替に二十五萬圓、臨時部に四十萬餘圓を增額したるに由る而して本年度の新事業としては主として配水管の增設並に改造にして

▲大正橋湊町間▲淀屋橋葭屋橋間▲長堀橋日本橋三丁目間

の如き都市計畫の結果鋪裝さるゝ道路は從來の車道に埋設せる給水管を西側の人道に移し火災時の急に應じ且つ給水の便を增す計畫なるが尙ほ

▲本町橋信濃橋間▲堀川櫻橋交叉點間▲出入橋福島中三丁目間▲船津橋野田間の一部分▲本田二丁目交叉點國津橋間▲阿陪野橋玉造間▲大正橋木津川運河間の一部分▲尻無川の左岸築港の大道路の一部の各電車線路にも同樣の施設を爲す可く▲立賣橋松島橋間▲大正橋深里橋間▲安治川入津料取立所天保山間▲築港福町の一部

從前の給水管を擴大又は新設工を施すべしと

◉道路鋪裝防腐法

大阪市にては都市計畫事業の着手目睫の間に迫りたるに木道鋪裝の主要材料たるクレオソート油の缺乏甚だしく東京市より米國



日本建築協會々員藤田龍三氏、大正九年十一月十七日午後三時を以て永眠せらる氏や、年齢僅に二十二、其頗る前途に富みて漸く献替の生涯に、初一方を印し、而して今や亡し、痛惜焉ぞ耐へむ。殊に日本建築協會が、客秋第三回秋季大會を催すや、氏も亦參列者として、古刹法隆寺に於ける紀念撮影の中に、其希望に輝げる風姿を印しぬ、而して去ること二旬に滿たず、眞に永久の偲びを貽す紀念の撮影とは成りき、噫。今、此處に氏の英照を揚げ、附するに、其概歴を以てし、謹で哀悼の誠意を捧ぐ。

氏は、大阪市東區內本町一丁目二十二番地藤田多三郎氏の長男、明治三十二年十一月二十六日生、大正七年三月大阪市立工業學校建築科を卒へ、同年四月大阪市西區境川町久保田工務所に就職、大正八年六月大阪市東區北濱四丁目宗建築事務所に轉じ、爾來建築設計及び現場督監に從事せり。

に同油の買入に關して問合せをなしたる際の如き日本に在る限りのクレオソート油を米國に購入し米國よりアスファルトを送るべしとの回答ありし程なれば世界を通じてクレオソート油の缺乏に惱める事を察し得らるゝ譯なるが一月十七日獨逸プロシヤ鐵道技師たりしベック、ファーレンの二氏來阪關助役、水技師長、岩田土木部長、松田道路課長等と會見、現下獨逸に於ける最新防腐方法に付き其詳細を說明した

右方法は現今我國に行はるゝ防腐方法の正反對を行くものにして先づ其木質に依りて注入すべき藥液の分量及成分を決定し注入方法は在來空氣を排除して眞空となしたるを反對に空氣を高壓にて注入し木材纖維の間に藥液の通過すべき路を作り置き次で同じ壓力にてタールを原料とせる藥液を注入して木質内の蛋白質を不溶解質のものに變化せしめ腐敗の原因たる蛋白質を排除し全然水分の透入を防止する方法を講ずるものなりと

會告

波江悌夫氏の『太西洋を見る日まで』は、愈々佳境に入りしが、本月締切の間に合はざりし爲一回休載、來月より續載することとせり讀者の御諒恕を乞ふ。



會報

編輯

▲本號より、表紙の挿圖の体裁を亦少々變へました、是は本邦の雜誌としては、新しい試みで厶います、まあ當分續けまして成功の域に進み度いと考へて居ります、會員各位や讀者諸氏よりも、是に適當するような何か目新らしいものがあらば、御寄せを願ひます。

▲頁を少々減しましたけれども、其代り内容に一層力を用ひました、來月號より亦一段と内容の刷新を圖る考へで厶います、斯くて、編輯當局者は、絶へず革新的進歩を圖つて居りますから、會員各位もどうぞ御氣附の點や御批評を寄せて被下い。

會合

◉理事會

▲日時　一月七日午後四時半——七時

▲會場　日本建築協會事務所

▲出席者　葛野、池田、平井、吉木、瀬戸、波江、吉井、松本、横濱新舊理事出席

▲記事　(一)一月例會を十七日に開き大正九年會務、同會計各報告、大正十年度豫算審議をなす事(二)同日大阪望業株式會社技師長谷口德政氏に講演を依頼する事(三)普通、特別各贊助員は、將來主記に於て詮衡の上報告をなす事(四)其他雜件三項を議決、(五)改選後の理事中理事長及事務分擔に就て別項の通り互選せり

◉會頭、副會頭、新入會員詮衡會

▲日時　一月十四日午後五時——八時半

▲會場　日本建築協會事務所

▲出席　宗、井橋、瀬戸、波江、横濱、小笠原、吉木、葛野、吉井、大林の新舊理事及委員

▲記事　大正九年度最終例會の決議に基き會頭、副會頭の詮衡、並に別項の通り新入會員の詮衡をなせり。

◉例會

▲日時　一月十七日午後六時——九時

▲會場　日本建築協會事務所

▲出席　横濱勉、宗兵藏、森萬次郎、吉木久吉、波江悦夫、阪井米吉、藤井庄作、葛野壯一郎、瀬戸文吾、能村知二、中西甚作、久保田繁亮、高堂德治、前田武正、吉井長七、八尾德太郎、坪井誠一、岡本新次郎、森正藏、光安榮之助、永野房吉、井橋喜一、小松靜、安部萬助、福永佐和吉、武田經一、伊藤憲一郎、川崎源熊、小川久太、土居原龜之助、山本磯十郎、大林賢四郎、島田貢譽、谷民藏、(以上會員)、森西龍太郎、松久保孜三、雙田萬次、山田初次、木越政二郎、齋藤又吉、左谷米三郎、南部治房、

高岡與三吉、若宮虎吉、杉田新五郎
守山雁藏、伊藤重雄、藤本賢太郎、
村上秀二（以上普通贊助員）

▲記事
（一）大正九年度事務　決算報告
（二）新入會員の報告（三）了つて、
谷口大阪望業技師長の講演ありたり

役員

別記の理事長理事擔任事務に就て互選し左の通り就任を旅たり

理事長　葛野理事
主記　波江理事
主計　瀨戸理事
編輯　横濱、小笠原、吉井各理事

職員

越山書記及渡島書記辭任、武波泰氏會計書記として就任

會員消息

◎歸朝

豫て米國又は歐米視察中の片岡安氏、渡邊節氏、齊藤久孝氏は、孰も無事歸朝されたり

◎漫遊

會員木子七郎氏は、二月下旬出發、歐米漫遊の途に就かるゝ由。

◎新入會員

（普通贊助員）
四田榮一氏、上野佐一氏、大槻定夫氏、高井久治氏、遠藤三次郎氏、田中定次郎氏
小村清三郎氏、泉川眞盾氏、小橋重作氏
小谷豐治氏、山本直氏
（會員）河村一太郎氏

◎轉任

（普贊）楠田實氏　兵庫縣廳都市計劃課へ
（會員）山田靜氏　大阪府廳營繕課へ
（特贊）武安笑吾氏　新旅順關東廳民政部土木課へ

◎住所移轉

森山　伊望氏　東京市京橋區新富町四ノ九
高松吉三郎氏　東京市麻布區市兵衛町二ノ四六
伊藤　英一氏　奈良縣吉野郡吉野村飯貝
松田　茂樹氏　和歌山縣那賀郡名手町
岡村德一郎氏　大垣市東長町一〇四三番地
呼子　正氏　大阪府豐能郡豐市村新兎十四番地
牛村　喜勇氏　兵庫縣武庫郡東明三三七
久保田種吉氏　大阪市東區神崎町五十番地
武安　笑吾氏　新旅順千歲町二十五番地皎寮內
中村　一三氏　京都府新舞鶴九條通八島南八五三四
植村　佐則氏　兵庫縣川邊郡伊丹町小路町七二〇
古屋　信夫氏　神戸市北長狹通二丁目一一三藤原商店內
高木　直充氏　三重縣四日市市南町米倉工場所內
中村　昌三氏　大阪府東成郡天王寺村天王寺下ノ森三四〇番地ノ一三

◎逝去

普通贊助員　吉田兵藏氏は一月九日突然逝去せらる哀悼の至りに禁へず

寄贈圖書

庭園　一月號　（庭園協會）
建築世界　一月號　（其社）
住宅　一月號　（住宅改良會）
材木新聞（每號）
新住宅　一月號　（洪洋社）
日本金屬新聞　每號　（其社）
工業之友　第一六三號（工手學校同窓會）
工業之日本　第十八卷第一號（其社）
電氣學會雜誌　第三九〇號（其會）
建築と新材料　第二卷一月號（其社）
平民建築　第一卷十二月號　（帝國工業教育會）
住宅研究　第一卷第一號　（住宅改造會）
農家三友　二月號　（其社）

役員及職員

理事（理事長）	葛野壯一郎
理事（主記）	波江悌夫
理事（主計）	瀬戸文吾
理事（編輯）	横濱勉
理事（編輯）	小笠原鈞
理事（編輯）	吉井長七
理事	池田寶
理事	吉木久吉
理事	松本禹象
理事	平井三郎
編輯補	佐藤四郎
書記	江村郊邨
書記	武波泰
書記	山崎萬壽夫

會員	一九六	會員（地方）	六四
名譽賛助員	六〇	終身賛助員	四八
特別賛助員	一二	普通賛助員	三三六
合計	七一六		

本誌

冊數	定價	郵稅
一冊	金五拾錢	貳錢
十二冊	六圓	貳拾四錢

大正十年二月八日印刷（毎月壹回）
大正十年二月十日發行（一日發行）

大阪市大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人 江村恒一
兼印刷人
大阪市東區內淡路町二丁目卅一番地
印刷所 大阪活版所
大阪市西區京町堀上通一丁目不動貯金銀行ビルデインヂ内
發行所 日本建築協會
電話 土佐堀四、二九三番
振替口座大阪三九、九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店 柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

本誌及廣告料定價表

廣告	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁ヲ料金一定シアリ御照會アリ度シ

●第四集　第二号　掲載広告一覧（掲載順）

浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
国枝工務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
茂、野村建築事務所
設楽建築工務所

池田勘蔵
橋本料左衛門商店
大倉土木組大阪出張所
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
熊取谷熊次郎
山本組
松井工務店
松村組
山縣組
藤木正一
鴻池組
小西組
安藤組大阪出張所
木村組
清水組大阪支店

清水工務店
銭高組
久原鉱業大阪出張所
吉田鹿之助商店
山田大理石製作所
矢橋商店
高田商会
日本商会
須賀商会
日本電飾
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業

砂崎
村井工業所
大阪金物商会
山本コンベス商会
大野正営業所
野沢幸三郎商店
日本石綿盤製造
有田製陶所
宇野沢組ステインド硝子製作所
東京建鉄大阪支店
高田商会銀座販売店
浅野スレート大阪出張所
大阪窯業
日本水道衛生工事
銀座建築用品店
共同建材製作所
明正社
コルク工業
東京電気

鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
川崎工場
北木島石材大阪出張所
横河橋梁製作所
極東硝子工業